

証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定

(2023 年度)

2023 年 10 月

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
ディスクロージャー研究会



ディスクロージャー研究会委員

座長	許斐 潤	野村證券
座長代理	伊藤 敏憲	伊藤サーチ・アンド・アドバイザー
	内田 陽祐	野村アセットマネジメント
	喜多 徳明	明治安田生命保険
	北山 信次	丸三証券
	津田 和徳	大和証券
	森田 正司	岡三証券
	渡辺 英克	みずほ証券

(五十音順)

ディスクロージャー研究会各専門部会長

建設・住宅・不動産	川嶋 宏樹	SMBC 日興証券
食 品	守田 誠	大和証券
化学・繊維	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFJ 証券
トイレットリー・化粧品	佐藤 和佳子	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
医薬品	山口 秀丸	シティグループ証券
鉄鋼・非鉄金属	山口 敦	SMBC 日興証券
機 械	田井 宏介	大和証券
電気・精密機器	佐渡 拓実	大和証券
自動車・部品・タイヤ	箱守 英治	大和証券
エ ネ ル ギ ー	新家 法昌	みずほ証券
運 輸	一柳 創	大和証券
通信・インターネット	増野 大作	野村證券
商 社	成田 康浩	野村證券
小 売 業	小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
銀 行	高宮 健	野村證券
保険・証券・その他金融	村木 正雄	SMBC 日興証券
ITサービス・ソフトウェア	上野 真	大和証券
広告・メディア・エンタテインメント	前田 栄二	SMBC 日興証券
新興市場銘柄	古島 次郎	大和証券
個人投資家向け情報提供	東 英憲	野村證券

目 次

はじめに	2
ディスクロージャー優良企業	3
高水準のディスクロージャーを連続維持している企業	5
ディスクロージャーの改善が著しい企業	5
概 括	6
各 専 門 部 会 報 告	
建設・住宅・不動産	11
食 品	18
化 学 ・ 繊 維	26
トイレタリー・化粧品	33
医 薬 品	41
鉄鋼・非鉄金属	48
電気・精密機器	54
自動車・同部品・タイヤ	65
エ ネ ル ギ ー	72
運 輸	81
通信・インターネット	89
商 社	96
小 売 業	102
銀 行	109
保険・証券・その他金融	117
ITサービス・ソフトウェア	124
広告・メディア・エンタテインメント	131
新 興 市 場 銘 柄	139
個人投資家向け情報提供	146

は じ め に

日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会は、企業情報開示の促進・向上を目的として、「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」制度を 1995 年度からスタートさせましたが、このほど 2023 年度（第 29 回）の選定結果がまとまりました。

本制度は、企業に日頃接している現役証券アナリストが評価を実施していることと、開示書類の発行者である企業と利用者である証券アナリストとの双方向の直接対話型であること、の二つの点を特色としております。

本年度は、建設・住宅・不動産、食品、化学・繊維、トイレタリー・化粧品、医薬品、鉄鋼・非鉄金属、電気・精密機器、自動車・同部品・タイヤ、エネルギー、運輸、通信・インターネット、商社、小売業、銀行、保険・証券・その他金融、IT サービス・ソフトウェア、広告・メディア・エンタテインメントの 17 業種を評価対象業種としています。

業種ごとの優良企業選定の結果は、17 業種のうち、3 業種が初受賞、3 業種が振り返り受賞となるなど、順位に例年並み以上の変動がありました。

また、2005 年度から開始した、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供における優良企業選定を本年度も継続しています。新興市場銘柄は初受賞の 3 社、個人投資家向け情報提供は継続受賞の 2 社が、優良企業として選定されました。

近年、無形資産や環境・社会課題の重要性の高まりなどにより、非財務情報開示の充実をはじめ企業に求められる情報開示はますます多様になってきており、制度開示部分を含め必要な開示内容は常に見直されています。

当研究会は、今後もこの制度による優良企業の選定を通じて、企業情報開示の促進・向上に寄与して参りますので、関係各方面のご理解とご支援をお願いします。

ディスクロージャー優良企業

業種ごとに各々第1位の評価を受けた企業、新興市場銘柄において上位3位の評価を受けた企業および個人投資家向け情報提供において上位の評価を受けた企業2社に、表彰楯を贈呈することとしました(注)。

〔業種別〕

建設・住宅・不動産	積水ハウス	(3回連続3回目)
食品	アサヒグループホールディングス	(18回目)
化学・繊維	三井化学	(3回連続7回目)
トイレットリー・化粧品	ポーラ・オルビスホールディングス	(初受賞)
医薬品	アステラス製薬	(7回目)
鉄鋼・非鉄金属	神戸製鋼所	(初受賞)
電気・精密機器	オムロン	(4回連続9回目)
自動車・同部品・タイヤ	ブリヂストン	(2回連続2回目)
エネルギー	出光興産	(初受賞)
運輸	日本航空	(3回連続5回目)
通信・インターネット	日本電信電話	(3回連続7回目)
商社	三井物産	(7回連続8回目)
小売業	丸井グループ	(3回連続5回目)
銀行	三菱UFJフィナンシャル・グループ	(2回連続9回目)
ITサービス・ソフトウェア	野村総合研究所	(7回連続15回目)
広告・メディア・エンタテインメント	リクルートホールディングス	(2回目)

ディスクロージャー
2023年度 優良企業



2023 Award for Excellence
in Corporate Disclosure
- Industries -

SAAJ The Securities Analysts
Association of Japan

〔新興市場銘柄〕

ス パ イ ダ ー プ ラ ス	(初 受 賞)
G M O フ ィ ナ ン シ ャ ル ゲ ー ト	(初 受 賞)
M a c b e e P l a n e t	(初 受 賞)

ディスクロージャー
新興市場銘柄
2023年度 優良企業



〔個人投資家向け情報提供〕

野 村 総 合 研 究 所	(4 回連続 4 回目)
味 の 素	(3 回連続 3 回目)

ディスクロージャー
個人投資家向け情報提供
2023年度 優良企業



(注) 業種別の保険・証券・その他金融部門については、第1位の企業より、優良企業の受賞を辞退する旨の申し出があり、当該部門の優良企業は該当なしとなりました。

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業

本優良企業選定制度において直近3回連続して第2位または第3位の評価を受けた次の5社に、高水準のディスクロージャーを連続維持している企業として称賛状を贈呈することとしました。

建設・住宅・不動産	大和ハウス工業
化学・繊維	日産化学
トイレットリー・化粧品	ユニ・チャーム
医薬品	塩野義製薬
自動車・同部品・タイヤ	豊田合成

ディスクロージャーの改善が著しい企業

ディスクロージャーの改善が著しいと評価された次の7社に、称賛状を贈呈することとしました。

食品	日清食品ホールディングス
化学・繊維	東レ
電気・精密機器	アドバンテスト
電気・精密機器	H O Y A
運輸	阪急阪神ホールディングス
銀行	コンコルディア・フィナンシャルグループ
広告・メディア・エンタテインメント	T B S ホールディングス

概 括

ディスクロージャー研究会
座長 許 斐 潤

1. 評価対象

- (1) 業種別については、東証プライム市場の上場株式時価総額上位企業を中心として、建設・住宅・不動産(17社)、食品(21社)、化学・繊維(21社)、トイレットリー・化粧品(9社)、医薬品(19社)、鉄鋼・非鉄金属(14社)、電気・精密機器(24社)、自動車・同部品・タイヤ(21社)、エネルギー(22社)、運輸(15社)、通信・インターネット(12社)、商社(7社)、小売業(23社)、銀行(13社)、保険・証券・その他金融(9社)、ITサービス・ソフトウェア(12社)、広告・メディア・エンタテインメント(20社)の17業種合計279社を評価対象とした。
- (2) 新興市場銘柄については、グロース、ネクスト、Q-Boardおよびアンビシャスの4つの市場に上場している企業(他市場への変更申請または変更予定を公表しているものを除く。)の中から、時価総額が上位であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数が一定数以上の30社(継続評価企業17社、再評価企業(2年以上前に評価対象としたことがある企業)1社、新規評価企業12社)を評価対象とした。なお、30社はすべてグロース市場の企業となった。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、本年度の各業種(17業種)および新興市場銘柄についての選定結果において上位1割(評価対象企業の数で10で割った数(小数点第1位を切上げ))に入った企業のうち、2022年7月から2023年6月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を実施した28社を評価対象とした。
- (4) 評価対象は、原則として、2022年7月から2023年6月までの期間における企業のディスクロージャーである。

2. 評価方法等

- (1) 業種別の評価については、次のとおり。

① 評価基準は、(a) 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス、(b) 説明会、インタビュー、説明資料等における開示、(c) フェア・ディスクロージャー、(d) ESGに関連する情報の開示、(e) 各業種の状況に即した自主的な情報開示、の5つの評価分野から構成されている。各分野の配点については、ディスクロージャー研究会(以下、「当研究会」という)が定める評価分野別の配点枠の範囲内で、当研究会の下に設置された業種別の各専門部会が設定した(下表参照。5分野合計で100点満点)。

評価分野	配点枠
(a) 経営陣のIR姿勢等	15点～50点
(b) 説明会等	10点～40点
(c) フェア・ディスクロージャー	5点～25点
(d) ESG関連	15点～40点
(e) 自主的情報開示	5点～20点

② 本年度は、5つの評価分野のうち、昨年度新設した「ESGに関連する情報の開示」の内容を中心に見直した。具体的には、各業種における評価対象企業の最近の開示状況や、2023年3月期決算の有価証券報告書から義務付けられた人的資本に関する開示等を含むディスクロージャー制度の進展などを踏まえて、各専門部会において見直しを行い、本年度の評価項目および配点を設定した。

③ 各専門部会で決定された上記評価基準に基づき、証券アナリスト経験年数3年以上かつ当該業種担当概ね

2年以上のアナリストで、評価期間中に評価対象企業への接触が4回以上あった者（自主申告）、延べ492名が評価を行った。

- (2) 新興市場銘柄については、上記(1)①の(a)から(e)までの5つの評価分野について、13の評価項目およびそれぞれの配点を設定した。この評価基準に基づき、評価対象期間中に評価対象企業への接触があった62名のアナリストが評価を行った。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、①個人投資家向け会社説明会の開催等、②ウェブサイトにおける開示等、③事業報告書等の内容、の3つの評価分野について17の評価項目を設定した。この評価項目のうち、6項目については、各評価対象企業に対しアンケート調査を実施し、その回答に基づき評点を付した。残りの11項目については、証券会社等において、個人投資家向けの情報提供に携わっている「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員14名が、主に、個人投資家に提供される説明資料やウェブサイトでの開示において、個人投資家の理解に資するような情報提供ができていないかなどの観点から評点を付し、最終評価は両者の評点を合算して行った。
- (4) 上記(1)から(3)までの評価結果を基に、各専門部会（19部会、計138名の委員）において慎重に分析・検討を行い、それぞれ報告書を取りまとめた。当研究会は、これらの報告書を踏まえて、「優良企業」21社を選定した。なお、本年度の「優良企業」においては、6社が初受賞となり、3社が振り返りの受賞となった。また、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」5社、および「ディスクロージャーの改善が著しい企業」7社も選定した。

3. 評価結果の概要

評価結果の詳細は、後掲の「各専門部会報告」に示しているが、その概要は次のとおりである。

- (1) 業種別における総合評価平均点は、次表のとおりとなった。ちなみに、全評価対象企業279社の総合評価平均点を算出すると、70.0点（昨年度69.5点）であった。（注1）

業 種	総合評価平均点（昨年度）
建設・住宅・不動産	73.6点（73.7点）
食 品	64.7点（65.2点）
化学・繊維	72.1点（70.7点）
トイレットリー・化粧品	71.8点（73.5点）
医薬品	73.1点（75.0点）
鉄鋼・非鉄金属	73.9点（72.2点）
機 械 ※	—（72.8点）
電気・精密機器	76.7点（74.1点）
自動車・同部品・タイヤ	64.4点（64.8点）
エネルギー	61.3点（62.7点）
運 輸	69.0点（65.1点）
通信・インターネット	68.9点（71.6点）
商 社	77.8点（74.1点）
小売業	70.9点（69.2点）
銀 行	77.8点（75.0点）
保険・証券・その他金融	72.7点（70.5点）
ITサービス・ソフトウェア	69.8点（69.1点）
広告・メディア・エンタテインメント	62.9点（62.4点）

※ 機械は、本年度の評価を休止している。

- ① 本年度の評価結果を概観すると、17業種のうち6業種において優良企業の初受賞または振り返りの受賞となっている。総合評価の上位企業は総じて、「経営陣のIR姿勢等」および「ESG関連」の評価分野において高い評価を受けている。また、「自主的情報開示」の評価分野で、決算説明会以外の各種説明会や現地施設見学会の開催など、自社の業務状況の理解に資するイベントに積極的に取り組んでいる企業も上位の評

価を受けている状況が見られた。

- ② 「経営陣の IR 姿勢等」の評価分野について詳しく見ると、経営トップが積極的に IR に関与し、会社の方針やメッセージを自らの言葉で明確に伝えている企業が高く評価された。また、経営陣と投資家・証券アナリストとの対話の機会を積極的に設定し、株式市場の声を聴こうとする姿勢も高く評価されている。証券アナリストが経営陣、とりわけ経営トップの情報発信に注目していることが窺える。IR 部門については、体制の充実、情報の集積および投資家等への積極的な働きかけなどに努めた企業が評価された。

一方で、社外取締役に関連する項目については、社外取締役との対話機会の設定に努めた一部の企業は高く評価されたものの、総じて低い評価にとどまっている。具体的には、社外取締役の選任方針、基準等を含めた十分な説明や対話の機会を求める声があった。

- ③ 「ESG 関連」の評価分野においては、各業種全般に、昨年度に比べ得点率がやや改善した。上位の企業に対する評価実施アナリストの意見を見ると、ESG の各重点分野の長期目標と各事業との関連性を整理して投資家にわかりやすく伝えていることや、課題解決と事業成長との関係を説明しようとする姿勢が高く評価され、また、ESG 説明会を定例の時期以外にも適時に開催していること、ESG データやレポートにおいて取組みや関連数値などを詳細に示していることなども評価されている。

一方で、多くの業種において、評価上位と下位の企業間の較差が大きい状況が見られている。ESG を含む非財務情報については、企業価値の創造や持続的な向上の観点から投資家も注目しており、評価下位の企業においては一層の開示努力が求められる。なお、業種間においても評価に大きな差が見られており、平均得点率を見ると、最も高い業種と、最も低い業種とでは 20 ポイント近い差があった。事業形態や事業環境等はそれぞれ異なるものの、他業種の上位企業の開示内容等も参考にし、改善に取り組むことを望みたい。

(注 1) 業種ごとの総合評価平均点、昨年度比較、全評価対象企業の評価平均点は、概況を伝えるために敢えて算出したものであるが、業種間で評価項目の内容や配点が異なることに留意する必要がある。また、業種ごとの昨年度平均点との比較も、評価項目の増減や内容・配点の見直し、評価対象企業の変更などがあるため、数値の増減だけでディスクロージャーの改善や後退を論じることは難しい。

- (2) 新興市場銘柄 (30 社) の評価平均点は 68.8 点 (昨年度 67.7 点) であった。(注 2)

5 つの評価分野のうち 4 分野の平均得点率は昨年度をやや上回った。なお、「ESG 関連」および「自主的情報開示」の 2 分野については共に平均得点率が 50% 台となり、昨年度に続き低い水準となった。特に、ESG 関連の 1 項目 (資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等の十分な説明) および自主的情報開示 (ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示の取組み) は共に、全 13 項目中最も低い得点率となった。

評価実施アナリストの意見を見ると、経営トップを含む経営陣が説明会等において自らの言葉で経営戦略を説明している企業、自社の課題を認識してそれへの対策やアクションを明確に示している企業が高く評価されている。なお、新興市場銘柄の企業は、その規模から総じて IR 体制に制約があるが、そのような中でも、決算説明会を自社施設で行い見学会も兼ねるといった工夫をしている企業を評価する声があった。

(注 2) 本年度の評価対象企業 30 社には新規評価企業が含まれており、また、評価項目の内容・配点の見直しを行っているため、数値の昨年度からの変化に厳密な意味はない。

- (3) 個人投資家向け情報提供部門 (28 社) の評価平均点は 78.2 点 (昨年度 79.2 点) であった。(注 3)

評価期間における個人投資家向け会社説明会の平均開催数は 3.0 回で、昨年度 (2.4 回) および一昨年度 (2.5 回) に比べやや回復しているが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の状況 (2019 年度 9.0 回) から見ると引き続き低調であり、来年度以降の状況を注視したい。なお、個人投資家向け会社説明会の内容を配布資料だけでなく動画または音声でウェブサイトに掲載した企業については 23 社 (82%) と、昨年度 (30 社中 28 社 (93%)) を下回った。

評価実施アナリストの意見を見ると、「個人投資家向け会社説明会の開催等」においては、自社の優位性などを具体的かつわかりやすく説明していることや、説明資料のほかに動画を活用し個人投資家が理解しやすいように工夫していることなどが評価された。また、「ウェブサイトにおける開示等」においては、企業情報に関する

る質問事項が充実しているものや、情報を豊富に提供しつつ、リンクを付すことで必要な情報や資料へのアクセスを容易にしているものなどを評価する声があった。さらに、「事業報告書等の内容」においては、ESG要素を踏まえながら事業ごとに中長期的な成長プロセスを示しているものや、説明や記載内容において図表などを用いて個人投資家が理解しやすいように工夫をしているものなどが評価された。

(注3) 本年度の評価対象企業は28社で、昨年度(30社)よりも減っていること、また、28社の中には、新規評価企業が含まれているため、数値の昨年度からの変化に厳密な意味はない。

- (4) 総じてみれば、企業のディスクロージャーへの取組姿勢や開示内容は年々向上してきている。新型コロナウイルス感染症の影響による制約の中においても、様々なツールを活用、工夫して情報発信に積極的に取り組んでいる状況が見られており、また、株式市場の意見に耳を傾け、経営トップ自らがIRに積極的に取り組む企業も増えてきている。その一方で、本年度の評価実施アナリストからは、経営トップや社外取締役を含む経営陣との対話の機会をさらに求める声や、持続的な企業価値向上の観点から、ESGを含む非財務情報の開示の一層の充実に期待する声も多く寄せられている。

このような状況も踏まえ、当研究会としては、評価結果や評価実施アナリストの意見を企業へフィードバックするなど、今後も、企業との建設的な対話を通じてディスクロージャーのさらなる向上のために取り組んで参りたい。

最後に、本年度の評価作業には、各専門部会委員のほか多数の経験豊富な証券アナリストが参加され、全部門において延べ600名近い方々から評価が寄せられた。業務多忙の中で、企業のディスクロージャーの促進・向上を目指し、真摯な姿勢で精力的な作業に従事していただいたことに対し、ここに深甚なる感謝の意を表したい。また、証券アナリストが所属する金融機関等のご理解にも感謝を申し上げたい。さらに、本評価制度の意義を理解され、本年度の評価作業についてご協力をいただいた企業の皆様に、深く御礼を申し上げます。

以 上

【各専門部会報告】

19 部会

(注1) 社名は2023年10月6日現在の登記社名とした。

(注2) 評価実施アナリストの所属会社名は、原則として評価実施時点(2023年6月)における会社名とした。

建設・住宅・不動産

1. 評価対象企業（17社）

【建設】（4社）

大成建設、大林組、清水建設、鹿島建設

【住宅・不動産】（10社）

長谷工コーポレーション、大東建託、大和ハウス工業、積水ハウス、野村不動産ホールディングス、東急不動産ホールディングス、三井不動産、三菱地所、東京建物、住友不動産

【住宅設備】（3社）

TOTO、LIXIL、リンナイ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	29
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	16
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	3	23
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	7
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは33名（所属先27社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、一部の項目内容を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は73.6点（昨年度73.7点）、総合評価点の標準偏差は6.8点（昨年度6.9点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、住宅・不動産（10社）：76.8点（昨年度75.7点）、住宅設備（3社）：71.0点（昨年度73.4点）、建設（4社）：67.5点（昨年度68.9点）となった。住宅・不動産は、昨年度に続き総合評価平均点を伸ばした。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣のIR姿勢等が73%（昨年度72%）、説明会等が73%（昨年度75%）、フェア・ディスクロージャーが81%（昨年度83%）、ESG関連が71%（昨年度70%）、自主的情報開示が70%（昨年度64%）となった。
- ④ 評価項目を見ると、全11項目のうち、次の2項目は、平均得点率で80%以上となり、高水準となった。（説明会等(2.(3))、フェア・ディスクロージャー(3.(2))。項目番号は「2023年度評価項目および配点」(後掲)を

参照のこと)

2. (3) 「四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか(四半期毎に開催:満点)」
(平均得点率 83% [昨年度同率]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 0%3社・100%14社)
3. (2) 「決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていますか」
(平均得点率 83% [昨年度 84%]) (得点率: 70%台 1社・80%台 16社)

⑤ 一方、次の2項目は、平均得点率が60%台となり、低水準となった。(説明会等(2. (1))、ESG 関連(4. (3))。)

2. (1) 「短信および説明会資料等において、実績および計画(前提条件等を含む)を明記のうえ、理解を深めるような十分な説明がなされていますか。また、質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。」(平均得点率 69% [昨年度 71%]) (得点率: 50%台 3社・60%台 5社・70%台 8社・80%台 1社)
4. (3) 「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか。」(平均得点率 68% [昨年度 69%]) (得点率: 50%台 4社・60%台 3社・70%台 8社・80%台 2社)

⑥ ESG 関連の3項目は、次のとおりとなった。

4. (1) 「非財務情報(人的資本を含む ESG 情報、統合報告書等)の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 71% [昨年度 72%]) (得点率: 50%台 2社・60%台 4社・70%台 8社・80%台 3社)
4. (2) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率 75% [昨年度 70%]) (得点率: 50%台 1社・60%台 1社・70%台 9社・80%台 6社)
4. (3) 「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか」平均得点率 68% [昨年度 69%]) (得点率: 50%台 4社・60%台 3社・70%台 8社・80%台 2社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 積水ハウス(ディスクロージャー優良企業[3回連続3回目]、総合評価点82.5点[昨年度比-1.1点])

- ① 同社は、ESG 関連が第1位(得点率(以下省略)83%)、自主的情報開示が同得点第1位(81%)、フェア・ディスクロージャーが第2位(86%)、経営陣のIR姿勢等(82%)、説明会等(81%)が第3位となった。昨年度に比べ、説明会等、フェア・ディスクロージャーおよび自主的情報開示の得点率はやや下がった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」(第3位)および「IR部門の機能」(第4位)が、共に評価された。これらに関連して、経営陣によるIRへのコミットが優れているとの声や、説明が丁寧で投資家からの意見によく耳を傾けているとの声が寄せられた。また、IR担当者への質問に対して、常に的確な回答を得られることを評価する声もあった。なお、PBRを念頭に置いた、さらなるトップの対話姿勢と情報開示を期待する声があった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」が第3位、また、「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」も同得点第3位となり、これらの結果、この分野において第3位となった。これらに関連して、部門別の動向がわかりやすいとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(第2位)および「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」(同得点第2位)が、共に評価された。これらの結果、この分野において第2位となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「非財務情報(人的資本を含む ESG 情報、統合報告書等)の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいること」が、最も高い評価となった。「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」は、第2位となった。また、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」は第3位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、資本政策の開示が

明瞭との声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**の「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」は、同得点第1位となった。評価できるイベントとして、ESG説明会、国際事業説明会などを挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 野村不動産ホールディングス(総合評価点 82.4点〔昨年度比+2.6点〕、昨年度第3位)

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等(84%)、説明会等(83%)が第1位、ESG関連が第2位(82%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位(84%)、自主的情報開示が同得点第9位(71%)となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーを除く4分野で順位が上昇した。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「IR部門の機能」が最も高い評価となった。また、「経営陣のIR姿勢」も同得点第1位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営トップ層が積極的にアナリストと交流していることや、投資家の意見を実際の政策に反映させていることを評価する声が寄せられた。なお、新規プロジェクトに関するリスク・リターンの説明の深化を期待する声があった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」が、共に最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、部門別の動向の開示が明瞭であるとの声や、決算資料も詳細な開示がなされているが、更に詳細なデータの開示も充実しているとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」(同得点第4位)が高い評価となり、また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第5位)も、評価された。
- ⑤ ESG関連においては、「目標とする経営指標等」が、最も高い評価となった。これに関連して、資本政策の説明が明瞭であるとの声があった。「非財務情報の開示」は第4位であった。また、「コーポレートガバナンス・コード」は同得点第4位であった。これらの結果、この分野において第2位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」(同得点第9位)は、平均得点率と同程度であった。充実したイベントとして、海外事業説明会などを挙げる声があった。

第3位 大和ハウス工業(高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 81.2点〔昨年度比-0.7点〕、昨年度第2位〔一昨年度第2位〕)

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第1位(88%)、ESG関連(81%)、自主的情報開示(79%)が第3位、経営陣のIR姿勢等が第5位(81%)、説明会等が同得点第6位(78%)となった。昨年度に比べ、説明会等および自主的情報開示の得点率が下がった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」(第4位)および「IR部門の機能」(同得点第6位)の得点率が、昨年度に比べ上がった。これらに関連して、経営説明会に社長が登壇して、投資家とコミュニケーションを取ろうとする姿勢を評価する声があった。なお、経営トップによるスモールミーティングの開催を望む声もあった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が満点となった。「説明会、インタビューにおける開示」(同得点第5位)および「説明資料等における開示」(同得点第7位)の得点率が、昨年度に比べ下がった。これに関連して、海外事業について十分な説明や、セグメント情報のさらなる開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が、共に最も高く評価された。これらの結果、この分野において、第1位となった。
- ⑤ ESG関連においては、「コーポレートガバナンス・コード」が同得点第1位となり、「非財務情報の開示」(第2位)も評価された。これらに関連して、統合報告書やCSRレポートでの開示評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」(第3位)は、昨年度に比べ得点率が下がった。評価できるイベントとして、ESG説明会、広島再開発見学会、事業別説明会を挙げる声があった。

同社は、3回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (建設・住宅・不動産)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	1928 積水ハウス	82.5	20.6	3	23.4	3	13.7	2	19.1	1	5.7	1	1
2	3231 野村不動産ホールディングス	82.4	21.1	1	24.1	1	13.4	4	18.8	2	5.0	9	3
3	1925 大和ハウス工業	81.2	20.3	5	22.7	6	14.0	1	18.7	3	5.5	3	2
4	8801 三井不動産	80.4	20.4	4	23.9	2	13.2	8	17.7	4	5.2	7	4
5	1878 大東建託	78.1	19.4	6	23.3	4	13.6	3	16.4	9	5.4	4	5
6	1808 長谷工コーポレーション	77.7	20.8	2	22.7	6	13.4	4	15.7	12	5.1	8	8
6	8802 三菱地所	77.7	19.0	8	22.9	5	12.9	10	17.2	5	5.7	1	6
8	8804 東京建物	76.3	19.2	7	22.7	6	13.4	4	16.7	7	4.3	14	10
9	5947 リンナイ	72.8	18.9	9	20.3	11	13.0	9	16.6	8	4.0	16	7
10	3289 東急不動産ホールディングス	72.5	17.6	12	20.4	10	12.2	15	17.0	6	5.3	6	15
11	1812 鹿島建設	72.0	17.7	11	21.1	9	12.7	11	15.6	13	4.9	11	12
12	5938 LIXIL	71.8	17.9	10	19.7	12	13.3	7	16.0	10	4.9	11	9
13	5332 TOTO	68.3	16.2	13	19.2	14	12.1	16	15.8	11	5.0	9	13
14	1802 大林組	67.5	16.0	14	19.3	13	12.5	12	14.3	15	5.4	4	11
15	1803 清水建設	66.4	15.6	15	18.7	16	12.5	12	14.7	14	4.9	11	13
16	1801 大成建設	64.1	15.0	16	19.0	15	12.5	12	13.4	16	4.2	15	16
17	8830 住友不動産	59.5	14.2	17	17.9	17	11.3	17	13.3	17	2.8	17	17
	評価対象企業	73.60	18.23		21.26		12.92		16.29		4.90		

2023年度評価項目および配点（建設・住宅・不動産）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（29点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・短信および説明会資料等において、実績および計画（前提条件等を含む）を明記のうえ、理解を深めるような十分な説明がなされていますか。また、質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	15
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・部門別（注1）・会社別に受注、売上利益の実績と見通し（注2）は十分に開示されていますか。また、資産・負債・キャッシュフローの状況が十分に説明されていますか。	12
(3)四半期情報開示	
・四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。〔四半期ごと開催：2点、3回開催：1点、その他：0点〕	2
3. フェア・ディスクロージャー（16点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（注3）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	8
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供	
・決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていますか。	8
4. ESGに関連する情報の開示（23点）	配点
(1)非財務情報の開示	
・非財務情報（人的資本を含むESG情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいますか。	10
(2)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか。	9
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（7点）	配点
・各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していますか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	7

（注1）「部門別」については、業態により・・・【ゼネコン】：国内・海外および官・民・土・建・その他、【住宅】：戸建て・アパート・一般建築・分譲・賃貸・その他、【不動産】：分譲・賃貸・建設・委託業務・その他、【住宅設備】：製品別・その他・・・と読み替えて下さい。

（注2）「受注、売上利益の実績と見通し」については、【不動産・住宅設備】については売上利益の実績と見通し・・・と読み替えて下さい。

（注3）「投資家にとって重要と判断される事項」とは、東証のT Dnetへの登録を含む次のような事項です。例えば・・・疫病、受注動向、指名停止、訴訟、労災、災害、環境汚染、取引先の倒産、海外市場での変動、大型プロジェクトの事業費概算、資産の取得・売却、新技術・新商品開発、雇用政策の変更、バランスシートおよび債務保証における大きな変動等。

建設・住宅・不動産専門部会委員

部会長	川嶋 宏樹	SMBC 日興証券
部会長代理	竹川 克彦	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	寺岡 秀明	大和証券
	橋本 嘉寛	みずほ証券
	福島 大輔	野村証券
	望月 政広	CLSA 証券
	山口 啓朗	大和アセットマネジメント

評価実施アナリスト（33名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	橋本 浩	富国生命投資顧問
姉川 俊幸	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	橋本 嘉寛	みずほ証券
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	長谷川 晋亮	朝日ライフ アセットマネジメント
今泉 達矢	アセットマネジメント One	花井 美穂	SOMPO アセットマネジメント
入沢 健	立花証券	張江 徹也	三井住友 DS アセットマネジメント
小澤 公樹	SBI 証券	坂東 俊輔	東京海上アセットマネジメント
河内 亮	丸三証券	福島 大輔	野村証券
川嶋 宏樹	SMBC 日興証券	辺見 愛子	アライアンス・パートナーズ
栗原 英明	東海東京調査センター	細貝 広孝	QUICK
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	増宮 守	大和証券
白崎 辰五	りそなアセットマネジメント	松崎 亘	JP モルガン・アセット・マネジメント
竹川 克彦	三井住友トラスト・アセットマネジメント	三木 正士	シティグループ証券
田澤 淳一	SMBC 日興証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
寺岡 秀明	大和証券	望月 政広	CLSA 証券
富田 展昭	極東証券経済研究所	八木 亮	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
中川 義裕	みずほ証券	山口 啓朗	大和アセットマネジメント
西村 英一郎	野村アセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

食 品

1. 評価対象企業（21社）

日清製粉グループ本社、江崎グリコ、山崎製パン、カルビー、森永乳業、ヤクルト本社、明治ホールディングス、日本ハム、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス、サントリー食品インターナショナル、不二製油グループ本社、キッコーマン、味の素、キューピー、ハウス食品グループ本社、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	18
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	8
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		13	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは18名（所属先18社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、説明会等およびESG関連を中心に項目数、内容および配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は64.7点（昨年度65.2点）となった。総合評価点の標準偏差は14.8点（昨年度13.0点）であった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が59%（昨年度63%）、説明会等が69%（昨年度同率）、フェア・ディスクロージャーが84%（昨年度78%）、ESG関連が66%（昨年度65%）、自主的情報開示が55%（昨年度52%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全13項目のうち、次のフェア・ディスクロージャーの2項目について平均得点率が80%以上となり（昨年度はなし）、高水準であった。

- (a) 「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率86%〔昨年度

78%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 70%台 5社・80%台 7社・90%台 9社)

(b) 「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供 (説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応) を行っていますか」 (平均得点率 82% [昨年度 78%]) (得点率: 60%台 1社・70%台 6社・80%台 9社・90%台 5社)

④ 一方、次の 2 項目 (経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目(a)、自主的情報開示の中の 1 項目(b)) は、平均得点率が 50%未満となり、低水準となった。いずれの項目についても企業間の得点率の差が大きい状況が見られており、下位評価企業の改善努力が望まれる。

(a) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」 (平均得点率 24% [昨年度 31%]) (得点率: 10%未満 5社・10%台 8社・20%台 3社・30%台 1社・50%台 1社・60%台 1社・70%台 1社・80%台 1社)

(b) 「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか」 (平均得点率 47% [昨年度 42%]) (得点率: 10%台以下 2社・20%台 8社・40%台 2社・50%台 1社・70%台 3社・80%台 4社・90%台 1社)

⑤ ESG 関連の 4 項目は次のとおりであり、いずれも 60%台となった。なお、(b)および(c)は本年度の新規項目である。

(a) 「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか」 (平均得点率 69% [昨年度 68%]) (得点率: 20%台 1社・40%台 2社・50%台 3社・60%台 5社・70%台 6社・80%台 1社・90%台 3社)

(b) 「気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3 を含めた実績および中長期的な改善目標などを定性・定量両面で開示していますか」 (平均得点率 65%) (得点率: 30%台 1社・40%台 2社・50%台 5社・60%台 6社・70%台 2社・80%台 4社・90%台 1社)

(c) 「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか」 (平均得点率 65%) (得点率: 30%台 1社・40%台 2社・50%台 5社・60%台 5社・70%台 4社・80%台 1社・90%台 3社)

(d) 「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか」 (平均得点率 66% [昨年度 63%]) (得点率: 20%台 1社・30%台 2社・40%台 2社・50%台 3社・60%台 4社・70%台 2社・80%台 3社・90%台 4社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 アサヒグループホールディングス (ディスクロージャー優良企業 [18 回目])、

総合評価点 91.1 点 [昨年度比+4.7 点]、昨年度第 2 位)

① 同社は、説明会等 (得点率 (以下省略) 94%)、自主的情報開示 (93%) が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位 (89%)、ESG 関連が第 3 位 (90%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位 (94%) となり、いずれの分野においても高水準の得点率であった。

② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」(第 1 位) および「経営陣の IR 姿勢」(第 2 位) は共に 90%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップを含む経営陣が IR に積極的であり、メッセージを明確に伝えているとの声や、経営戦略のストーリー、課題、施策の進捗などについて市場と共有する姿勢を評価する声が寄せられた。また、IR 部門の機能を常に改善させているとの声もあった。「社外取締役との対話」は第 3 位となった。

③ 説明会等においては、「説明会、説明資料等における開示」および「インタビューにおける開示」が共に最も高い評価となった結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、海外成長戦略や欧州での利益増減の開示が充実しているとの声、IR 部門とのインタビューにおいて十分なディスカッションができるとの声が寄せられた。

④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツールによる情報提供」(同得点第 1 位) および「経営

陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること、また、日英両言語でタイムリーに提供していること」(同得点第 5 位)の得点率が共に 90%以上の高い評価となった。これらに関連して、英語対応を含めてフェア・ディスクロージャーに十分対応しているとの声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、新規項目である「気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3 を含めた実績および中長期的な改善目標などを定性・定量両面で開示していること」および「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していること」が共に第 2 位となった。また、「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」(第 3 位)および「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」(第 4 位)の得点率が共に 90%以上の高い評価となった。これらに関連して、事業活動とサステナビリティの取組みをリンクさせて開示しているとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」および「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」が共に最も高い評価となり、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、評価できるイベントとして、IR Day、DX 説明会、事業説明会が挙げられ、特に、欧州事業説明会では現地経営陣とのディスカッションや現地フィールドツアーの実施を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 味の素 (総合評価点 90.1 点 [昨年度比+1.8 点]、昨年度第 1 位)

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等** (90%)、**ESG 関連** (94%) が第 1 位、**説明会等** が第 2 位 (87%)、**自主的情報開示** が同得点第 2 位 (83%)、**フェア・ディスクロージャー** が第 5 位 (91%) となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」および「社外取締役との対話」が共に最も高い評価となり、また、「IR 部門の機能」(第 2 位)についても評価された結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、経営トップが自らの言葉で説明していることや経営陣が IR を積極的に活用していること、さらに市場との建設的な対話や市場の関心を意識した開示をしていることを評価する声が寄せられた。また、社外取締役が市場との対話に積極的であるとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、説明資料等における開示」(第 2 位)および「インタビューにおける開示」(第 2 位)が共に高い評価となった。これらに関連して、説明資料が充実しているとの声が寄せられた。なお、イメージ図は充実しているが、より具体的な定量情報の拡充を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」(第 5 位)、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること、また、日英両言語でタイムリーに提供していること」(同得点第 5 位)の得点率は共に 90%以上となった。これらに関連して、英語対応を含めてフェア・ディスクロージャーに十分対応しているとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」および「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していること」が共に最も高い評価となった。また、「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」(第 2 位)も得点率が 95%以上となった。さらに、「気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3 を含めた実績および中長期的な改善目標などを定性・定量両面で開示していること」(第 3 位)も高い評価となったことから、この分野において第 1 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」および「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」が共に評価され、第 3 位となった。これらに関連して、事業やテーマ別の説明会を評価する声が多く寄せられた。

第3位 キリンホールディングス（総合評価点 85.9点〔昨年度比+2.8点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、ESG 関連が第2位（93%）、自主的情報開示が同得点第2位（83%）、経営陣の IR 姿勢等（82%）、説明会等（79%）が第3位、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（94%）となった。昨年度に比べ、3分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「社外取締役との対話」が第2位となった。これに関連して、説明会において社外取締役との対話を設定していることを評価する声が寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」も共に評価され、第3位となった。これらに関連して、経営トップは投資家に対し真摯に対応し説明をしているとの声があった。なお、経営戦略の方向性に対するメッセージはあるが、進捗の遅れや、実効性についての議論の内容が示せていないとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、説明資料等における開示」が第3位となったが、「インタビューにおける開示」については、同得点第8位にとどまった。これらに関連して、子会社である協和発酵バイオに関する十分な情報提供を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること、また、日英両言語でタイムリーに提供していること」（同得点第2位）および「リモートツールによる情報提供」（同得点第3位）が共に90%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において同得点第3位となり、得点率はトップと僅差であった。これに関連して、英語対応を含めてフェア・ディスクロージャーに十分対応しているとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3 を含めた実績および中長期的な改善目標などを定性・定量両面で開示していること」および「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」が共に最も高い評価となった。また、「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」（第2位）、「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していること」（第3位）も共に90%以上の得点率となった結果、この分野において、トップと僅差の第2位となった。これらに関連して、経営陣が気候変動問題や生物多様性問題を重要な経営課題・リスクとして捉えており、プロアクティブな情報開示を行っているとの声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」（第2位）が高い評価となった。「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」（同得点第4位）も評価された。評価できるイベントとして、Investor Day、CSV 説明会が挙げられた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 日清食品ホールディングス（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 73.8点〔昨年度比+1.7点、一昨年度比+5.4点〕、第5位〔昨年度第8位、一昨年度第11位〕

- ① 同社は、ESG 関連が第5位（80%）、説明会等（77%）、自主的情報開示（71%）が第6位、経営陣の IR 姿勢等が第8位（64%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第11位（85%）となった。昨年度に比べ、4分野において順位または得点率が上昇し、総合評価点で第5位となった。なお、順位は昨年度に比べ3ランク、一昨年度に比べ6ランク上がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第5位（昨年度第12位）、「社外取締役との対話」が第7位（昨年度同得点第9位）、「経営陣の IR 姿勢」が第9位（昨年度同）となった。これらに関連して、IR 部門とは十分かつ正確な情報に基づいた議論ができるとの声が寄せられた。なお、経営トップの積極的な IR 対応を望む声もあった。
- ③ 説明会等においては、「インタビューにおける開示」が同得点第4位、「説明会、説明会資料等における開示」が第6位となった。これらに関連して、海外の販売数量の開示が増え理解しやすい、注力事業の動向について丁寧に説明しているとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第10位（昨年度同得点第2位）となり、「リモートツールによる情報提供」が第11位（昨年度第5位）となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3 を含めた実績および中長期的な改

善目標などを定性・定量両面で開示していること」および「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していること」が共に第 5 位となった。また、「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」が同得点第 5 位、「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていること」が第 6 位となった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」が評価され、同得点第 4 位となった。これに関連して、評価できるイベントとして、事業説明会、ブランドマーケティング説明会などが挙げられた。「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」は第 11 位となった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (食品)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
	評価対象企業												
1	アサヒグループホールディングス	91.1	30.4	2	16.9	1	7.5	3	28.9	3	7.4	1	2
2	味の素	90.1	30.6	1	15.6	2	7.3	5	30.0	1	6.6	2	1
3	キリンホールディングス	85.9	27.8	3	14.2	3	7.5	3	29.8	2	6.6	2	3
4	不二製油グループ本社	75.2	24.2	4	12.3	13	7.0	7	27.5	4	4.2	11	4
5	日清食品ホールディングス	73.8	21.9	8	13.9	6	6.8	11	25.5	5	5.7	6	8
6	明治ホールディングス	71.8	23.0	5	12.4	11	7.0	7	24.6	6	4.8	9	5
7	日本たばこ産業	70.2	20.7	10	14.0	5	7.6	1	23.5	7	4.4	10	11
8	ニチレイ	69.9	22.5	6	14.1	4	6.7	13	21.3	11	5.3	8	10
9	カルビー	69.6	19.9	11	12.4	11	7.6	1	23.3	8	6.4	4	5
9	森永乳業	69.6	21.8	9	13.5	7	6.8	11	22.0	9	5.5	7	7
11	日本ハム	68.1	22.0	7	11.6	15	6.9	10	21.6	10	6.0	5	9
12	日清製粉グループ本社	63.1	19.6	12	12.5	10	7.0	7	20.1	13	3.9	12	13
13	サントリー食品インターナショナル	59.4	18.5	13	13.3	8	6.3	15	18.3	15	3.0	16	12
14	キッコーマン	59.2	18.1	15	10.2	18	6.5	14	21.1	12	3.3	14	19
15	ハウス食品グループ本社	56.7	18.4	14	12.7	9	5.9	19	16.9	18	2.8	17	14
16	キユーピー	56.1	16.1	17	10.8	17	6.3	15	19.3	14	3.6	13	15
17	ヤクルト本社	54.4	16.4	16	11.5	16	6.3	15	17.4	17	2.8	17	18
18	2579 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス	52.1	14.9	18	9.3	19	7.1	6	18.0	16	2.8	17	16
19	2875 東洋水産	45.1	11.8	19	12.0	14	6.0	18	12.6	20	2.7	20	17
20	2206 江崎グリコ	41.1	11.0	21	7.3	21	5.7	20	14.0	19	3.1	15	20
21	2212 山崎製パン	36.3	11.1	20	8.6	20	5.3	21	9.3	21	2.0	21	21
	評価対象企業評価平均点	64.71	20.03		12.34		6.72		21.20		4.42		

2023年度評価項目および配点（食品）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（34点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
<p>・経営陣が、IR活動に注力していますか。経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。また、経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えてありますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	20
(2)社外取締役との対話	
<p>・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。</p>	4
(3)IR部門の機能	
<p>・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（18点）	配点
(1)説明会、説明資料等における開示	
<p>・説明会等において、会社側に説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。また、説明会資料等において、決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	10
(2)インタビューにおける開示	
<p>・インタビューにおける会社側とのディスカッションは十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	8
3. フェア・ディスクロージャー（8点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
<p>・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか。</p>	4
(2)リモートツールによる情報提供	
<p>・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。</p>	4
4. ESGに関連する情報の開示（32点）	配点
①企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか。	8
②気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3を含めた実績および中長期的な改善目標などを定性・定量両面で開示していますか。	8
③ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。	8
④ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか。	8
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
①携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していますか。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等。	4
②有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか。【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	4

食品専門部会委員

部会長	守田 誠	大和証券
部会長代理	角山 智信	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント
	鎌田 聡	大和アセットマネジメント
	マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン
	高木 直実	SMBC日興証券
	藤原 悟史	野村証券

評価実施アナリスト（18名）

大庭 脩平	シティグループ証券	高木 直実	SMBC日興証券
奥下 諒	三井住友トラスト・アセットマネジメント	田中 英太郎	SOMPOアセットマネジメント
長田 佳三	JPモルガン・アセット・マネジメント	田村 真一	極東証券経済研究所
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	角山 智信	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
佐治 広	みずほ証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
篠崎 智明	QUICK	藤原 悟史	野村証券
住母家 学	岡三証券	守田 誠	大和証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

化学・繊維

1. 評価対象企業（21社）

帝人、東レ、クラレ、旭化成、レゾナック・ホールディングス（注）、住友化学、日産化学、東ソー、デンカ、信越化学工業、エア・ウォーター、日本酸素ホールディングス、カネカ、三菱瓦斯化学、三井化学、JSR、三菱ケミカルグループ、ダイセル、積水化学工業、UBE、日本ペイントホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）昭和電工が商号を変更した（2023年1月）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	22
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	6
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	3	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	12
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは29名（所属先23社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、項目数、項目内容および配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は72.1点（昨年度70.7点）、総合評価点の標準偏差は6.6点（昨年度同点）となった。
- ② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%（昨年度同率）、**説明会等**が73%（昨年度72%）、**フェア・ディスクロージャー**が83%（昨年度76%）、**ESG関連**が69%（昨年度67%）、**自主的情報開示**が70%（昨年度68%）となった。
- ③ 評価項目（全15項目）について見ると、平均得点率が80%以上となったのは、次の項目（フェア・ディスクロージャーの2項目）であった。
 - （a）「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率82%〔昨年度75%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台3社・80%台16社・90%台2社）
 - （b）「状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか」（平均得点率85%〔昨年度79%〕）（得点率：

60%台 1社・70%台 3社・80%台 9社・90%台 8社)

④ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなった。なお、(c)は、全項目の中で最も低い水準となった。

- (a) 「環境 (E) 関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 72% [昨年度 70%]) (得点率: 60%台 10社・70%台 8社・80%台 3社)
- (b) 「社会 (S) に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」(平均得点率 69% [昨年度 65%]) (得点率: 60%台 14社・70%台 5社・80%台 2社)
- (c) 「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス (G) の有効性が示されていますか」(平均得点率 67% [昨年度 64%]) (得点率: 50%台 3社・60%台 12社・70%台 4社・80%台 2社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井化学 (ディスクロージャー優良企業 [3 回連続 7 回目]、総合評価点 87.2 点 [昨年度比+3.9 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 90%)、ESG 関連 (83%)、自主的情報開示 (88%) が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位 (92%)、説明会が第 2 位 (88%) となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップをはじめ CFO や各事業部の役員が積極的に IR に関与していることを評価する声のほか、中期経営計画と ESG が一貫した文脈で述べられており、整合性も高く説得力があるとの声が寄せられた。また、「IR 部門の機能、基本スタンス」の 2 項目も共に同得点第 1 位となった。IR 部門に関して、業績変動に関する説明力が高く、事業・製品に関する説明も充実しているとの声、会社の方向性や長期戦略等に関する質の高い議論もできるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、4 項目全てが 85%以上の得点率となり、特に「四半期情報開示」(第 1 位) および「インタビューにおける補足説明が十分であること」(同得点第 1 位) はいずれも 90%以上であった。これらに関連して、インタビューでの説明が非常に充実しているとの声が寄せられたほか、決算説明会に加え経営概況説明会を開催し、短中期の業績動向と中長期の方向性を丁寧に伝えようとしているとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 1 位) および「速やかな情報提供」(同得点第 1 位) が共に 90%以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会の音声再生や要旨を日英両言語で遅滞なく公表し、質疑応答にも対応していることを評価する声が寄せられたほか、質疑応答の要旨集もわかりやすいとの声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、「環境 (E) 関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」が最も高い評価となり、「社会 (S) に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」も同得点第 1 位となった。また、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンス (G) の有効性が示されていること」も第 2 位となった。これらに関連して、ESG 全てにおいて高いレベルの取組みと開示が継続されており、特に人的資本に関する開示が評価できるとの声があったほか、社会課題解決型事業の売上規模を集計・開示し、自社製品によるサプライチェーンの CO2 削減貢献量も開示しているとの声が寄せられた。また、社外取締役との対話の機会の設定を評価する声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等 (アナリスト主催を含む) を実施し、かつその内容は充実していること」が最も高い評価となった。「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報 (ESG 情報等) を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」(第 2 位) も 90%以上の得点率となった。これらに関連して、IR 部門は IR イベントの開催に積極的との声が寄せられ、充実していたイベントとして、経営概況説明会や大牟田工場見学会を挙げる声が多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められる

ので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 日産化学（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 82.9 点〔昨年度比+2.1 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 3 位〕）

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（91%）、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（86%）、ESG 関連が第 4 位（76%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 4 位（87%）、自主的情報開示が第 6 位（76%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」の 2 項目が共に同得点第 1 位となった。これらに関連して、IR 部門は、定性・定量の両面で情報をよく把握しており、質の高い議論ができるとの声や、定量的な情報が十分に開示され、分析がしやすいとの声が寄せられた。「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（第 2 位）も高く評価された。また、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 5 位）も得点率が改善した。これらに関連して、経営陣は CFO を中心に IR に積極的に関与しており、決算説明会での業績、財務のコメントを継続的に発信しているとの声や、ESG 説明会における知財に関する説明を高く評価する声があった。なお、経営トップによる経営方針や中期経営計画の説明を評価しつつ、さらに IR へ関与することを望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」の 2 項目および「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」が最も高い評価（同得点第 1 位を含む）となった。また、「四半期情報開示」もトップと僅差の第 2 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、取材時の補足資料の充実した内容と継続性を評価する声のほか、自社の売上高の内訳だけでなくマーケットの見方も開示されているとの声も寄せられた。また、毎四半期の説明会資料を評価する声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 4 位）および「速やかな情報提供」（同得点第 6 位）は共に 85%以上の得点率となった。これらに関連して、IR 資料の日英両言語対応の充実を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていること」が最も高い評価となった。「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」（同得点第 9 位）および「社会（S）に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」（同得点第 8 位）は共に得点率を改善した。これらに関連して、環境（E）、社会（S）共に業績や企業価値に結び付けた説明が優れているとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」（同得点第 5 位）および「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」（第 9 位）が共に得点率を改善した。充実していたイベントとして、ESG 説明会、農業化学品事業説明会を挙げる声があった。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第3位 積水化学工業（総合評価点 80.7 点〔昨年度比+3.0 点〕、昨年度同得点第 4 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（83%）、説明会等（84%）が第 3 位、自主的情報開示が第 4 位（78%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 4 位（87%）、ESG 関連が第 5 位（76%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目は昨年度に比べ得点率を改善し、いずれも 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップが事業・製品に精通したうえで、自身の言葉で経営戦略を伝えようとする姿勢を評価する声が寄せられた。また、事業を通じた環境負荷低減や社会貢献等のアピールができており、説明会における ESG 関連のコメントも評価できるとの声があった。「IR 部門の機能、基本スタンス」は 2 項目共に昨年度と同程度の得点率であった。これらに関連して、十分な数値が開示されており分

析がしやすいとの声や、会社の目指す方向と KPI が一致しておりわかりやすい IR になっているとの声があった。

- ③ 説明会等においては、「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」（第 2 位）が高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」の 2 項目および「四半期情報開示」についても評価され、いずれも 80%以上の得点率となった。これらに関連して、短中期の業績動向と中長期の方向性を丁寧に伝えようとする姿勢を評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「速やかな情報提供」が同得点第 1 位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 8 位）も 80%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会がハイブリッドで対応され、また、決算説明会の要旨が質疑応答を含め日英両言語で遅滞なく提供されているとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「社会（S）に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」（第 4 位）および「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていること」（第 4 位）は、いずれも昨年度に比べ得点率が改善した。また、「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」も第 4 位となった。これらに関連して、ESG 全てにおいて高いレベルの取組みと開示が継続しているとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」の得点率が改善し、第 4 位（昨年度第 11 位）となった。充実していたイベントとして、中期経営計画説明会、水無瀬イノベーションセンター見学会を挙げる声があった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 東レ（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 71.5 点〔昨年度比+7.6 点、一昨年度比+4.8 点〕、第 9 位〔昨年度第 17 位、一昨年度第 13 位〕

- ① 同社は、自主的情報開示が第 5 位（78%）、ESG 関連が第 9 位（70%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 13 位（82%）、経営陣の IR 姿勢等が第 14 位（70%）、説明会等が第 15 位（69%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し第 9 位となった（昨年度比 8 ランクアップ）。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目の得点率が、昨年度に比べ改善した。これらに関連して、新しい経営トップは自身の言葉で説明、回答するなど IR 姿勢の積極性に期待ができるとの声や、中期経営課題の定量的な説明が少しずつ充実してきているとの声が寄せられた。なお、会社にとって都合の悪い情報の開示について改善を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」の 2 項目の得点率が、昨年度に比べ改善した。これらに関連して、定量的情報の開示に進歩がみられる、IR 部門による説明力も向上しているとの声が寄せられた。なお、業績変動要因を理解するうえで必要な定量情報の一層の充実を望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの 2 項目は昨年度に比べ得点率が改善し、いずれも 80%以上となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」（第 5 位）および「社会（S）に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」（第 7 位）は、いずれも昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、環境に貢献する製品を多く持ち、説明会を開催するなど環境（E）に対する意識が高いとの声があった。なお、ガバナンス（G）に関する情報発信を経営トップに望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の 2 項目のうち「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」は、昨年度に比べ得点率を大幅に改善し、同得点第 2 位（昨年度第 16 位）となった。充実していたイベントとして、IR Day において実施された各事業の説明会を挙げる声が多かった。そのほか、中期経営課題説明会を挙げる声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表（化学・繊維）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4183 三井化学	87.2	27.0	1	19.4	2	5.5	1	24.8	1	10.5	1	
2	4021 日産化学	82.9	25.7	2	20.1	1	5.2	4	22.8	4	9.1	6	
3	4204 積水化学工業	80.7	24.9	3	18.5	3	5.2	4	22.7	5	9.4	4	
4	3407 旭化成	80.5	23.9	4	17.4	4	5.5	1	24.1	2	9.6	3	
5	4005 住友化学	79.1	23.8	5	17.2	5	5.2	4	22.9	3	10.0	2	
6	4208 UBE	74.5	23.1	6	16.2	8	5.1	7	21.2	8	8.9	7	
7	4188 三菱ケミカルグループ	72.0	21.3	11	14.9	17	5.4	3	21.9	6	8.5	10	
8	4185 JSR	71.6	21.2	12	16.6	7	5.0	10	20.5	11	8.3	11	
9	3402 東レ	71.5	21.1	14	15.1	15	4.9	13	21.1	9	9.3	5	
10	3401 帝人	71.2	21.6	8	15.6	11	4.8	16	21.5	7	7.7	15	
11	4061 デンカ	70.6	21.6	8	17.0	6	4.9	13	19.6	15	7.5	16	
11	4612 日本ペイントホールディングス	70.6	21.6	8	15.7	10	5.1	7	20.0	12	8.2	13	
13	4182 三菱瓦斯化学	69.9	21.7	7	15.9	9	4.8	16	19.5	16	8.0	14	
14	4202 ダイセル	69.0	21.2	12	15.4	13	4.7	19	19.1	17	8.6	9	
15	3405 クラレ	68.9	20.2	18	14.6	19	5.0	10	20.8	10	8.3	11	
16	4042 東ソー	68.5	20.6	17	15.5	12	4.8	16	18.9	18	8.7	8	
17	4004 レゾナック・ホールディングス	68.4	20.9	15	15.2	14	5.1	7	19.7	14	7.5	16	
18	4091 日本酸素ホールディングス	67.6	20.9	15	14.9	17	4.9	13	19.8	13	7.1	18	
19	4063 信越化学工業	65.0	20.0	19	14.2	20	5.0	10	18.8	20	7.0	19	
20	4088 エア・ウォーター	63.9	18.7	21	15.0	16	4.7	19	18.9	18	6.6	21	
21	4118 カネカ	60.4	18.9	20	12.7	21	4.1	21	17.8	21	6.9	20	
	評価対象企業評価平均点	72.09	21.90		16.05		4.99		20.78		8.37		

2023年度評価項目および配点（化学・繊維）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えてありますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
①IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	9
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（22点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	7
②インタビューにおける補足説明は十分ですか。	7
(2)説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	5
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー（6点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	4
(2)速やかな情報提供	
・状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか。	10
②社会（S）に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	10
③資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか。	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
①工場見学、ESG説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	7
②統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。また、統合報告書において非財務情報（ESG情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えてありますか。 【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	5

化学・繊維専門部会委員

部会長	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村証券
	木村 光宏	野村アセットマネジメント
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント

評価実施アナリスト (29名)

伊藤 健悟	QUICK	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
今津 拓洋	アセットマネジメント One	仲田 育弘	マコーリーキャピタル証券会社
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	西平 孝	岡三証券
梅林 秀光	大和証券	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
大野 剛	丸三証券	野口 英彦	アセットマネジメント One
岡寄 茂樹	野村証券	林 智夫	朝日ライフ アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
喜多 徳明	明治安田生命保険	宮本 剛	SMBC 日興証券
木村 光宏	野村アセットマネジメント	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
河野 孝臣	野村証券	山田 幹也	みずほ証券
齋藤 達哉	三井住友 DS アセットマネジメント	吉田 篤	みずほ証券
阪口 和輝	大和証券	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント
澤砥 正美	SBI 証券	渡邊 亮一	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
鹿内 美欧	JP モルガン証券	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
高橋 豊	極東証券経済研究所		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

トイレタリー・化粧品

1. 評価対象企業（9社）

花王、資生堂、ライオン、ファンケル、コーセー、ポーラ・オルビスホールディングス、
小林製薬、ピジョン、ユニ・チャーム

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	28
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	5
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	5	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	12
計		16	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは21名（所属先18社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、主に **ESG関連**の項目数や配点を増やすなど評価項目を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は71.8点（昨年度73.5点）、総合評価点の標準偏差は5.1点（昨年度4.6点）であった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が69%（昨年度同率）、**説明会等**が70%（昨年度73%）、**フェア・ディスクロージャー**が88%（昨年度同率）、**ESG関連**が72%（昨年度76%）、**自主的な情報開示**が73%（昨年度71%）となり、**説明会等**および**ESG関連**の2分野は、昨年度を下回った。
- ③ 評価項目について見ると、全16項目中、**フェア・ディスクロージャー**の3項目（(a)～(c)）と**ESG関連**の2項目（下記⑤の(a)(b)）および**自主的な情報開示**の1項目(d)が、平均得点率で80%以上となり、高水準であった。
 - (a) 「（ウェブサイト等における情報提供について）質疑応答も掲載していますか」（平均得点率100%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：全社満点）
 - (b) 「（ウェブサイト等における情報提供について）英語対応していますか」（平均得点率100%〔昨年度同率〕）（得点率：全社満点）
 - (c) 「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注

意を払っていますか」(平均得点率 93% [昨年度 89%]) (得点率：90%4社・95%5社)

- (d) 「投資家にとって重要と判断される事項 (例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、COVID-19、各種災害の影響等)の開示は、迅速かつ十分ですか」(平均得点率 82% [昨年度 78%]) (得点率：70%台 2社・80%台 7社)

- ④ 一方、次の 2 項目 (経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目 (a)、フェア・ディスクロージャーの中の 1 項目 (b)) は、平均得点率が 50%台以下となった。なお、社外取締役に係る取組みについては、意見交換会の開催などが評価され、得点率が改善した企業が見られるものの、全体としては依然として低水準にとどまった。

(a) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 31% [昨年度 19%]) (得点率：20%台 5社・30%台 2社・40%台 1社・50%台 1社)

(b) 「(ウェブサイト等における情報提供について)説明会等のリプレイを実施していますか」(平均得点率 56% [昨年度同率]) (得点率：0点 4社・満点 5社)

- ⑤ ESG 関連の 5 項目は、次のとおりとなった。(d) については、平均得点率が顕著に下がった。なお、(c) は本年度の新設項目であるが、人的資本に関するミーティングの内容が充実している企業が高い評価となった。

(a) 「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 82% [昨年度 80%]) (得点率：70%台 3社・80%台 5社・90%台 1社)

(b) 「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 80% [昨年度 81%]) (得点率：70%台 4社・80%台 5社)

(c) 「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況を適切に開示していますか」(平均得点率 70%) (得点率：60%台 5社・70%台 3社・80%台 1社)

(d) 「中期経営計画や長期ビジョン (例えば目標とする ROE 等) を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか」(平均得点率 63% [昨年度 72%]) (得点率：50%台 3社・60%台 5社・70%台 1社)

(e) 「社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていますか」(平均得点率 74% [昨年度同率]) (得点率：全社 70%台)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 ポーラ・オルビスホールディングス (ディスクロージャー優良企業 [初受賞]、 総合評価点：78.6 点 [昨年度比+1.9 点]、昨年度第 3 位)

① 同社は、説明会等が第 1 位 (得点率 <以下省略> 83%)、経営陣の IR 姿勢等 (76%)、ESG 関連 (76%) が第 3 位、自主的情報開示が第 4 位 (77%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 4 位 (96%) となった。昨年度に比べ、特に経営陣の IR 姿勢等および自主的情報開示の得点率が改善した。

② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門に十分な情報が蓄積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者と有益なディスカッションができていること」が最も高く評価された。また、「経営陣が IR 活動に注力していること、また、経営陣が IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」も昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第 4 位 (昨年度第 7 位) となった。これらに関連して、IR 部門は業界環境やマネジメントの方針などの必要な情報を把握しており、有益なディスカッションができるとの声が寄せられた。また、経営トップによる戦略説明や定期的な IR 活動を評価する声もあった。一方で、「社外取締役との対話」(第 5 位) については、得点率が改善したものの、低い水準にとどまった。これに関連して、社外取締役と対話をする機会の設定を望む声が寄せられた。

③ 説明会等においては、「決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」および「決算短信と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が入手できること」が共に最も高い評価となり、その結果、この分野において第 1 位 (昨年度第 2 位) となった。これらに関連して、経営トップから担当者まで質問に明確な回答をしているとの声や、説明資料はブランド毎の業績や分析に資するデータが記載されているなど内容が充実しているとの声が寄せられた。

- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、ウェブサイト等における情報提供として、「説明会等のリプレイの実施」、「質疑応答の掲載」および「英語対応」の全ての項目が満点評価となった。また、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」（同得点第 6 位）も 90%以上の得点率となり、昨年度に続き高水準を維持した。
- ⑤ ESG 関連においては、「中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とする ROE 等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が第 2 位となった。これに関連して、VISION2029 における定量目標の提示や中期経営計画の進捗説明を評価する声が寄せられた。なお、事業ポートフォリオや資本政策について中長期的な方向性の提示を望む声があった。「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること」および「社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていること」は共に同得点第 4 位となった。また、本年度の新設項目である「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況を適切に開示していること」は同得点第 2 位であった。これらに関連して、社外取締役に関する記載の充実や ESG 説明会の開催を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、COVID-19、各種災害の影響等）の開示が迅速かつ十分であること」が、昨年度に比べ得点率を 10 ポイント改善し、同得点第 1 位（昨年度同得点第 5 位）となった。「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容が充実していること」（同得点第 5 位）も、昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、IR 情報が経営に直結していることや質の高い IR を維持していることを評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 ファンケル（総合評価点：78.0 点 [昨年度比-3.8 点]、昨年度第 1 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 1 位（80%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（98%）、説明会等が第 2 位（80%）、自主的情報開示が第 3 位（78%）、ESG 関連が第 5 位（71%）となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等およびフェア・ディスクロージャーを除く 3 分野において得点率が下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が IR 活動に注力していること、また、経営陣が IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」が最も高い評価となった。「IR 部門に十分な情報が蓄積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者と有益なディスカッションができていくこと」も第 2 位と高い評価となった。これらに関連して、トップを含む経営陣とのスモールミーティングが定期的に開催されているなど市場との対話を重視する姿勢を評価する声や、IR 部門は十分な情報を把握しており有益なディスカッションができるとの声が寄せられた。なお、市場との対話を評価しつつも、それをさらに経営活動に反映させることを期待する声もあった。「社外取締役との対話」（第 3 位）については、昨年度に比べ得点率が 20 ポイント以上改善した。これに関連して、社外取締役とのスモールミーティングを評価する声が寄せられた。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」および「決算短信と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できること」が共に第 2 位となったが、いずれも昨年度に比べ得点率がやや下がった。これらに関連して、経営トップや IR 部門などの回答が明確で丁寧であるとの声や、説明会のプレゼンテーション資料のグラフや計数資料が有用である、補足資料が充実しているなどの声があった。なお、期中で通期計画を変更した際には変更履歴も表示することを望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が同得点第 1 位となった。また、ウェブサイト等における情報提供として、「説明会等のリプレイの実施」、「質疑応答の掲載」および「英語対応」の全ての項目が満点評価となり、その結果、この分野において同得点第 1 位となった。これらに関連して、経営トップの市場への対応を高く評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とする ROE 等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明

されていること」の得点率が昨年度に比べ下がり、第4位（昨年度第2位）となった。また、「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること」が同得点第5位、「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること」が第6位、「社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていること」が同得点第8位となり、いずれも平均得点率をやや下回った。これらに関連して、サクセッションプランの開示を評価する声が寄せられた一方で、VISION2030の内容の充実を求める声や、社外取締役に関する十分な開示を望む声があった。なお、本年度の新設項目である「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況を適切に開示していること」は第5位であった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容が充実していること」の得点率が昨年度に比べ大きく下がり、同得点第3位（昨年度第1位）となった。なお、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、COVID-19、各種災害の影響等）の開示が迅速かつ十分であること」は同得点第4位（昨年度第3位）であったが、得点率は昨年度に比べやや改善した。これに関連して、IR対応が迅速かつ正確であるとの声があった。

第3位 ユニ・チャーム（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点：76.7点〔昨年度比-0.8点〕、昨年度第2位〔一昨年度第3位〕

- ① 同社は、ESG関連が第1位（80%）、経営陣のIR姿勢等が第2位（76%）、説明会等が第3位（74%）自主的情報開示が第6位（74%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第6位（78%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣がIR活動に注力していること、また、経営陣がIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」が第2位となった。また、「IR部門に十分な情報が蓄積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていくこと」（第3位）は、昨年度に続き85%以上の得点率となった。これらに関連して、トップミーティングの開催や定期的なIR活動を評価する声や、IR部門には十分な情報が蓄積されており市場動向や今後の戦略も含めて有益なディスカッションができるとの声が寄せられた。なお、経営陣との双方向での対話を一層望む声もあった。「社外取締役との対話」（第4位）については、昨年度に比べ得点率が改善したものの、平均得点率と同程度にとどまった。これに関連して、社外取締役との対話の機会を積極的に設けるよう望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」および「決算短信と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できること」が共に第3位となった。これに関連して、質問への回答が定量的かつ詳細であるとの声や、補足資料が詳細で理解しやすいなどの声がある一方、決算短信のセグメントのブレイクダウンを求める声もあった。なお、通期計画の未達成について十分な説明を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」の得点率が昨年度に比べ改善し、同得点第1位となった。なお、セルサイド、バイサイド双方の公平性に留意したブリーフィングの実施を望む声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とするROE等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が第1位となり、「社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていること」も同得点第1位となった。これらに関連して、説明会において経営トップが直接説明していることや、社外取締役自身によるコメントが開示されていることを評価する声が寄せられた。また、「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること」（第2位）および「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること」（同得点第2位）も共に高い評価となった。これらに関連して、使用済み紙オムツの再生事業に関する説明会は有益であったとの声があった。さらに、本年度の新設項目である「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況を適切に開示していること」が同得点第2位となり、これらの結果、この分野において第1位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、COVID-19、各種災害の影響等）の開示が迅速かつ十分であること」が同得点第1位となった。一方、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容が充実していること」（第7位）は平均得点率と同程度にとどまった。これに関連して、工場見学会

の開催を望む声があった。

同社は、3回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (トレタリー・化粧品)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR専門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点28点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目2 (配点25点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目4 (配点5点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目5 (配点30点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目2 (配点12点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4927 ポーラ・オルビスホールディングス	78.6	21.2	3	20.7	1	4.8	4	22.7	3	9.2	4	3
2	4921 ファンケル	78.0	22.4	1	20.0	2	4.9	1	21.4	5	9.3	3	1
3	8113 ユニ・チャーム	76.7	21.4	2	18.6	3	3.9	6	23.9	1	8.9	6	2
4	4911 資生堂	71.9	19.5	4	15.1	8	4.8	4	23.4	2	9.1	5	4
5	4912 ライオン	71.7	19.2	5	16.9	6	4.9	1	21.0	6	9.7	1	6
6	4967 小林製薬	69.7	19.0	7	16.9	6	3.9	6	20.5	8	9.4	2	5
7	4922 コーセー	69.2	19.2	5	17.3	4	3.8	8	20.6	7	8.3	8	7
8	4452 花王	66.1	15.8	9	15.0	9	4.9	1	21.6	4	8.8	7	8
9	7956 ピジョン	64.1	16.7	8	17.1	5	3.8	8	20.3	9	6.2	9	9
	評価対象企業評価平均点	71.78	19.38		17.51		4.42		21.70		8.77		

2023年度評価項目および配点（トイレタリー・化粧品）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（28点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(3)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信および補足資料を含む）における開示	
・決算短信と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
(2)ウェブサイト等における情報提供	
①説明会等のリプレイを実施していますか。	1
②質疑応答も掲載していますか。	1
③英語対応していますか。	1
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	5
②社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	5
③人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況を適切に開示していますか。	5
④中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とするROE等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
⑤社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
①工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。【過去1年間を目安に評価。開催なし 0点】	7
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、COVID-19、各種災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	5

トイレタリー・化粧品専門部会委員

部会長	佐藤 和佳子	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
部会長代理	広住 勝朗	大和証券
	長田 佳三	JPモルガン・アセット・マネジメント
	川本 久恵	UBS証券
	高口 伸一	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント
	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント

評価実施アナリスト（21名）

伊藤 健悟	QUICK	佐竹 一仁	ニッセイアセットマネジメント
大庭 脩平	シティグループ証券	佐藤 和佳子	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
大花 裕司	野村証券	田村 真一	極東証券経済研究所
長田 佳三	JPモルガン・アセット・マネジメント	竹間 雅子	SOMPOアセットマネジメント
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	仲西 恭子	アセットマネジメント One
川本 久恵	UBS証券	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント
栗山 乾一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	広住 勝朗	大和証券
桑原 明貴子	JPモルガン証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
高 英詞	野村アセットマネジメント	八並 純子	ニッセイアセットマネジメント
高口 伸一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	李 想	野村アセットマネジメント
佐治 広	みずほ証券		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

医薬品

1. 評価対象企業（19社）

エムスリー、協和キリン、武田薬品工業、アステラス製薬、住友ファーマ、塩野義製薬、日本新薬、中外製薬、エーザイ、小野薬品工業、参天製薬、テルモ、JCR ファーマ、第一三共、大塚ホールディングス、サワイグループホールディングス、シスメックス、オリンパス、朝日インテック

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	8
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	15
計		10	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 37 名（所属先 26 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、主に ESG 関連の評価項目や配点を増やすなどの見直しを行ったため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.1 点（昨年度 75.0 点）、総合評価点の標準偏差は 8.2 点（昨年度 7.6 点）であった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 75%（昨年度 78%）、説明会等が 73%（昨年度 76%）、フェア・ディスクロージャーが 92%（昨年度 83%）、ESG 関連が 71%（昨年度同率）、自主的信息開示が 65%（昨年度 71%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 10 項目のうち次のフェア・ディスクロージャーの項目の平均得点率が 80%以上となり（昨年度は 2 項目）、高水準であった。
 - ・「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 92% [昨年度 83%]）（得点率（評価点／配点（以下省略））：80%台 3 社・90%台 16 社）
- ④ 一方、次の自主的信息開示の項目および ESG 関連の中の 1 項目（下記⑤の(d)）は、60%台にとどまった。特に、自主的信息開示の項目については、評価対象企業間の得点率の差が大きく、下位評価の企業の改善が望ま

れる。

- ・「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それは有益でしたか」(平均得点率 65% [昨年度 71%]) (得点率: 20%台 1 社・40%台 1 社・50%台 4 社・60%台 5 社・70%台 4 社・80%台 4 社)

⑤ ESG 関連の 4 項目は、次のとおりとなった。なお、(d)は本年度の新設項目である。

- (a)「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」(平均得点率 71% [昨年度同率]) (得点率: 40%台 1 社・60%台 5 社・70%台 11 社・80%台 2 社)
- (b)「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか」(平均得点率 70% [昨年度同率]) (得点率: 30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 1 社・60%台 4 社・70%台 9 社・80%台 3 社)
- (c)「財務情報と非財務情報(環境や社会、人的資本に関する情報を含む)を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 74% [昨年度 72%]) (得点率: 50%台 1 社・60%台 5 社・70%台 8 社・80%台 5 社)
- (d)「非財務情報に関する定量的な開示がされていますか」(平均得点率 68%) (得点率: 40%台 1 社・50%台 2 社・60%台 6 社・70%台 8 社・80%台 2 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 アステラス製薬 (ディスクロージャー優良企業 [7 回目])

総合評価点 84.5 点 [昨年度比+3.8 点]、昨年度第 4 位)

- ① 同社は、説明会等が第 1 位 (得点率 (以下省略) 85%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位 (96%)、経営陣の IR 姿勢等 (86%)、ESG 関連 (81%) が第 2 位、自主的情報開示が同得点第 2 位 (82%) となり、昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」(第 1 位) および「経営陣の IR 姿勢」(第 2 位) が共に 85%以上の高い得点率となり、この分野においてトップと僅差の第 2 位 (昨年度第 4 位) となった。これらに関連して、IR 部門の対応は的確・迅速で、経営トップと投資家との対話の機会も多く設けてくれるとの声や、経営トップの IR へのコミットメントの高さを評価する声が寄せられた。また、トップレベルの IR を維持しつつ改善を目指す姿勢を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における会社側の説明 (質疑応答を含む) が十分であること」および「企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」が共に最も高い評価となり、これらの結果、この分野における第 1 位 (昨年度同得点第 4 位) となった。これらに関連して、決算説明資料が充実しているとの声や、市場規模予測などの開示を評価する声が寄せられた。また、事前ヒアリングを積極的に行うなど情報発信を向上させる姿勢があるとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」は、昨年度に続き同得点第 1 位となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。そのほかの 3 項目についてもいずれも第 3 位となり、特に、「財務情報と非財務情報 (環境や社会、人的資本に関する情報を含む) を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これらの結果、この分野において第 2 位 (昨年度第 5 位) となった。これらに関連して、経営計画に対する変化や進捗状況の説明を評価する声や、ESG データ集が理解しやすいとの声が寄せられた。また、サステナビリティミーティングの情報の充実を評価し、財務情報と非財務情報とのさらなる統合強化を期待する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」は得点率が改善し、同得点第 2 位 (昨年度同得点第 4 位) となった。これに関連して、投資家が期待するイベントを実施するなど情報発信力があるとの声や、更年期障害治療薬 fezolinetant に関す

るミーティング、R&D 説明会、デジタル戦略説明会などを評価する声が寄せられた。なお、プライマリーフォーカス領域における進捗のアップデートを望む声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 塩野義製薬（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 82.6 点〔昨年度比+0.4 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 3 位〕

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 1 位（87%）、説明会等が第 2 位（81%）、自主的情報開示が同得点第 2 位（82%）、ESG 関連が第 3 位（79%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 13 位（90%）となった。昨年度に比べフェア・ディスクロージャーの得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高く評価され、また、「IR 部門の機能、基本スタンス」も評価され、同得点第 3 位（昨年度同得点第 7 位）となった結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、経営トップ自らの IR 活動へのコミットメントや、それを支援する IR 部門の質が高いことを評価する声が寄せられた。なお、マネジメントおよび IR 部門の情報発信力を評価しつつも、投資家の期待に一層留意した内容を望む声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」が第 2 位となった。一方、「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」は、昨年度と比べ得点率が下がり、同得点第 6 位（昨年度同得点第 1 位）にとどまった。これらの結果、この分野において第 2 位（昨年度第 1 位）となった。これらに関連して、経営トップが直接質疑応答をしていること、決算説明会の際に各管掌の担当役員が登壇していることを評価する声が寄せられた。なお、主力商品以外の売上高や HIV 領域の戦略について十分な説明を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」は、昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第 13 位（昨年度第 17 位）となった。これに関連して、従来に比べ改善されているものの、さらなる改善を求める声が多かった。
- ⑤ ESG 関連においては、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が第 3 位となった。また、「財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」が第 4 位、本年度の新設項目である「非財務情報に関する定量的な開示がされていること」が同得点第 4 位となった。これらに関連して、ESG に関して経営陣が積極的で長期的なプランニングを示しているとの声や、サステナビリティデータ集の内容を評価する声が寄せられた。なお、ESG 説明会の開催を望む声もあった。「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」は第 7 位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」は同得点第 2 位となった。これに関連して、R&D 説明会、COVID-19 関連製品の説明会を評価する声があった。なお、HIV に関する説明会の継続を望む声もあった。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第 3 位 エーザイ（総合評価点 82.0 点〔昨年度比+3.1 点〕、昨年度第 5 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位（83%）、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（83%）、説明会等が第 5 位（79%）、フェア・ディスクロージャー（94%）、自主的情報開示（76%）が同得点第 5 位となり、昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が第 2 位（昨年度同得点第 7 位）、「経営陣の IR 姿勢」が第 3 位（昨年度第 10 位）となり、共に大きく順位が上がった結果、この分野において第 3 位（昨年度第 11 位）となった。これらに関連して、経営トップが IR に積極的であるなど経営陣の情報発信力は

高いとの声や、株式市場が求める情報の提供ができているとの声が寄せられた。また、IR部門にR&D担当を置いていることを評価する声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」が同得点第4位となり、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）は十分であること」が第5位となった。これらの結果、この分野において第5位（昨年度同得点第11位）となった。これらに関連して、決算説明会の資料は十分な量と質であるとの声が寄せられた。なお、決算説明会における効率的な説明を求める声や、中長期的な定量的なKPIの開示を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」は同得点第5位（昨年度同得点第9位）となった。これに関連して、IR部門の対応が改善されてきたとの声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」、「財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」および「非財務情報に関する定量的な開示がされていること」の3項目が最も高い評価となった。また、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」（同得点第7位）も昨年度に比べ得点率が改善した。これらの結果、この分野において第1位（昨年度第2位）となった。これらに関連して、ESGデータ集の内容が詳細かつわかりやすいとの声や、ESG説明会の開催や社外取締役との対話の機会を評価する声が寄せられた。なお、今後のサクセッションプランや人材育成についての開示に注目したいとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」は同得点第5位（昨年度第9位）となった。これに関連して、アルツハイマー病治療薬レカネマブ関連の説明会を評価する声があった。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (医薬品)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目2 (配点 25点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目2 (配点 20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目1 (配点 8点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目4 (配点 32点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点 15点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4503 アステラス製薬	84.5	21.5	2	17.0	1	7.7	1	26.0	2	12.3	2	4
2	4507 塩野義製薬	82.6	21.8	1	16.1	2	7.2	13	25.2	3	12.3	2	2
3	4523 エーザイ	82.0	20.8	3	15.7	5	7.5	5	26.6	1	11.4	5	5
4	4519 中外製薬	80.5	20.3	5	16.0	3	7.6	3	24.6	5	12.0	4	3
5	4568 第一三共	80.4	19.8	7	15.3	7	7.3	11	25.1	4	12.9	1	1
6	4502 武田薬品工業	79.1	20.3	5	15.5	6	7.6	3	24.3	6	11.4	5	6
7	6869 シスメックス	76.7	19.6	8	14.8	9	7.5	5	24.0	7	10.8	7	9
8	7733 オリンパス	75.5	19.4	9	14.4	13	7.7	1	23.8	8	10.2	9	7
9	4578 大塚ホールディングス	73.3	18.0	12	14.1	15	7.4	7	23.2	9	10.6	8	16
9	7747 朝日インテック	73.3	20.5	4	16.0	3	7.2	13	21.8	14	7.8	17	10
11	4543 テルモ	73.2	18.5	10	14.5	12	7.4	7	23.0	10	9.8	10	7
12	4151 協和キリン	72.1	18.0	12	14.6	11	7.2	13	23.0	10	9.3	12	10
13	4528 小野薬品工業	71.0	17.5	15	15.0	8	7.4	7	21.5	15	9.6	11	13
14	4506 住友ファーマ	70.8	18.2	11	14.2	14	7.3	11	22.9	12	8.2	15	12
14	4536 参天製薬	70.8	18.0	12	14.8	9	7.2	13	22.3	13	8.5	14	14
16	4887 サワイクグループホールディングス	65.8	17.5	15	13.4	16	7.4	7	20.2	17	7.3	18	17
17	4516 日本新薬	64.8	15.5	17	13.1	17	6.7	19	20.5	16	9.0	13	18
18	4552 JCRファーマ	60.5	14.8	18	12.6	18	6.9	17	18.1	18	8.1	16	15
19	2413 エムスリー	51.6	14.8	18	10.9	19	6.8	18	14.8	19	4.3	19	19
	評価対象企業評価平均点	73.09	18.68		14.63		7.32		22.68		9.78		

2023年度評価項目および配点（医薬品）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策、ビジネスモデルやリスクを説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。	18
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者とは有益なディスカッションができていますか。	7
【経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンスに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
・説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	10
(2)説明資料等における開示	
・企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。	10
【説明会、インタビュー、説明資料等における開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
3. フェア・ディスクロージャー（8点）	配点
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	8
【減点した場合には、その理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
4. ESGに関連する情報の開示（32点）	配点
①社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	10
②中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。	10
③財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいますか。	8
④非財務情報に関する定量的な開示がされていますか。	4
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（15点）	配点
・注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それは有益ですか。 [過去1年間を目安に評価]	15
【各業種の状況に即した自主的な情報開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	

医薬品専門部会委員

部会長	山口 秀丸	シティグループ証券
部会長代理	水野 要	東京海上アセットマネジメント
	酒井 文義	クレディ・スイス証券
	田中 洋	みずほ証券
	鳥居 彩	野村アセットマネジメント
	兵庫 真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
	若尾 正示	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（37名）

赤羽 高	東海東京調査センター	徳本 進之介	SMBC 日興証券
大伴 結以	三井住友 DS アセットマネジメント	外崎 勝仁	アセットマネジメント One
大野 剛	丸三証券	鳥居 彩	野村アセットマネジメント
奥下 諒	三井住友トラスト・アセットマネジメント	中名生 正弘	ジェフリーズ証券会社 東京支店
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	兵庫 真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
久保山 浩之	アセットマネジメント One	古山 和希	みずほ証券
熊谷 直美	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	真下 弘司	QUICK
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
栗山 乾一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	松原 弘幸	野村証券
高口 伸一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	水野 要	東京海上アセットマネジメント
酒井 文義	クレディ・スイス証券	森 貴宏	みずほ証券
佐藤 円香	シュローダー・インベストメント・マネジメント	八並 純子	ニッセイ アセット マネジメント
芝野 正紘	シティグループ証券	山口 秀丸	シティグループ証券
高橋 豊	極東証券経済研究所	山崎 みえ	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
田中 洋	みずほ証券	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
谷林 正行	QUICK	吉田 正夫	いちよし経済研究所
都築 伸弥	みずほ証券	若尾 正示	JP モルガン証券
勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

鉄鋼・非鉄金属

1. 評価対象企業（14社）

【鉄鋼】（5社）

日本製鉄、神戸製鋼所、JFEホールディングス、丸一鋼管、大同特殊鋼

【非鉄金属】（9社）

日本軽金属ホールディングス、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWAホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	10
計		13	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは17名（所属先17社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、**説明会等**および**ESG関連**を中心に項目内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は73.9点（昨年度72.2点）、総合評価点の標準偏差は7.1点（昨年度6.4点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（5社）は78.2点（昨年度74.2点）となった。また、非鉄金属（9社）は71.5点（昨年度71.1点）となり、鉄鋼および非鉄金属は共に、昨年度に比べ上昇した。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が72%（昨年度71%）、**説明会等**が80%（昨年度同率）、**フェア・ディスクロージャー**が86%（昨年度74%）、**ESG関連**が71%（昨年度同率）、**自主的な情報開示**が66%（昨年度62%）となり、**説明会等**および**ESG関連**を除く3分野は、昨年度に比べ改善した。
- ④ 評価項目について見ると、全13項目中、次の4項目（**説明会等の2項目(a)、(b)**、および**フェア・ディスクロージャーの2項目(c)、(d)**）が平均得点率80%以上となり、高い水準であった（昨年度は2項目）。

(a) 「収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されており、かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされ

- ていますか」(平均得点率 80% [昨年度 79%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 60%台 1社・70%台 6社・80%台 6社・90%台 1社)
- (b) 「四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはウェブ会議・電話会議を開催していますか。また、四半期決算の内容の理解に必要な情報が十分に開示されていますか」(平均得点率 99% [昨年度 91%]) (得点率: 80%台 1社・100%13社)
- (c) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」(平均得点率 88% [昨年度 79%]) (得点率: 80%台 6社・90%台 8社)
- (d) 「決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか」(平均得点率 85% [昨年度 72%]) (得点率: 60%台 1社・70%台 2社・80%台 6社・90%台 5社)
- ⑤ ESG 関連の 4 項目は、次のとおりとなった ((b) (c) (d) は、本年度の新設項目)。なお、(d) の平均得点率は、全 13 項目中で最も低くなった。
- (a) 「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に統合報告書等の資料、説明会等での確に伝えていますか」(平均得点率 76% [昨年度 75%]) (得点率: 50%台 1社・60%台 4社・70%台 3社・80%台 6社)
- (b) 「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。」(平均得点率 75%) (得点率: 60%台 2社・70%台 8社・80%台 4社)
- (c) 「社会貢献、人的資本、人権リスク、労働安全衛生等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。」(平均得点率 71%) (得点率: 60%台 4社・70%台 9社・80%台 1社)
- (d) 「社外取締役との対話の機会が確保されていますか」(平均得点率 12%) (得点率: 10%未満 6社・10%台 4社・20%台 3社・30%台 1社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 神戸製鋼所 (ディスクロージャー優良企業 [初受賞])

総合評価点 83.8 点 [昨年度比+5.5 点]、昨年度第 4 位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 86%)、ESG 関連 (81%) が第 1 位、説明会等が第 2 位 (87%)、自主的情報開示が第 3 位 (76%)、フェア・ディスクロージャーが第 6 位 (89%) となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 1 位 (昨年度第 4 位)、および「IR 部門の機能」が同得点第 1 位 (昨年度同得点第 8 位) となった。これに関連して、IR 部門の人員の増加、工場見学・事業説明会・スモールミーティングなど IR 機会が増加、トップも積極的にかかわっている、投資家との対話内容を開示に活かしているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が同得点第 1 位 (昨年度同得点第 5 位) となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」の「決算説明会等における会社側の説明は十分であること」はトップと僅差の同得点第 2 位、「インタビューにおいて、企業分析に有益な対話がなされていること」も僅差で第 2 位となった。これに関連して、インタビューでの情報開示は大きく改善しており、他社より充実しているとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 1 位 (昨年度同得点第 1 位) となった。その一方、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は第 6 位となり、昨年度第 2 位から順位を落とした。これらの結果、この分野において第 6 位 (昨年度第 2 位) となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「経営陣の ESG に対する取組姿勢」は同得点第 1 位、および「ESG に関する情報開示」が第 1 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位 (昨年度第 3 位) となった。ディスクロージャー面ではカーボンニュートラルへ向けた低炭素鉄源に関する取組みの開示及び説明などを評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第 3 位となった。評価できるイベントとして、事業説明会、ESG 説明会、発電所・工場見学会の開催が挙げられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 JFEホールディングス（総合評価点 81.5 点〔昨年度比+0.4 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（93%）、ESG 関連（79%）が第2位、経営陣の IR 姿勢等が第3位（80%）、説明会等（84%）が第4位、自主的情報開示（75%）が同得点第4位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第3位となった。これに関連して、人員が十分に配置されており、情報の集積が進んでいるとの声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」が第4位となった。これに関連して、トップの IR が改善傾向にあり、方向性が理解できるようになったとの声があった。なお、各事業会社トップの IR の機会を望む声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が同得点第1位（昨年度同得点第5位）となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」は第4位（昨年度第2位）となった。これらの結果、この分野において第4位（昨年度第2位）となった。これらに関連して、インタビューでの情報開示は他社より充実しているとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第1位（昨年度同順位）となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は第2位（昨年度第1位）となった。これに関連して、説明会動画、議事録、質疑応答要旨がウェブサイトに掲示されていることを評価するとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること」が最も高い評価となった。これに関連して、情報開示に積極的で、統合報告書が充実していることを評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第4位となった。評価できるイベントとして、ESG 説明会や千葉製鉄所見学会・仙台製造所見学会の開催が挙げられた。

第3位 日本製鉄（総合評価点 81.3 点〔昨年度比-0.3 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、説明会等が第1位（89%）、経営陣の IR 姿勢等が第2位（85%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（91%）、ESG 関連が同得点第4位（77%）、自主的情報開示が第10位（58%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率が大きく下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が、最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門における十分な人数と情報の深さを評価する声が寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」は第2位となった。これに関連して、トップマネジメントに発信力があり、今後の事業戦略が明解に伝わってくるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」の2項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、IR ツールの情報量が年々充実しており、進化が続いていることを評価する声や、業績予想に必要な定量的な数値の開示を評価する声があった。また、「説明会資料等における実績および見通しの開示」も第1位（昨年度第3位）となった。これらの結果、この分野で第1位（昨年度同得点第2位）となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が第3位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は昨年に比べ得点率が改善し、第5位（昨年度第8位）となった。これらに関連して、重要な投資案件に関する迅速な説明会の開催を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「経営陣の ESG に対する取組姿勢」は第6位（昨年度第2位）、「ESG に関する情報開示」は第3位（昨年度第2位）となった。これらに関連して、カーボンニュートラルに向けた方向性を含めて、統合報告書の充実度が高いと評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第10位（昨年度第6位）となり、平均得点率に達しなかった。

以上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (鉄鋼・非鉄金属)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目2 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、 IR資料等における 開示 評価項目4 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点10点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目4 (配点30点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点10点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5406 神戸製鋼所	83.8	25.7	1	17.4	2	8.9	6	24.2	1	7.6	3	4
2	5411 JFEホールディングス	81.5	24.1	3	16.8	4	9.3	2	23.8	2	7.5	4	2
3	5401 日本製鉄	81.3	25.6	2	17.8	1	9.1	3	23.0	4	5.8	10	1
4	5741 UACJ	79.0	23.5	4	16.7	5	9.1	3	23.0	4	6.7	9	3
5	5801 古河電気工業	77.3	21.9	5	15.7	9	9.4	1	23.1	3	7.2	7	6
6	5706 三井金属鉱業	75.9	21.6	6	16.1	6	8.5	9	21.6	8	8.1	1	7
7	5713 住友金属鉱山	75.2	21.0	9	15.1	13	9.1	3	22.5	6	7.5	4	8
8	5711 三菱マテリアル	75.1	21.4	8	15.2	12	8.7	8	22.0	7	7.8	2	5
9	5463 丸一鋼管	72.5	20.9	10	17.2	3	7.9	13	19.0	12	7.5	4	13
10	5471 大同特殊鋼	72.0	20.3	11	15.9	8	8.2	10	20.4	9	7.2	7	11
11	5803 フジクラ	69.6	21.6	6	16.0	7	7.4	14	19.6	11	5.0	12	10
12	5714 DOWAホールディングス	67.6	18.7	13	15.7	9	8.8	7	18.9	13	5.5	11	12
13	5802 住友電気工業	66.9	19.1	12	15.4	11	8.0	12	19.7	10	4.7	13	9
14	5703 日本軽金属ホールディングス	56.9	15.7	14	12.8	14	8.1	11	16.6	14	3.7	14	
	評価対象企業評価平均点	73.90	21.50		15.99		8.61		21.24		6.56		

2023年度評価項目および配点（鉄鋼・非鉄金属）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能	
・IR部門が十分に機能していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会等における会社側の説明は十分ですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
②インタビューにおいて、企業分析に有益な対話がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)説明会資料等における実績および見通しの開示	
・収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されており、かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	5
(3)四半期情報開示	
・四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはウェブ会議・電話会議を開催していますか。また、四半期決算の内容の理解に必要な情報が十分に開示されていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	5
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供	
・決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
(1)経営陣のESGに対する取組姿勢	
・経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に統合報告書等の資料、説明会等で的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)ESGに関する情報開示	
①脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。	8
②社会貢献、人的資本、人権リスク、労働安全衛生等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。	5
③社外取締役との対話の機会が確保されていますか。	2
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していた工場見学や説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部会長	山口 敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老 晴信	UBS 証券
	井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	尾崎 慎一郎	大和証券
	白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	竹元 宏和	明治安田アセットマネジメント
	松本 裕司	野村証券

評価実施アナリスト(17名)

井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	竹元 宏和	明治安田アセットマネジメント
入沢 健	立花証券	竹間 雅子	SOMPO アセットマネジメント
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	中村 宏司	QUICK
尾崎 慎一郎	大和証券	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
五老 晴信	UBS 証券	野田 健介	ニッセイ アセットマネジメント
崎村 英治	野村アセットマネジメント	松本 裕司	野村証券
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券	宮原 秀和	丸三証券
Xin Hao	JP モルガン証券	山口 敦	SMBC 日興証券
鈴木 博行	みずほ証券		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

電気・精密機器

1. 評価対象企業（24社）

【産業・民生エレクトロニクス部門】（9社）

日立製作所、三菱電機、オムロン、日本電気、富士通、ルネサスエレクトロニクス、パナソニックホールディングス、ソニーグループ、ヤマハ

【電子部品部門】（7社）

ミネベアミツミ、ニデック（注）、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門】（8社）

富士フイルムホールディングス、ディスコ、セイコーエプソン、アドバンテスト、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）日本電産が商号を変更した（2023年4月）。

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	5	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	10
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは76名（所属先31社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、フェア・ディスクロージャーおよびESG関連を中心に項目数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は76.7点（昨年度74.1点）、総合評価点の標準偏差は5.5点（昨年度7.8点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、精密機器部門（8社）が78.5点（昨年度75.5点）、産業・民生エレクトロニクス部門（9社）が77.2点（昨年度73.5点）、電子部品部門（7社）が74.0点（昨年度73.4点）となった。昨年度に比べ、精密機器部門および産業・民生エレクトロニクス部門が大きく上昇した。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が77%（昨年度73%）、説明会等が77%（昨年度74%）、フェア・ディスクロージャーが86%（昨年度84%）、ESG関連が78%（昨年度75%）、自主的信息開示が67%（昨年度65%）となり、5分野全てにおいて上昇し

た。

- ④ 評価項目について見ると、全 14 項目のうち、**フェア・ディスクロージャー**の次の項目および **ESG 関連**の中の 1 項目（下記⑥の(a)）が 80%以上の平均得点率となり、高水準であった。

- ・ 「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 86% [昨年度 84%]）（得点率（評価点/配点<以下省略>）：70%台 5 社・80%台 11 社・90%台 8 社）

- ⑤ 一方、**自主的情報開示**の次の項目は平均得点率が 67%と、昨年度に続き最も低かった。

- ・ 「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率 67% [昨年度 65%]）（得点率：50%台 6 社・60%台 8 社・70%台 8 社・80%台 2 社）

- ⑥ **ESG 関連**の 5 項目は、次のとおりとなり、いずれも 75%以上の平均得点率となった。なお、(b)は本年度の新規項目である。

- (a) 「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか」（平均得点率 80% [昨年度 78%]）（得点率：60%台 2 社・70%台 6 社・80%台 14 社・90%台 2 社）
- (b) 「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか」（平均得点率 77%）（得点率：60%台 3 社・70%台 13 社・80%台 7 社・90%台 1 社）
- (c) 「上記(a)(b)に限らず、各企業が重要と考える ESG に関連する情報を積極的に開示していますか」（平均得点率 77% [昨年度同率]）（得点率：60%台 3 社・70%台 12 社・80%台 8 社・90%台 1 社）
- (d) 「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」（平均得点率 76% [昨年度 72%]）（得点率：50%台 1 社・60%台 3 社・70%台 11 社・80%台 8 社・90%台 1 社）
- (e) 「(上記(a)~(d)の) ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか」（平均得点率 78% [昨年度 75%]）（得点率：40%台 1 社・60%台 2 社・70%台 7 社・80%台 11 社・90%台 3 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 オムロン（ディスクロージャー優良企業 [4 回連続 9 回目]、総合評価点 86.8 点 [昨年度比+1.3 点]）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉88%）、**ESG 関連**（92%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 1 位（94%）、**説明会等**が同得点第 6 位（83%）、**自主的情報開示**が第 7 位（73%）となった。昨年度に比べ、**説明会等**および**自主的情報開示**を除く 3 分野において得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が最も高い評価となった。「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（第 2 位）も高く評価された。また、「IR 部門の機能、基本的スタンス」も昨年度に比べ得点率を改善した。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、**ESG** が経営理念にビルトインされており、投資家への説明も十分に行われているとの声や、**ESG** データ集と統合報告書による開示内容が充実しているとの声が寄せられた。また、引き続き、新経営陣による IR への積極的な関与に期待したいとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」が同得点第 1 位となった。また、「決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していること」（同得点第 5 位）および「説明会資料等における開示」（同得点第 6 位）がいずれも 80%以上の得点率となった。これらに関連して、短期業績だけでなく中長期的な戦略についても説明している点を評価する声や、決算説明会資料の利益増減要因の説明内容は年々改善しているとの声が寄せられた。なお、事業別の受注

動向などのデータの充実に期待する声や、資料に掲載するデータの継続性を望む声もあった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は最も高い評価となった。これに関連して、社長交代会見の内容を評価する声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、5 項目全てにおいて最も高い評価となり、いずれも 90%以上の得点率であった。これらに関連して、ESG に関する開示内容は充実しており、KPI の設定についても評価できるとの声や、セグメント別にサステナビリティの目標と実績が開示されていることを評価する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 7 位となった。有益なイベントとして、ESG 説明会を挙げる声が多く寄せられた。なお、工場や開発拠点などの見学会の開催を期待する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 日立製作所（総合評価点 84.9 点〔昨年度比+0.4 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 2 位（87%）、経営陣の IR 姿勢等（86%）、自主的情報開示（79%）が第 3 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位（92%）、説明会等が同得点第 8 位（82%）となった。昨年度に比べ、ESG 関連および自主的情報開示を除く 3 分野において得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 2 位）および「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（同得点第 3 位）が共に 85%以上の得点率となり、高く評価された。これらに関連して、経営トップや CFO などとの対話の機会が継続的に提供されていること、経営方針が明確に示されていることを評価する声があったほか、市場との対話に対する経営トップの意識の高さを評価する声も寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が同得点第 1 位となった。また、「説明会における開示」の 2 項目も共に 80%以上の得点率となった。これに関連して、補足説明資料が充実しているとの声や、セグメント別の財務指標の開示が豊富であるとの声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、トップと僅差の第 3 位となった。これに関連して、メディア、アナリスト向けの質疑応答に相互に参加できることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、5 項目全てにおいて高い評価となり、いずれも 85%以上の得点率であった。この結果、この分野において第 2 位となった。これらに関連して、人材開発、R&D、グリーン戦略など ESG において重要性の高い事項について説明会が開催され、それぞれの取組みについて紹介していることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 3 位となった。有益なイベントとして、Investor Day を挙げる声が多く寄せられ、Investor Day における社外取締役との対話、人財戦略説明などの企画を評価する声もあった。

第 3 位 富士フイルムホールディングス（総合評価点 83.7 点〔昨年度比+4.1 点〕、昨年度第 6 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 3 位（86%）、説明会等（84%）、自主的情報開示（78%）が第 4 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 5 位（90%）、経営陣の IR 姿勢等が第 7 位（83%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野において得点率が改善したが、特に、説明会等の改善幅が大きかった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本的スタンス」が昨年度に比べ得点率を改善し、第 7 位（昨年度第 9 位）となった。これに関連して、当社の事業領域は多岐にわたるが、中長期的な経営分析も含め

た有益な議論を IR 部門との間でできるとの声や、ヘルスケア事業を前面に打ち出すなどして、コングロマリットでわかりにくい業務実態を理解できるように工夫していることを評価する声が寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目も共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップの企業価値向上への意識は高く、各種説明会で経営方針や中期経営計画について自ら情報発信している点の評価する声があった。

- ③ **説明会等**においては、4 項目全てが昨年度に比べ得点率を改善し、いずれも 80%以上の得点率となった。この結果、この分野において第 4 位（昨年度第 13 位）となった。これらに関連して、各事業・製品に対する投資家の理解を促進するために、継続的に各種説明会を開催し、資料の充実を行っていることを評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、トップと僅差の同得点第 5 位（昨年度第 14 位）となった。これらに関連して、説明会資料、スクリプト、質疑応答などがウェブサイトに掲載されている点の評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」（第 2 位）および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（同得点第 2 位）が、いずれも 90%以上の得点率となった。そのほかの 3 項目も 80%以上の得点率となった。これらに関連して、ESG の各重点分野の長期目標と当社各事業との関連性を整理しわかりやすく投資家に伝えている、また、人的資本に関連する健康経営への取組みについてもわかりやすく解説しているとの声が寄せられた。また、サステナビリティレポートでは、地域、事業、物質別の開示が詳細で、環境法規制違反件数などのネガティブ情報の開示もされており信頼できるとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 4 位となった。有益なイベントとして、電子材料事業説明会、バイオ CDMO 事業説明会などの各種事業説明会が挙げられた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ アドバンテスト（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 82.2 点〔昨年度比+7.9 点、一昨年度比+0.6 点〕、第 5 位〔昨年度第 14 位、一昨年度第 8 位〕

- ① 同社は、**説明会等**が第 2 位（85%）、**自主的情報開示**が第 5 位（77%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 6 位（84%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 9 位（88%）、**ESG 関連**が第 12 位（79%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し、第 5 位となった（昨年度比 9 ランクアップ）。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本的スタンス」が昨年度に比べ得点率を大きく改善し、第 3 位となった。また、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目も共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、IR 部門は経営に関して議論する情報を十分に有しているとの声や、経営陣と投資家との対話の機会が充実しているとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が同得点第 1 位となったほか、「説明会における開示」の 2 項目および「インタビュー等における開示」が、いずれも 80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野においてトップと僅差の第 2 位となった。これらに関連して、説明会資料には十分な情報が網羅されているとの声や、市場見通しや競争環境などの説明を評価する声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」（同得点第 9 位）は、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」（同得点第 4 位）および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（同得点第 8 位）が共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、ESG と企業価値拡大とをリンクさせて説明している点の評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 5 位となった。有益なイベントとして、技術説明会、サステナビリティ説明会を挙げる声が多かった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

○ **HOYA**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 79.9 点〔昨年度比+5.5 点、一昨年度比+4.6 点〕、第 8 位〔昨年度第 13 位、一昨年度第 13 位〕）

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（86%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位（92%）、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（85%）、ESG 関連が同得点第 14 位（77%）、自主的情報開示が第 23 位（53%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し、第 8 位となった（昨年度比 5 ランクアップ）。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が最も高い評価となった。また、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（同得点第 7 位）が 85%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップが IR の重要性を認識し積極的に関与しているとの声や、IR 部門には十分な情報が集積され説明能力も高いとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「インタビュー等における開示」が最も高い評価となり、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」も同得点第 1 位となった。また、そのほかの 2 項目も共に、80%以上の得点率となったことから、この分野において第 1 位（昨年度同得点第 6 位）となった。これらに関連して、経営陣や IR 部門のコメントについて、率直で適切であり、また、ネガティブ情報も提供してくれるなど信頼感があるとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 3 位となった。これに関連して、決算説明会のトランスクリプトだけでなく、機関投資家からの主な質疑応答の内容もウェブサイトに掲載していることを評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」（同得点第 4 位）および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（同得点第 8 位）が共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、統合報告書におけるコーポレートガバナンスの記載内容は理解しやすいとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 23 位となった。有益なイベントとして、経営トップとのミーティングが挙げられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

（参考） 部門別の第 1 位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

オムロン（総合評価点 86.8 点、全体第 1 位）

【電子部品部門】

ミネベアミツミ（総合評価点 80.2 点、全体第 7 位）

【精密機器部門】

富士フイルムホールディングス（総合評価点 83.7 点、全体第 3 位）

以 上

2023年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)		1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
		評価項目3 (配点35点)	評価項目4 (配点20点)	評価項目1 (配点5点)	評価項目5 (配点30点)	評価項目1 (配点5点)	評価項目1 (配点10点)	評価項目5 (配点30点)	評価項目1 (配点5点)	評価項目1 (配点10点)	評価項目5 (配点30点)	評価項目1 (配点10点)		
1	6645 オムロン	30.7	16.5	4.7	27.6	7.3	1	1	1	7	1			
2	6501 日立製作所	30.0	16.3	4.6	26.1	7.9	3	3	2	3	2			
3	4901 富士フイルムホールディングス	29.0	16.7	4.5	25.7	7.8	5	5	3	4	6			
4	8035 東京エレクトロン	30.1	16.5	4.4	24.0	7.5	9	9	7	6	4			
5	6857 アドバンテクト	29.3	17.0	4.4	23.8	7.7	9	9	12	5	14			
6	6758 ソニーグループ	29.4	15.4	3.9	25.3	8.1	20	20	4	2	3			
7	6479 ミネベアミツミ	28.9	15.9	4.4	23.9	7.1	9	9	9	9	4			
8	7741 HOYA	29.7	17.1	4.6	23.2	5.3	3	3	14	23	13			
9	6724 セイコーエプソン	28.4	15.3	4.5	23.9	7.2	5	5	9	8	11			
10	6981 村田製作所	27.5	16.9	4.3	23.6	6.4	13	13	13	14	7			
11	7752 リコー	27.2	14.4	4.7	25.2	6.3	1	1	5	15	7			
12	7951 ヤマハ	28.0	15.0	4.4	24.8	5.5	9	9	6	22	12			
13	6963 ローム	25.5	16.3	4.1	24.0	6.8	19	19	7	12	16			
14	6723 ルネサスエレクトロニクス	27.0	16.6	4.3	21.0	6.9	13	13	21	11	17			
15	6752 パナソニックホールディングス	25.8	13.8	4.2	22.9	8.2	15	15	16	1	22			
16	6762 TDK	25.6	16.1	4.2	22.7	5.0	15	15	17	24	15			
17	7751 キヤノン	24.5	13.8	4.5	23.2	6.3	5	5	14	15	20			
18	6594 ニデック	26.5	15.4	3.9	20.7	5.6	20	20	22	20	10			
19	6701 日本電気	24.1	14.4	3.8	22.6	7.1	22	22	18	9	18			
20	6702 富士通	24.4	13.2	3.7	23.9	5.9	24	24	9	19	9			
21	6146 デイコ	25.2	15.8	4.5	18.3	6.1	5	5	24	17	19			
22	6503 三菱電機	23.2	14.1	4.2	21.3	6.8	15	15	20	12	23			
23	6988 日東電工	25.5	14.5	3.8	18.9	5.6	22	22	23	20	24			
24	6971 京セラ	22.1	13.9	4.2	22.0	6.0	15	15	19	18	20			
	評価対象企業評価平均点	26.99	15.46	4.28	23.27	6.68								

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (産業・民生エレクトロニクス部門)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目4 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目1 (配点5点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目5 (配点30点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点10点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6645 オムロン	86.8	30.7	1	16.5	2	4.7	1	27.6	1	7.3	4	1
2	6501 日立製作所	84.9	30.0	2	16.3	3	4.6	2	26.1	2	7.9	3	2
3	6758 ソニーグループ	82.1	29.4	3	15.4	4	3.9	7	25.3	3	8.1	2	3
4	7951 ヤマハ	77.7	28.0	4	15.0	5	4.4	3	24.8	4	5.5	9	5
5	6723 ルネサス エレクトロニクス	75.8	27.0	5	16.6	1	4.3	4	21.0	9	6.9	6	6
6	6752 パナソニック ホールディングス	74.9	25.8	6	13.8	8	4.2	5	22.9	6	8.2	1	8
7	6701 日本電気	72.0	24.1	8	14.4	6	3.8	8	22.6	7	7.1	5	7
8	6702 富士通	71.1	24.4	7	13.2	9	3.7	9	23.9	5	5.9	8	4
9	6503 三菱電機	69.6	23.2	9	14.1	7	4.2	5	21.3	8	6.8	7	9
	評価対象企業評価平均点	77.22	26.96		15.03		4.20		23.95		7.08		

2023年度 ディスクロージャ評価比較総括表（電子部品部門）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャリー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6479 ミネベアミツミ	80.2	28.9	1	15.9	4	4.4	1	23.9	2	7.1	1	1
2	6981 村田製作所	78.7	27.5	2	16.9	1	4.3	2	23.6	3	6.4	3	2
3	6963 ローム	76.7	25.5	5	16.3	2	4.1	5	24.0	1	6.8	2	5
4	6762 TDK	73.6	25.6	4	16.1	3	4.2	3	22.7	4	5.0	7	4
5	6594 ニデック	72.1	26.5	3	15.4	5	3.9	6	20.7	6	5.6	5	3
6	6988 日東電工	68.3	25.5	5	14.5	6	3.8	7	18.9	7	5.6	5	7
7	6971 京セラ	68.2	22.1	7	13.9	7	4.2	3	22.0	5	6.0	4	6
	評価対象企業評価平均点	73.98	25.94		15.58		4.13		22.26		6.07		

2023年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（精密機器部門）

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目4 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャ－ 評価項目1 (配点5点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目5 (配点30点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点10点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	富士フイルムホールディングス	83.7	29.0	4	16.7	3	4.5	3	25.7	1	7.8	1	2
2	東京エレクトロン	82.5	30.1	1	16.5	4	4.4	7	24.0	3	7.5	3	1
3	アドバンテスト	82.2	29.3	3	17.0	2	4.4	7	23.8	5	7.7	2	6
4	HOYA	79.9	29.7	2	17.1	1	4.6	2	23.2	6	5.3	8	5
5	セイコーエプソン	79.3	28.4	5	15.3	6	4.5	3	23.9	4	7.2	4	4
6	リコー	77.8	27.2	6	14.4	7	4.7	1	25.2	2	6.3	5	3
7	キヤノン	72.3	24.5	8	13.8	8	4.5	3	23.2	6	6.3	5	8
8	ディスコ	69.9	25.2	7	15.8	5	4.5	3	18.3	8	6.1	7	7
	評価対象企業評価平均点	78.49	27.93		15.84		4.51		23.43		6.78		

2023年度評価項目および配点（電気・精密機器）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	11
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションが出来ますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明会資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(3)インタビュー等における開示	
・主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	5
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか。	6
②ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。	6
③上記①、②に限らず、各企業が重要と考えるESGに関連する情報を積極的に開示していますか。	6
④資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
⑤上記①～④のESG情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M & A説明会・社外取締役を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間） 【有益な説明会・見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

電気・精密機器専門部会委員

部会長	佐渡 拓実	大和証券
部会長代理	江澤 厚太	シイグループ証券
	綾田 純也	JPモルガン証券
	桂 竜輔	SMBC日興証券
	富井 喜隆	三菱UFJアセットマネジメント
	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	和田木 哲哉	三菱UFJモルガン・スタンレー証券

評価実施アナリスト（76名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	杉浦 徹	大和証券
秋月 学	野村証券	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
綾田 純也	JPモルガン証券	高橋 豊	極東証券経済研究所
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	田中 健士	みずほ証券
石田 重和	丸三証券	田中 秀明	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
和泉 美治	SBI証券	谷林 正行	QUICK
磯 光裕	野村アセットマネジメント	竹間 雅子	SOMPOアセットマネジメント
板倉 充知	SOMPOアセットマネジメント	坪井 暁	ニッセイアセットマネジメント
伊藤 健悟	QUICK	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
今津 拓洋	アセットマネジメント One	外崎 勝仁	アセットマネジメント One
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	富井 喜隆	三菱UFJアセットマネジメント
内野 晃彦	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
浦 昌平	アムンティ・イン・ジャパン	中根 康夫	みずほ証券
江澤 厚太	シイグループ証券	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
大川 淳士	大和証券	仲田 育弘	マコーリーキャピタル証券会社
大野 剛	丸三証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大牧 実慶	立花証券	西平 孝	岡三証券
岡崎 優	野村証券	長谷川 義人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
岡田 真一	三菱UFJ信託銀行	原嶋 悠也	SOMPOアセットマネジメント
小野 まな実	三菱UFJ信託銀行	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPOアセットマネジメント
桂 竜輔	SMBC日興証券	藤原 毅郎	シイグループ証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	堀 雄介	みずほ証券
木村 光宏	野村アセットマネジメント	堀井 章	ニッセイアセットマネジメント
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	グレーム マクドナルド	シイグループ証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	道脇 祐介	三菱UFJ信託銀行
小林 守伸	ニッセイアセットマネジメント	宮原 秀和	丸三証券
小宮 知希	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	森 貴宏	みずほ証券
斉田 健一	みずほ証券	安田 秀樹	東洋証券
佐々木 健太郎	シュローダー・インベストメント・マネジメント	山崎 雅也	野村証券
佐渡 拓実	大和証券	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
佐原 孝輔	丸三証券	山田 幹也	みずほ証券
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	山田 陽子	三菱UFJ信託銀行
鹿内 美欧	JPモルガン証券	山本 真以人	ニッセイアセットマネジメント
芝野 正紘	シイグループ証券	横山 雄一	三菱UFJ信託銀行
嶋 龍真	野村アセットマネジメント	和田木 哲哉	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
下森 浩	三菱UFJ信託銀行	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFJ証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

自動車・同部品・タイヤ

1. 評価対象企業 (21 社)

【自動車メーカー】(10 社)

日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機

【自動車部品メーカー】(7 社)

トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、アイシン、小糸製作所、豊田合成、ニフコ

【タイヤメーカー】(4 社)

横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業

(証券コード協議会銘柄コード順)

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	1	10
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	15
計		8	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 23 名 (所属先 17 社) である。(氏名等は後掲)

3. 評価結果

(1) 総括 (「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲)

- ① 本年度は、項目数・内容、配点を一部見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.4 点 (昨年度 64.8 点)、総合評価点の標準偏差は 7.3 点 (昨年度 6.5 点) であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、タイヤメーカー (4 社) 67.8 点 (昨年度 65.9 点)、自動車部品メーカー (7 社) 63.9 点 (昨年度 64.1 点)、自動車メーカー (10 社) 63.4 点 (昨年度 64.8 点) となった。タイヤメーカーは昨年度に続き総合評価平均点を伸ばした。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率 (評価対象企業の平均点 / 配点 (以下省略)) を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 66% (昨年度 67%)、**説明会等**が 70% (昨年度 69%)、**フェア・ディスクロージャー**が 72% (昨年度 73%)、**ESG 関連**が 62% (昨年度 60%)、**自主的情報開示**が 60% (昨年度 63%) となった。
- ④ 評価項目について見ると、70%以上となったものは次の 2 項目 (**説明会等**の項目 (a)、**フェア・ディスクロージャー**の項目 (b)) であった。そのほかは全て 60% 台であった。

- (a) 「説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか」(平均得点率 70% [昨年度 69%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)) : 50%台 2社・60%台 6社・70%台 13社)
- (b) 「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示 (メディア対応を含む) に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容 (質疑応答を含む) を日英両言語でタイムリーに提供していますか」(平均得点率 72% [昨年度 73%]) (得点率 : 60%台 7社・70%台 11社・80%台 3社)
- ⑤ ESG 関連の 3 項目は次のとおりとなった。
- (a) 「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していますか。また、適切にアップデートしていますか」(平均得点率 60% [昨年度 56%]) (得点率 : 40%台 1社・50%台 12社・60%台 5社・70%台 3社)
- (b) 「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか (社会に関する情報、人的資本など)」(平均得点率 66% [昨年度同率]) (得点率 : 50%台 3社・60%台 12社・70%台 5社・80%台 1社)
- (c) 「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか」(平均得点率 61% [昨年度同率]) (得点率 : 30%台 2社・50%台 5社・60%台 9社・70%台 3社・80%台 2社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 ブリヂストン (ディスクロージャー優良企業 [2 回連続 2 回目]、総合評価点 78.6 点 [昨年度比+2.7 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 84%)、ESG 関連 (80%) が第 1 位、説明会等が第 2 位 (78%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位 (80%)、自主的情報開示が第 4 位 (66%) となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップは企業価値向上への意識が極めて高く、IR における説明も積極的との声 (P1) が寄せられたほか、IR 部門には経営状況に関する情報が集約されているとの声もあった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」は昨年度に比べ得点率が改善し、第 2 位 (昨年度第 5 位) となった。これに関連して、説明資料は定量情報の開示項目が増えるなど充実しているとの声や、中期事業計画の進捗状況の説明を評価する声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示 (メディア対応を含む) に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容 (質疑応答を含む) を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 2 位 (昨年度同得点第 3 位) となった。これに関連して、日英両言語での説明会動画の配信を評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」および「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること (社会に関する情報、人的資本など)」が共に最も高い評価となった。「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」も同得点第 1 位となった。これらに関連して、ESG への意識やビジネスモデルを積極的に情報開示しているとの声や、脱炭素、ESG 情報の開示内容のレベルも高いとの声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 4 位となった。これに関連して、経営トップによるスモールミーティングや、中期事業計画のアップデートを評価する声があった。一方、今後、工場見学会再開を期待する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 デンソー（総合評価点 76.1点〔昨年度比+1.5点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、自主的情報開示が第1位（79%）、ESG 関連が第2位（76%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第3位（73%）、説明会等が同得点第3位（76%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が昨年度に比べ得点率を改善し、同得点第2位（昨年度第8位）となった。これに関連して、決算説明会の説明がわかりやすい、経営の考え方について透明性が高いとの声が寄せられた。なお、経営トップ（社長）の決算説明会への参加を望む声があった。「IR 部門の機能」については第9位にとどまった。これに関連して、企業規模に応じた IR 部門の体制充実や個別取材を原則受け付けていない点の改善を望む声があった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」は同得点第3位となった。これに関連して、決算説明会後のフォローを評価する声や、インタビューにおける数値の開示が充実しているとの声が寄せられた。なお、主要な個別製品の売上高、利益の開示を望む声や、事業セグメント群を一貫したものとしてほしいとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第2位（昨年度同得点第3位）となった。これに関連して、ウェブサイトにて、決算説明会の質疑応答を英語で掲載していることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」が昨年度に比べ得点率を改善し、同得点第1位となった。これに関連して、株主還元方針が明確に示されているとの声が寄せられた。また、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」および「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること（社会に関する情報、人的資本など）」が共に第2位となった。これらに関連して、統合報告書などの環境開示レベルが高いとの声があった。なお、商品群ごとの具体的な技術ロードマップや将来の事業規模などの開示を望む声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は最も高い評価となった。これに関連して、ダイアログデー、半導体戦略説明会、安城製作所見学会などの開催を高く評価する声が寄せられた。

第3位 豊田合成（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 72.2点〔昨年度比+0.7点〕、昨年度第3位〔一昨年度第2位〕

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第1位（82%）、経営陣の IR 姿勢等（74%）、自主的情報開示（78%）が第2位、ESG 関連が第5位（67%）、説明会等が同得点第10位（72%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第4位となり、「経営陣の IR 姿勢」も同得点第4位となった。これらに関連して、セーフティシステム事業見学会、技術展示会の開催を含めて IR を強化していることや、開示の姿勢が優れていることを評価する声が寄せられた。なお、経営トップとの対話機会の多さを評価しつつも、社長との接点がやや減ったとの声があった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」は同得点第10位となった。これに関連して、地域別の利益増減要因が開示されているなど、開示資料における定量情報が充実しているとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は最も高い評価となった。これに関連して、各種イベントの内容や説明会での質疑応答要旨をウェブサイトに掲載していることを評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること（社会に関する情報、人的資本など）」が第3位となり、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、

中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」は第6位となった。「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」(第10位)は平均得点率程度にとどまった。これらに関連して、SRミーティングの開催など積極的な開示を評価する声が寄せられた。なお、資本政策、株主還元を含む財務戦略について十分な説明を望む声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」はトップと僅差の第2位となった。これに関連して、各種事業説明会、見学会の内容を評価する声が多く寄せられたほか、成長分野であるエアバックの工場見学会や米国拠点でのスモールミーティングの開催など投資家の期待に応える積極的な開示姿勢を評価する声もあった。

同社は、3回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「**高水準のディスクロージャーを連続維持している企業**」に選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5108 プリヂストーン	78.6	21.0	1	7.8	2	8.0	2	31.9	1	9.9	4	1
2	6902 デンソー	76.1	18.3	3	7.6	3	8.0	2	30.3	2	11.9	1	2
3	7282 豊田合成	72.2	18.4	2	7.2	10	8.2	1	26.7	5	11.7	2	3
4	7203 トヨタ自動車	71.7	17.8	6	7.6	3	7.3	10	27.7	3	11.3	3	4
5	7270 SUBARU	67.9	17.8	6	7.9	1	7.7	6	24.9	10	9.6	10	5
6	3116 トヨタ紡織	66.8	16.8	12	7.4	6	7.2	11	25.7	6	9.7	5	12
7	7201 日産自動車	66.7	17.5	8	6.2	18	7.9	4	25.4	8	9.7	5	6
8	7272 ヤマハ発動機	66.6	16.7	13	7.3	7	7.8	5	25.3	9	9.5	12	8
9	7267 本田技研工業	66.4	16.1	14	7.1	12	7.6	7	26.8	4	8.8	14	9
10	7261 マツダ	65.1	17.0	10	7.5	5	7.5	9	23.4	15	9.7	5	16
11	5101 横浜ゴム	64.7	18.1	4	7.3	7	7.1	13	23.9	14	8.3	15	17
12	5105 TOYO TIRE	64.3	17.3	9	7.3	7	6.8	16	23.3	17	9.6	10	10
13	5110 住友ゴム工業	63.7	15.6	15	7.2	10	7.0	14	24.2	12	9.7	5	14
14	7211 三菱自動車工業	62.9	17.0	10	6.8	14	7.6	7	21.8	19	9.7	5	13
15	7259 アイシン	62.5	14.3	18	6.5	17	6.9	15	25.7	6	9.1	13	11
16	7202 いすゞ自動車	62.1	15.5	16	7.1	12	7.2	11	24.5	11	7.8	17	7
17	7988 ニフコ	61.1	17.9	5	6.6	16	6.0	19	24.2	12	6.4	19	15
18	7269 スズキ	57.6	13.8	19	6.7	15	6.5	17	23.1	18	7.5	18	18
19	7276 小糸製作所	56.6	14.8	17	6.2	18	6.4	18	23.4	15	5.8	20	20
20	6201 豊田自動織機	51.9	11.3	21	5.8	20	6.0	19	20.5	20	8.3	15	19
21	7205 日野自動車	47.4	12.1	20	5.2	21	6.0	19	18.5	21	5.6	21	21
	評価対象企業評価平均点	64.42	16.43		6.97		7.18		24.81		9.03		

2023年度評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
<p>・経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。</p>	15
(2)IR部門の機能	
<p>・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）</p>	10
<p>【経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンスに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】</p>	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（10点）	配点
<p>・説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。</p>	10
<p>【説明会、インタビュー、説明資料等における開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】</p>	
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
<p>・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。</p>	10
<p>【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】</p>	
4. ESGに関連する情報の開示（40点）	配点
<p>①脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していますか。また、適切にアップデートしていますか。</p>	20
<p>②脱炭素に限らず、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。（社会に関する情報、人的資本など）</p>	10
<p>③資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか。</p>	10
<p>【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】</p>	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（15点）	配点
<p>・事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。〔過去1年間を目安に評価〕</p>	15
<p>【各業種の状況に即した自主的な情報開示に関し、評価した説明会名および理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】</p>	

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部会長	箱守 英治	大和証券
部会長代理	高橋 耕平	UBS証券
	安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	岩井 徹	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	楯本 将隆	野村証券
	坂口 大陸	みずほ証券
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（23名）

新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	坂口 大陸	みずほ証券
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	坂牧 史郎	大和証券
石本 渉	野村証券	高田 悟	ティー・アイ・ダウリュ
石山 孝高	みずほ証券	高橋 耕平	UBS証券
岩井 徹	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	田中 健司	アセットマネジメント One
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	成瀬 伸弥	岡三証券
江口 由紀	野村アセットマネジメント	箱守 英治	大和証券
岡田 真一	三菱UFJ信託銀行	花井 美穂	SOMPOアセットマネジメント
木下 壽英	SMBC日興証券	広川 孝一	JPモルガン・アセット・マネジメント
楯本 将隆	野村証券	牧 一統	SMBC日興証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	吉田 有史	シティグループ証券
小西 慶祐	QUICK		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

エネルギー

1. 評価対象企業（22社）

【石油・鉱業部門】（5社）

INPEX、石油資源開発、出光興産、ENEOSホールディングス、コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（17社）

岩谷産業（注）、日本瓦斯、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、電源開発、イーレックス、レノバ、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）昨年度、トライアル評価を実施した（次年度の評価を見据えた予備的な評価で、評価結果は非公表）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	35
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	5
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは20名（所属先17社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、ESG関連を中心に項目内容を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は61.3点（昨年度62.7点）、総合評価点の標準偏差は8.5点（昨年度8.8点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5社）が70.3点（昨年度72.4点）、電力・ガス部門（17社）が58.7点（昨年度59.7点）となった。さらに業態を細分化して見ると点数の高い順に、石油73.5点（昨年度73.3点）、鉱業65.5点（昨年度71.2点）、ガス63.3点（昨年度68.1点）、電力56.8点（昨年度56.9点）となった。昨年度に比べ、鉱業およびガスの総合評価平均点が大きく下がった。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が61%（昨年度63%）、説明会等が61%（昨年度同率）、フェア・ディスクロージャーが84%（昨年度同率）、ESG関連が59%（昨年度60%）、自主的信息開示が60%（昨年度61%）となった。

④ 評価項目（全 12 項目）について見ると、次のとおり、フェア・ディスクロージャーの 2 項目は平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。

(a) 「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」(平均得点率 92% [昨年度 98%]) (得点率(評価点/配点(以下省略)): 80%2社・90%14社・100%6社)

(b) 「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会(説明会、決算説明会の資料・質疑応答等)を確保していますか」(平均得点率 82% [昨年度 81%]) (得点率: 70%台 5社・80%台 15社・90%台 2社)

⑤ 一方、次の、**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目は、平均得点率が 32%となり、全項目の中で最も低くなった。一部の評価対象企業(東京瓦斯、関西電力、九州電力、東京電力ホールディングス、出光興産、中国電力、コスモエネルギーホールディングス)においては、社外取締役との対話が評価された。しかし、多くの企業は 10%台以下となっており、当該企業には改善を強く求めたい。

・ 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 32% [昨年度 20%]) (得点率: 10%未満 2社、10%台 12社・20%台 1社・50%台 1社・60%台 1社・70%台 3社・80%台 2社)

⑥ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなった。なお、(a)および(b)は、本年度の新規項目である。

(a) 「非財務情報(気候変動問題等の環境分野)について、統合報告書などで株式市場が求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか」(平均得点率 63%) (得点率: 40%台 2社・50%台 4社・60%台 11社・70%台 4社・80%台 1社)

(b) 「非財務情報(人的資本等の社会分野)について、統合報告書などで株式市場が求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか」(平均得点率 63%) (得点率: 40%台 1社・50%台 1社・60%台 18社・70%台 2社)

(c) 「中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」(平均得点率 56% [昨年度 61%]) (得点率: 30%台 3社・40%台 5社・50%台 5社・60%台 4社・70%台 4社・80%台 1社)

(d) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報」(平均得点率 53% [昨年度 54%]) (得点率: 30%台 1社・40%台 5社・50%台 9社・60%台 7社)

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 出光興産 (ディスクロージャー優良企業(初受賞)、

総合評価点 73.9 点 [昨年度比+1.8 点]、昨年度第 3 位)

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等** (77%)、**ESG 関連** (73%) が第 2 位、**自主的情報開示**が同得点第 3 位 (66%)、**説明会等**が第 4 位 (72%)、**フェア・ディスクロージャー**が第 19 位 (80%) となった。昨年度に比べ、**説明会等**および **ESG 関連**の得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役との対話」(第 5 位) および「IR 部門の機能」(第 8 位) は、昨年度に比べ得点率が下がったが、「経営陣の IR 姿勢」は得点率が改善し、第 4 位となった。これらの結果、この分野において第 2 位となった。これらに関連して、経営トップ、CFO、社外取締役がそれぞれ情報発信を行うなど IR に積極的であるとの声や、経営陣も IR 部門も市場の期待に応えようとする姿勢があるとの声が寄せられた。また、社外取締役も参加した ESG トップセミナーを評価する声があった。

③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」および「説明会、インタビューにおける開示」が共に第 4 位となった。「説明資料等における開示」については、昨年度に比べ得点率が改善した。これらの結果、この分野において第 4 位(昨年度第 7 位)となった。これらに関連して、説明資料の内容は充実してきており、感応

度分析の拡充は有益であるとの声が寄せられた。なお、燃料油や石化の増減益のより詳細な分析の開示を求める声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第7位）が90%以上の得点率となった。「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」は同得点第18位にとどまった。これらに関連して、説明会動画・書き起こしにおいて質疑応答にアクセスできないことがあったとの声や、グループ会社に関する報道が開示に先行していることは今後の課題との声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が同得点第1位となり、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第3位となった。これらに関連して、ROE や株主還元目標の設定や、キャッシュフロー配分方針を評価する声が寄せられた。また、「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」（2項目）については、人的資本等の社会分野の項目が第2位、気候変動問題等の環境分野の項目が第5位となった。これらに関連して、統合報告書の内容が充実しているとの声や、GHG プロトコルに沿った目標の設定を評価する声があった。また、ESG トップセミナーの開催を評価する声もあった。これらの結果、この分野において第2位（昨年度第5位）となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は同得点第3位となった。これに関連して、製油所のトランジションの取組みに関する見学会が有益であるとの声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 日本瓦斯（総合評価点 73.7 点〔昨年度比-0.7 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、説明会等（82%）、自主的情報開示（74%）が第1位、経営陣の IR 姿勢等が第3位（75%）、ESG 関連が第6位（66%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第7位（84%）となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等および説明会等を除く3分野の得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となり、「経営陣の IR 姿勢」も評価され、第2位となった。これらに関連して、他社と比べて経営方針や戦略、資本政策が明確との声や、CFO や IR 部門の姿勢を評価する声が寄せられた。なお、社外取締役と市場との対話を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」および「説明会、インタビューにおける開示」が共に最も高い評価となり、この分野において第1位（昨年度第2位）となった。これらに関連して、説明資料等において、将来利益を予測する上で重要となる定量的な解説が充実しているとの声が寄せられた。また、最近受けた消費者庁からの行政処分に係る開示姿勢を評価する声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」が共に同得点第7位となった。これらに関連して、質疑応答を含めた動画配信を評価する声があった。なお、説明会のスクリプトのウェブ掲載や電話会議の議事録の開示を望む声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第2位となった。これに関連して、株主還元方針が明確で、資本効率性目標設定も意欲的であると評価する声が寄せられた。「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は昨年度に比べ得点率が下がり、同得点第4位（昨年度第1位）となった。「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」は2項目共に平均得点率に達しなかった。これらに関連して、CO2 削減目標の設定だけでなく、GHG プロトコルベースのものも併せて開示することを望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は最も高い評価となったが、昨年度に比べ得点率が下がった。これに関連して、事業説明会などが充実していると評価しつつ、事業戦略説明と決算説明は分けて実施することを望む声があった。

第3位 コスモエネルギーホールディングス（総合評価点 73.6点〔昨年度比+1.6点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、説明会等が第2位（75%）、ESG関連が第3位（71%）、自主的情報開示が同得点第3位（66%）、経営陣のIR姿勢等が第4位（75%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第5位（86%）となった。昨年度に比べ、ESG関連、自主的情報開示およびフェア・ディスクロージャーの3分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「IR部門の機能」が第2位、「経営陣のIR姿勢」が第5位となった。これらに関連して、IR部門のクオリティが高いとの声が寄せられた。「社外取締役との対話」（第7位）の得点率は大きく改善した。これに関連して、社外取締役との対話が有益であるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第2位となり、「説明資料等における開示」も同得点第2位となり、この分野において第2位（昨年度第3位）となった。これに関連して、現行の中期経営計画における定量的な開示を評価する声や、説明資料の内容が充実しており理解しやすい、取材時の補足説明も定量的で有益であるとの声が寄せられた。なお、石油事業の増減益のより詳細な分析の開示を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」が高く評価され、同得点第4位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第7位）も得点率が90%以上となり、その結果、この分野において同得点第5位（昨年度同得点第10位）となった。なお、説明会の質疑応答の全スクリプトの掲載を望む声があった。
- ⑤ ESG関連においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が最も高い評価となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これに関連して、株主還元方針が明確であり、また、財務体質に応じて変化させていることを評価する声があった。「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は同得点第4位となった。「非財務情報（ESG情報等）に関する開示」（2項目）については、人的資本等の社会分野の項目が同得点第3位、気候変動問題等の環境分野の項目が同得点第8位となった。これらに関連して、統合報告書の内容が充実しているとの声や、GHGプロトコルに沿った目標の設定を評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は同得点第3位（昨年度同得点第9位）となった。これに関連して、風力事業の見学会など各種情報提供の機会が充実しているとの声が寄せられた。

（参考）部門別の第1位企業

【石油・鉱業部門】

出光興産（総合評価点 73.9点、全体第1位）

【電力・ガス部門】

日本瓦斯（総合評価点 73.7点、全体第2位）

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (エネルギー:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR専門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目2 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点5点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目4 (配点35点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点5点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5019 出光興産	73.9	26.8	2	14.4	4	4.0	19	25.4	2	3.3	3	3
2	8174 日本瓦斯	73.7	26.3	3	16.3	1	4.2	7	23.2	6	3.7	1	2
3	5021 コスモエネルギーホールディングス	73.6	26.2	4	14.9	2	4.3	5	24.9	3	3.3	3	4
4	5020 ENEOSホールディングス	73.0	24.9	5	14.5	3	4.3	5	26.0	1	3.3	3	1
5	9508 九州電力	71.6	27.3	1	12.5	13	4.6	2	23.8	5	3.4	2	7
6	1605 INPEX	68.2	22.9	7	13.9	6	4.2	7	24.1	4	3.1	9	6
7	9503 関西電力	66.2	24.9	5	13.1	9	4.2	7	20.9	11	3.1	9	10
8	9532 大阪瓦斯	65.0	22.3	9	13.4	7	4.2	7	21.8	7	3.3	3	8
9	9531 東京瓦斯	63.6	22.5	8	12.6	11	4.2	7	21.0	10	3.3	3	9
10	1662 石油資源開発	62.8	20.8	10	14.0	5	4.2	7	20.7	12	3.1	9	5
11	9513 電源開発	61.5	19.6	15	13.3	8	4.1	16	21.2	9	3.3	3	13
12	8088 岩谷産業	59.5	18.7	17	12.6	11	4.2	7	21.4	8	2.6	19	
13	9502 中部電力	59.4	20.0	13	11.9	14	4.2	7	20.5	13	2.8	15	14
14	9519 レノバ	56.2	19.8	14	13.1	9	4.8	1	15.6	21	2.9	14	12
15	9507 四国電力	55.7	18.6	18	10.2	16	4.4	3	20.2	14	2.3	22	16
16	9509 北海道電力	55.0	20.3	11	9.3	21	4.2	7	18.1	17	3.1	9	15
17	9533 東邦瓦斯	54.6	17.7	20	11.3	15	4.1	16	18.4	16	3.1	9	11
18	9506 東北電力	54.5	18.5	19	9.6	20	4.4	3	19.2	15	2.8	15	19
19	9504 中国電力	54.0	19.1	16	10.0	17	4.1	16	18.1	17	2.7	18	18
20	9501 東京電力ホールディングス	50.7	20.2	12	7.4	22	3.6	22	16.7	19	2.8	15	21
21	9505 北陸電力	49.1	16.7	22	10.0	17	3.9	20	16.0	20	2.5	20	20
22	9517 イーレックス	47.5	17.2	21	9.8	19	3.9	20	14.1	22	2.5	20	17
	評価対象企業評価平均点	61.34	21.43		12.19		4.20		20.51		3.01		

2023年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（電力・ガス部門）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2 (配点20点)		3. フェア・ディスクロージャ－ 評価項目2 (配点5点)		4. ESGに関連する情報の開示 評価項目4 (配点35点)		5. 各業種の状態に即した自主的な情報開示 評価項目1 (配点5点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8174 日本瓦斯	73.7	26.3	2	16.3	1	4.2	5	23.2	2	3.7	1	1
2	9508 九州電力	71.6	27.3	1	12.5	8	4.6	2	23.8	1	3.4	2	2
3	9503 関西電力	66.2	24.9	3	13.1	4	4.2	5	20.9	7	3.1	6	5
4	9532 大阪瓦斯	65.0	22.3	5	13.4	2	4.2	5	21.8	3	3.3	3	3
5	9531 東京瓦斯	63.6	22.5	4	12.6	6	4.2	5	21.0	6	3.3	3	4
6	9513 電源開発	61.5	19.6	10	13.3	3	4.1	12	21.2	5	3.3	3	8
7	8088 岩谷産業	59.5	18.7	12	12.6	6	4.2	5	21.4	4	2.6	14	
8	9502 中部電力	59.4	20.0	8	11.9	9	4.2	5	20.5	8	2.8	10	9
9	9519 レノバ	56.2	19.8	9	13.1	4	4.8	1	15.6	16	2.9	9	7
10	9507 四国電力	55.7	18.6	13	10.2	11	4.4	3	20.2	9	2.3	17	11
11	9509 北海道電力	55.0	20.3	6	9.3	16	4.2	5	18.1	12	3.1	6	10
12	9533 東邦瓦斯	54.6	17.7	15	11.3	10	4.1	12	18.4	11	3.1	6	6
13	9506 東北電力	54.5	18.5	14	9.6	15	4.4	3	19.2	10	2.8	10	14
14	9504 中国電力	54.0	19.1	11	10.0	12	4.1	12	18.1	12	2.7	13	13
15	9501 東京電力ホールディングス	50.7	20.2	7	7.4	17	3.6	17	16.7	14	2.8	10	16
16	9505 北陸電力	49.1	16.7	17	10.0	12	3.9	15	16.0	15	2.5	15	15
17	9517 イーレックス	47.5	17.2	16	9.8	14	3.9	15	14.1	17	2.5	15	12
	評価対象企業評価平均点	58.69	20.57		11.55		4.19		19.43		2.95		

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (石油・鉱業部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点 35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目2 (配点 20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点 5点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目4 (配点 35点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点 5点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5019 出光興産	73.9	26.8	1	14.4	3	4.0	5	25.4	2	3.3	1	2
2	5021 コスモエネルギーホールディングス	73.6	26.2	2	14.9	1	4.3	1	24.9	3	3.3	1	3
3	5020 ENEOSホールディングス	73.0	24.9	3	14.5	2	4.3	1	26.0	1	3.3	1	1
4	1605 INPEX	68.2	22.9	4	13.9	5	4.2	3	24.1	4	3.1	4	5
5	1662 石油資源開発	62.8	20.8	5	14.0	4	4.2	3	20.7	5	3.1	4	4
	評価対象企業評価平均点	70.30	24.32		14.34		4.20		24.22		3.22		

2023年度評価項目および配点（エネルギー）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていますか。	20
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明資料等における開示	
・決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、前提条件、感応度、主要費用。	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	1
(2)多様な情報提供	
・リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか。	4
4. ESGに関連する情報の開示（35点）	配点
(1)非財務情報（ESG情報等）に関する開示	
①非財務情報（気候変動問題等の環境分野）について、統合報告書などで株式市場が求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	10
②非財務情報（人的資本等の社会分野）について、統合報告書などで株式市場が求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	5
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示	
・中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	15
(3)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる定量情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等。	5

エネルギー専門部会委員

部会長	新家 法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野 零児	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	大島 彰雄	野村アセットマネジメント
	神近 広二	SMBC日興証券
	西川 周作	大和証券
	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
	山崎 慎一	野村証券

評価実施アナリスト（20名）

安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	新家 法昌	みずほ証券
大野 高	三菱UFJ信託銀行	富田 展昭	極東証券経済研究所
大島 彰雄	野村アセットマネジメント	西川 周作	大和証券
荻野 零児	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	野田 健介	ニッセイアセットマネジメント
神近 広二	SMBC日興証券	長谷川 義人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント	福元 千佳	JPモルガン証券
佐久間 聡	QUICK	松浦 勇佑	丸三証券
佐々木 聡	SOMPOアセットマネジメント	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
下森 浩	三菱UFJ信託銀行	山崎 慎一	野村証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

運 輸

1. 評価対象企業（15社）

【陸 運】（10社）

東急、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、
西武ホールディングス、阪急阪神ホールディングス、ヤマトホールディングス、
九州旅客鉄道、SGホールディングス、NIPPON EXPRESSホールディングス

【海 運】（3社）

日本郵船、商船三井、川崎汽船

【空 運】（2社）

日本航空、ANAホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	10
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは23名（所属先20社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち **ESG関連** を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は **69.0点**（昨年度 **65.1点**）、総合評価点の標準偏差は **4.3点**（昨年度 **7.2点**）であった。昨年度に比べ、評価対象企業 **15社** のうち **13社** の総合評価点が改善した。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、空運（2社）**74.0点**（昨年度 **71.2点**）、海運（3社）**71.7点**（昨年度 **70.8点**）、陸運（10社）**67.2点**（昨年度 **62.7点**）となった。昨年度に比べ、各業態とも上がったが、海運の上げ幅が相対的に小さかったため、空運との差が広がった。陸運については、多くの企業において得点率が改善し、総合評価平均点が大きく上がった。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が **66%**（昨年度 **63%**）、**説明会等**が **70%**（昨年度 **67%**）、**フェア・ディスクロージャー**が **88%**（昨年度 **81%**）、**ESG関連**が **64%**（昨年度 **60%**）、**自主的情報開示**が **76%**（昨年度 **63%**）となり、昨年度に比べ5分野全てが

上がったが、特に、**自主的情報開示**の上げ幅が大きくなった。

- ④ 評価項目を見ると、平均得点率が80%以上と高水準のものは、次の4項目（フェア・ディスクロージャーの3項目（a）～（c））、**自主的情報開示**の中の1項目（d）であった。

- (a) 「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率88%〔昨年度84%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：80%台8社・90%台7社）
- (b) 「ウェブサイトで有用な情報提供（過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていますか」（平均得点率89%〔昨年度81%〕）（得点率：80%台6社・90%台9社）
- (c) 「新しい働き方に即して、多様なリモートツールを活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応）を行っていますか」（平均得点率86%〔昨年度80%〕）（得点率：80%台12社・90%台3社）
- (d) 「ウェブサイト、TDnet等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか」（平均得点率83%〔昨年度74%〕）（得点率：50%台3社・80%台1社・90%台11社）

- ⑤ 一方、**ESG関連**の中の1項目（下記⑥の（d））が60%となり、最も低くなった。なお、昨年度は4項目が50%台であったが、本年度はなかった。

- ⑥ **ESG関連**の4項目（全て本年度の新設項目）は、次のとおりとなった。いずれの項目においても評価対象企業間の格差は小さかったが、平均得点率は60%台にとどまった。

- (a) 「経営の重要課題（マテリアリティ）の特定プロセスを示したうえで、企業の経営理念やパーパスと整合した経営戦略に基づく事業活動を通じて、マテリアリティの解決に取り組むことで、将来の企業価値につながるという価値創造プロセスを魅力的なストーリーとして投資家に示していますか」（平均得点率66%）（得点率：50%台2社・60%台6社・70%台7社）
- (b) 「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標や目標達成の実効性が確認できるロードマップおよび具体的なアクションプランなど、定性・定量両面で十分に開示していますか」（平均得点率68%）（得点率：60%台9社・70%台6社）
- (c) 「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか」（平均得点率62%）（得点率：50%台4社・60%台10社・70%台1社）
- (d) 「ガバナンスの実効性を確認するうえで重要な情報開示（例えば、サクセッションプランのプロセスおよび内容、役員報酬制度のインセンティブ設計としての適切性、取締役会の実効性評価やスキルマトリックス活用によるガバナンス改善活動状況等）が十分にされていますか」（平均得点率60%）（得点率：50%台4社・60%台11社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 日本航空（ディスクロージャー優良企業〔3回連続5回目〕、総合評価点74.6点〔昨年度比+1.8点〕）

- ① 同社は、**ESG関連**（得点率〈以下省略〉70%）、**自主的情報開示**（88%）が第1位、**経営陣のIR姿勢等**が第2位（72%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（89%）、**説明会等**が第5位（74%）となった。昨年度に比べ、**経営陣のIR姿勢等**を除く4分野において得点率が改善した。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門の機能」がトップと僅差の第2位となった。これに関連して、経営陣との距離が近く、IRを通じた経営陣のフィードバックができているとの声が寄せられた。「経営陣のIR姿勢」（2項目計）は第4位となった。これらに関連して、経営陣は投資家にとって有意義なメッセージが何かを把握して情報発信しているとの声や、市場との対話の機会を多く設定しているとの声が寄せられた。なお、**ESG**経営を中心に据え、ビジネスの持続性にとっての**ESG**の重要性を認識していることが伝わると評価しつつ、それが、中期経営計画や長期ビジョンへ十分に反映できていないとの声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会における開示」がトップと僅差の第2位となった。これに関連して、決算説明会で十分に説明できなかったことを事後の事業説明会でフォローする姿勢を評価する声が寄せられた。「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2項目）のうち、「収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていること」（第5位）は昨年度に比べ得点率が大きく改善したが、「会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切であること」（同得点第10位）は得点率がやや下がった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が同得点第1位となった。「ウェブサイトにおける情報提供」（同得点第5位）および「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第8位）についても、高い得点率となった。これらに関連して、説明会はリアルとオンラインのハイブリッドで開催し、動画も充実しているとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目が最も高い評価となった。また、ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目が第2位、気候変動問題に関連する項目が第4位、ガバナンスの実効性に関連する項目が同得点第4位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、気候変動問題に関して、その取組みと適宜のアップデートを評価する声があった。なお、CO2対応を今後どのように経営計画に織り込み、説明するのかに期待するとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が最も高い評価となった。また、「ウェブサイト、TDnet 等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」（同得点第4位）も、90%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において、第1位（昨年度第3位）となった。充実していたイベントとしては、ZIPAIR 見学会、IR Day、ESG 説明会などが挙げられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 九州旅客鉄道（総合評価点 73.9 点〔昨年度比+1.9 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第2位（85%）、**説明会等**（76%）、**ESG 関連**（68%）が第3位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（89%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第4位（71%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が同得点第3位（昨年度第6位）となった。これに関連して、経営トップのメッセージがよく伝わってくるとの声や、中期経営計画や長期ビジョンにおけるメッセージが明確であるとの声が寄せられた。「経営トップ等が企業価値向上の手段としての ESG や資本政策等の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」は第5位となった。これに関連して、ESG に関する説明を評価する声があった。「IR 部門の機能」は第4位となった。これに関連して、新 CFO も IR 対応をするなど有益なディスカッションができるとの声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていること」が同得点第1位となった。また、「会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切であること」も第3位となった。これらに関連して、サブセグメントおよび KPI も開示するなど分析の参考になるとの声があった。「説明会における開示」は同得点第5位となった。これに関連して、数値説明と戦略説明で会を分ける取組みを評価する声があったほか、短期業績の説明だけでなく、中期経営計画の進捗などにも触れておりバランスがよいとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となった。また、「ウェブサイトにおける情報提供」（同得点第5位）も 90%以上の得点率となった。「リモートツールによる情報提供」は同得点第10位となったが、80%以上の得点率であった。これらの結果、この分野において同得点第3位（昨年度同得点第6位）となった。なお、決算説明会のリモート対応を評価しつつ、動画等の配信を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、ガバナンスの実効性に関連する項目が同得点第1位となった。また、経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目も第2位となり、ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目も第3位となった。なお、気候変動問題に関連する項目については平均得点率と同程度であった。これらに関連して、従業員のインセンティブ向上策や安全確保のための取組みが明示され、従業員エンゲージメントも結果分析や

取組みを開示するなど参考になるとの声があった。また、TCFD 開示では財務インパクトを開示していることを評価する声もあった。

- ⑥ 自主的情報開示においては、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が第 3 位となった。また、「ウェブサイト、TDnet 等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」（同得点第 4 位）は、90%以上の得点率となった。充実していたイベントとして、IR DAY における各部門および社外取締役とのミーティングや、西九州新幹線駅舎見学会を挙げる声があった。

第 3 位 ANA ホールディングス（総合評価点 73.4 点〔昨年度比+3.9 点〕、昨年度第 6 位）

- ① 同社は、説明会等が同得点第 1 位（77%）、ESG 関連が第 2 位（70%）、経営陣の IR 姿勢等が第 6 位（70%）、自主的情報開示が同得点第 6 位（78%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 10 位（87%）となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等を除く 4 分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門は経営陣との距離が近く質の高い意見交換ができることや、IR 部門への権限委譲がしっかりできていることを評価する声があった。また、IR には CFO も対応し、ESG を含む有益なディスカッションができるとの声もあった。「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」は同得点第 6 位となった。なお、「経営トップ等が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 7 位）は、平均得点率と同程度にとどまった。これらに関連して、経営トップが投資家の関心事を把握しようとしているとの声や、人的投資の考え方が明確でわかりやすいとの声が寄せられた。なお、経営陣による株主市場との対話の機会が同業他社対比少ないとの声や、統合報告書において、株主価値創造のプロセスを明確にしてほしいとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における開示」が最も高い評価となった。また、「収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていること」も同得点第 3 位となった。「会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切であること」は第 5 位となった。これらの結果、この分野において同得点第 1 位となった。これらに関連して、中期経営計画の説明において、課題と取組みについて丁寧に説明がなされるとの声が寄せられた。なお、航空、貨物、LCC などの各セグメントにおいて分析に資する数値の開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」（同得点第 5 位）、「リモートツールによる情報提供」（同得点第 4 位）および「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 12 位）が、いずれも 85%以上の得点率となった。なお、決算説明会の動画の掲載を望む声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目が、最も高い評価となった。また、ガバナンスの実効性に関連する項目が第 3 位となり、経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目も第 3 位となった。気候変動問題に関連する項目については、同得点第 5 位となり、平均得点率をやや上回った。これらに関連して、従業員エンゲージメントを意識した説明や、気候変動に関する取組みとそのアップデートが適宜行われていることを評価する声があった。なお、CO2 対応を今後どのように経営計画に織り込み、説明するのかに期待するとの声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「ウェブサイト、TDnet 等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」が同得点第 4 位となったが、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」（同得点第 8 位）は、平均得点率をやや下回った。充実していたイベントとして、IR Day、社長スモールミーティングや、Blue Base 見学会を挙げる声があった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

- **阪急阪神ホールディングス（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 71.8 点〔昨年度比+4.8 点、一昨年度比+8.6 点〕、第 5 位〔昨年度第 9 位、一昨年度第 13 位〕）**

- ① 同社は、説明会等が同得点第 1 位（77%）、自主的情報開示が第 3 位（83%）、フェア・ディスクロージャー

が同得点第3位(89%)、ESG関連が第6位(66%)、経営陣のIR姿勢等が第8位(65%)となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善し、順位は4ランク上昇した(一昨年度比8ランク上昇)。

- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」(2項目)が共に昨年度に比べ得点率を改善し、第8位となった。これらに関連して、マネジメントによるスモールミーティングの開催を評価する声があった。なお、経営トップによるIRへのコミットメントをさらに期待するとの声もあった。「IR部門の機能」は同得点第10位となった。
- ③ **説明会等**においては、「会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切であること」が最も高い評価となった。また、「収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていること」も同得点第1位となった。「説明会における開示」についても昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第5位(昨年度第10位)となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、中長期的なビジョンに関する説明や、数値説明と戦略説明で会を分ける取組みを評価する声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第2位)および「ウェブサイトにおける情報提供」(同得点第5位)が共に90%以上の得点率となった。また、「リモートツールによる情報提供」も同得点第4位となり、85%以上の得点率であった。これに関連して、決算説明会(通期および中間)をリアルとオンラインの両方で対応していることを評価する声があった。なお、決算説明会の動画の掲載を望む声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、ガバナンスの実効性に関連する項目が同得点第1位となった。また、経営の重要課題(マテリアリティ)に関連する項目が第5位となり、ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目については同得点第6位となった。なお、気候変動問題に関連する項目(同得点第9位)は平均得点率をやや下回った。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ウェブサイト、TDnet等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」が同得点第1位となった。これに関連して、子会社を含めて月次開示についての情報が充実しているとの声があった。「ESG説明会・施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」の得点率が昨年度に比べ大きく改善し、同得点第4位となった。充実していたイベントとして、「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」施設見学会を挙げる声が多かった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表（運輸）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点30点)	順位	評価項目3 (配点20点)	順位	評価項目3 (配点10点)	順位	評価項目4 (配点32点)	順位	評価項目2 (配点8点)	順位	
	評価対象企業												
1	9201 日本航空	74.6	21.6	2	14.7	5	8.9	3	22.4	1	7.0	1	1
2	9142 九州旅客鉄道	73.9	21.2	4	15.1	3	8.9	3	21.9	3	6.8	2	2
3	9202 ANAホールディングス	73.4	20.9	6	15.3	1	8.7	10	22.3	2	6.2	6	6
4	9107 川崎汽船	72.5	22.5	1	14.4	7	9.0	1	21.2	7	5.4	14	5
5	9042 阪急阪神ホールディングス	71.8	19.6	8	15.3	1	8.9	3	21.4	6	6.6	3	9
6	9104 商船三井	71.5	21.1	5	14.5	6	9.0	1	21.8	4	5.1	15	3
7	9101 日本郵船	71.1	21.4	3	13.6	12	8.8	8	21.6	5	5.7	13	4
8	9005 東急	69.0	18.9	11	14.8	4	8.9	3	20.2	9	6.2	6	11
9	9021 西日本旅客鉄道	68.6	19.2	9	14.0	9	8.8	8	20.3	8	6.3	4	10
10	9147 NIPPON EXPRESSホールディングス	68.4	20.1	7	13.2	13	8.7	10	20.2	9	6.2	6	7
11	9020 東日本旅客鉄道	67.4	18.7	12	14.0	9	8.9	3	19.5	13	6.3	4	8
12	9143 SGホールディングス	67.1	19.0	10	14.1	8	8.5	12	19.7	12	5.8	12	12
13	9064 ヤマトホールディングス	63.2	17.8	13	11.1	15	8.5	12	19.9	11	5.9	10	14
14	9022 東海旅客鉄道	61.8	16.3	15	13.7	11	8.5	12	17.4	15	5.9	10	15
15	9024 西武ホールディングス	60.8	16.6	14	11.7	14	8.5	12	17.8	14	6.2	6	16
	評価対象企業評価平均点	69.00	19.66		13.97		8.76		20.50		6.11		

2023年度評価項目および配点（運輸）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営トップ等が企業価値向上の手段としてのESGや資本政策等の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていきますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、かつアナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、担当者と有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、ESG関連部門などと連携をとっていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
②会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切ですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	4
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイト上で有用な情報提供（過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	3
(3)リモートツールによる情報提供	
・新しい働き方に即して、多様なリモートツールを活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	3
4. ESGに関連する情報の開示（32点）	配点
①経営の重要課題（マテリアリティ）の特定プロセスを示したうえで、企業の経営理念やパーパスと整合した経営戦略に基づく事業活動を通じて、マテリアリティの解決に取り組むことで、将来の企業価値につながるという価値創造プロセスを魅力的なストーリーとして投資家に示していますか。	8
②気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標や目標達成の実効性が確認できるロードマップおよび具体的なアクションプランなど、定性・定量両面で十分に開示していますか。	8
③ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。	8
④ガバナンスの実効性を確認するうえで重要な情報開示（例えば、サクセッションプランのプロセスおよび内容、役員報酬制度のインセンティブ設計としての適切性、取締役会の実効性評価やスキルマトリックス活用によるガバナンス改善活動状況等）が十分にされていますか。	8
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
①ウェブサイト、TDnet等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。	3
②ESG説明会・施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容は充実していますか。【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	5

運輸専門部会委員

部会長	一柳 創	大和証券
部会長代理	安藤 誠悟	大和アセットマネジメント
	尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	土谷 康仁	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	手塚 裕一	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	姫野 良太	JP モルガン証券
	松崎 亘	JP モルガン・アセット・マネジメント

評価実施アナリスト（23名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	手塚 裕一	三井住友トラスト・アセットマネジメント
浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	戸田 浩司	りそなアセットマネジメント
安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	原嶋 悠也	SOMPO アセットマネジメント
今泉 達矢	アセットマネジメント One	一柳 創	大和証券
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	姫野 良太	JP モルガン証券
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	広兼 賢治	野村証券
唐木 健至	QUICK	松崎 亘	JP モルガン・アセット・マネジメント
川嶋 宏樹	SMBC 日興証券	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
崎村 英治	野村アセットマネジメント	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
三箇 和樹	三井住友 DS アセットマネジメント	安田 秀樹	東洋証券
土谷 康仁	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

通信・インターネット

1. 評価対象企業（12社）

【通信】（5社）

インターネットイニシアティブ、日本電信電話、KDDI、ソフトバンク、ソフトバンクグループ

【インターネット】（7社）

カカコム、ディー・エヌ・エー、グリー、GMO ペイメントゲートウェイ、LINE ヤフー（注）、サイバーエージェント、楽天グループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）Zホールディングスが商号を変更した（2023年10月）。

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	28
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	6
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	31
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	5
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは41名（所属先24社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、項目内容・配点の一部を見直すなどの変更があり、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は68.9点（昨年度71.6点）、総合評価点の標準偏差は10.4点（昨年度7.6点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、通信（5社）は76.9点（昨年度76.7点）、インターネット（7社）は63.1点（昨年度67.4点）となった。インターネットが昨年度に比べ下げたため、通信との差がさらに拡大した。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が72%（昨年度74%）、説明会等が70%（昨年度71%）、フェア・ディスクロージャーが85%（昨年度83%）、ESG関連が65%（昨年度70%）、自主的な情報開示が52%（昨年度同率）となった。昨年度に比べ、ESG関連が下がったほか、自主的な情報開示が依然として低水準にとどまっている。

- ④ 評価項目について見ると、平均得点率が80%以上の高水準となったものは、次の3項目（経営陣のIR姿勢等の中の1項目（a）およびフェア・ディスクロージャーの2項目（b）（c））であった。

- (a) 「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか〔4回以上出席：満点、2回以下：0点〕」（平均得点率84%〔昨年度100%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：0%2社・100%10社）
- (b) 「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率93%〔昨年度89%〕）（得点率：85%2社・90%3社・95%5社・100%2社）
- (c) 「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか」（平均得点率81%〔昨年度同率〕）（得点率：60%台2社・70%台2社・80%台6社・90%台2社）

- ⑤ 一方、次の項目（自主的情報開示）は、昨年度に続き平均得点率が50%台にとどまり、連続して低水準であったことから、今後の改善を強く求めたい。

- ・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率52%〔昨年度同率〕）（得点率：30%台3社・40%台4社・60%台3社・70%台2社）

- ⑥ ESG関連の4項目は、次のとおりとなった。昨年度に比べ、4項目共に平均得点率が下がり、いずれも60%台にとどまった。上位評価の企業と下位との得点率の差が大きくなっており、下位の企業においては今後の改善を求めたい。

- (a) 「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」（平均得点率69%〔昨年度70%〕）（得点率：50%台2社・60%台4社・70%台3社・80%台3社）
- (b) 「資本政策や株主還元策（配当・自社株買い・自社株消却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか」（平均得点率62%〔昨年度70%〕）（得点率：40%台2社・50%台3社・60%台3社・70%台4社）
- (c) 「目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」（平均得点率67%〔昨年度69%〕）（得点率：40%台3社・50%台2社・60%台2社・80%台3社・90%台2社）
- (d) 「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する情報を開示し、方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか」（平均得点率64%〔昨年度71%〕）（得点率：40%台2社・50%台2社・60%台4社・70%台3社・80%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 日本電信電話（ディスクロージャー優良企業〔3回連続7回目〕、

総合評価点80.9点〔昨年度比-1.5点〕

- ① 同社は、ESG関連（得点率〈以下省略〉81%）、自主的情報開示（78%）が第1位、フェア・ディスクロージャーが第2位（92%）、経営陣のIR姿勢等（82%）、説明会等（78%）が第4位となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、昨年度と同水準の得点率を確保した。個別の評価項目で見ると、「経営陣のIR姿勢」の2項目が最も高い評価となった。これらに関連して、経営陣との直接的な対話機会が多く、特に、社長、副社長との対話は有意義であるとの声が寄せられた。また、「IR部門の機能」が第4位となり、85%以上の得点率であった。「IRの基本スタンス」も同得点第4位となった。これらに関連して、取材の際に、NTTドコモに関する説明が得られる点を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」（同得点第3位）が評価された。これに関連して、説明会の質疑応答を含めスクリプトを開示していることを評価する声があった。なお、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（3項目）の得点率について

ては、いずれも昨年度と同程度であった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が最も高い評価（満点）となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」（同得点第3位）もトップと僅差であった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する取組み」が昨年度に続き最も高い評価となり、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」も同得点第1位となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」が同得点第2位に、「目標とする経営指標等の開示」が第3位となった。なお、中期経営戦略において設備投資の内訳や多様な利益目標等があればさらに理解が進むとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は最も高い評価となった。充実していたイベントとして、IR DAY を挙げる声が多く寄せられたほか、R&D フォーラムを評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 ソフトバンク（総合評価点 80.0 点〔昨年度比+3.2 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第1位（93%）、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）、**説明会等**（78%）、**ESG 関連**（79%）が第3位、**自主的情報開示**が第4位（64%）となった。昨年度に比べ、4分野において得点率が上がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が最も高い評価（満点）となり、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」（同得点第2位）および「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」（同得点第3位）も評価された。これらに関連して、経営トップとの定期的な対話は有益であるとの声が寄せられた。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」（同得点第2位）も昨年度の得点率を上回った。
- ③ **説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が同得点第1位となった。これに関連して、キャッシュフローを事業目標としており、その見通しをわかりやすく説明しているとの声があった。また、「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること。また、情報開示の後退がないこと」が同得点第2位となり、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」も同得点第3位と評価された。これらに関連して、説明会の質疑応答を含めスクリプトを開示していることを評価する声があった。なお、データシートの開示を高く評価しつつ、セグメントの理解が難しいとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の2項目は共に同得点第1位となり、その結果、この分野において第1位（昨年度同得点第2位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていること」が第2位となり、90%以上の得点率であった。また、「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」（第3位）も評価された。これに関連して、社外取締役とのスモールミーティングの開催およびその議事録の開示を評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第4位となった。

第3位 インターネットイニシアティブ（総合評価点 79.3 点〔昨年度比-0.1 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（86%）、**説明会等**（84%）が第1位、**自主的情報開示**が第3位（68%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（90%）、**ESG 関連**が第5位（69%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、4項目のうち3項目が最も高い評価となり、「会社主催の経営幹部とのミー

ティングにおいて、有益なディスカッションができること」も同得点第3位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営陣とのミーティングは大変有益であるとの声が寄せられた。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（3項目）のうちの2項目が最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、CFO とのミーティングが有益であるとの声のほか、決算説明会資料等を通じた情報発信の取組みは改善しているとの声が寄せられた。また、中期経営計画の報告が半年の頻度になったことを評価する声も寄せられた。なお、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」は平均得点率と同程度であり、今後の開示には改善の余地があるとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の2項目は共に85%以上の得点率となり、トップと僅差であった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が昨年度に比べ得点率を改善し、第4位（昨年度同得点第5位）となった。また、「目標とする経営指標等の開示」（第5位）が80%以上の得点率となった。なお、「資本政策、株主還元策の開示」は昨年度に比べ得点率が下がった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」（第3位）は昨年度に比べ得点率が改善した。

以 上

2023年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (通信・インターネット)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
			評価項目4 (配点30点)		評価項目4 (配点28点)		評価項目2 (配点6点)		評価項目4 (配点31点)		評価項目1 (配点5点)		
1	9432 日本電信電話	80.9	24.5	4	21.8	4	5.5	2	25.2	1	3.9	1	1
2	9434 ソフトバンク	80.0	24.7	3	21.9	3	5.6	1	24.6	3	3.2	4	4
3	3774 インターネットイニシアティブ	79.3	25.7	1	23.4	1	5.4	3	21.4	5	3.4	3	2
4	9433 KDDI	77.4	23.3	5	20.2	6	5.4	3	24.7	2	3.8	2	3
5	3769 GMOペイメントゲートウェイ	77.0	24.8	2	22.1	2	5.4	3	22.6	4	2.1	8	5
6	2371 カカコム	70.8	23.1	6	21.0	5	5.3	6	19.9	6	1.5	12	6
7	9984 ソフトバンクグループ	67.0	19.9	8	19.6	7	5.3	6	19.8	7	2.4	6	9
8	4755 楽天グループ	65.7	21.1	7	19.2	8	5.1	8	17.3	10	3.0	5	8
9	4689 LINEヤフー	64.4	19.9	8	19.0	9	4.8	10	18.5	8	2.2	7	7
10	4751 サイバーエージェント	60.0	19.1	10	16.3	10	4.9	9	17.7	9	2.0	9	10
11	2432 デイ・エヌ・エー	52.1	17.3	11	14.2	12	4.2	12	14.6	11	1.8	10	11
12	3632 グリー	52.0	15.5	12	16.0	11	4.4	11	14.3	12	1.8	10	10
	評価対象企業評価平均点	68.90	21.59		19.56		5.11		20.05		2.59		

2023年度評価項目および配点（通信・インターネット）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか。 【4回以上：2点 3回：1点 2回以下：0点】	2
②会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（28点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しは、十分に開示されていますか。また、情報開示の後退はありませんか。	10
②キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	3
③会計基準の変更・セグメント見直し・KPIの定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（6点）	配点
①経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	4
4. ESGに関連する情報の開示（31点）	配点
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	6
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策や株主還元策（配当・自社株買い・自社株売却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか。	10
(3)目標とする経営指標等の開示	
・目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4
(4)E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する取組み	
・E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する情報を開示し、方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか。	11
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していたサービスないし施設・設備名をコメント欄に記入して下さい】	5

通信・インターネット専門部会委員

部会長	増野 大作	野村証券
部会長代理	大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント
	安藤 義夫	大和証券
	醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント
	寺島 正	大和アセットマネジメント
	森 はるか	JPモルガン証券

評価実施アナリスト（41名）

浅川 直騎	朝日ライフアセットマネジメント	鈴木 崇生	大和証券
荒木 正人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	田中 英太郎	SOMPOアセットマネジメント
安藤 義夫	大和証券	田中 秀明	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
石井 孝一郎	三菱UFJ信託銀行	千葉 馨	JPモルガン証券
伊藤 彰洋	三井住友DSアセットマネジメント	鶴尾 充伸	シイクグループ証券
岩渕 啓介	岡三証券	寺島 正	大和アセットマネジメント
大浦 裕太	第一生命保険	得永 一樹	大和証券
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	納 博司	いちよし経済研究所
奥村 裕介	岡三証券	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
小野 まな実	三菱UFJ信託銀行	平岡 直樹	野村証券
巖 智用	野村証券	福井 悠香	第一生命保険
菊池 悟	SMBC日興証券	堀 雄介	みずほ証券
岸本 晃知	みずほ証券	前田 栄二	SMBC日興証券
邱 泰来	シイクグループ証券	増野 大作	野村証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
栗原 智也	SBI証券	森 はるか	JPモルガン証券
小林 亮	みずほ証券	森行 眞司	SBI証券
佐藤 啓吾	ニッセイアセットマネジメント	安田 秀樹	東洋証券
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友DSアセットマネジメント
山藤 秀明	QUICK		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

商 社

1. 評価対象企業（7社）

双日、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、三井物産、住友商事、三菱商事

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	15
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		12	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは16名（所属先16社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち **ESG関連**の項目の内容・配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は **77.8点**（昨年度 74.1点）、総合評価点の標準偏差は **5.5点**（昨年度 5.0点）であった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が81%（昨年度 79%）、**説明会等**が79%（昨年度 78%）、**フェア・ディスクロージャー**が84%（昨年度 77%）、**ESG関連**が74%（昨年度 68%）、**自主的情報開示**が72%（昨年度 69%）となり、5分野全てにおいて、昨年度を上回った。
- ③ 評価項目について見ると、本年度で最も高い平均得点率となったのは、次の項目（**フェア・ディスクロージャー**の中の1項目で、昨年度と同じ）であった。
 - ・ 「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 94%〔昨年度 80%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：全社 90%台）
- ④ **ESG関連**の4項目は、次のとおりとなった。なお、(b)は、昨年度に比べ改善したものの、全12項目の中で最も低い平均得点率であった。

- (a) 「重視する経営指標（例えば、ROE、リスク・リターン指標等）とその目標、それを採用する理由、目標

達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていますか。また、ROEの改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか」(平均得点率79%〔昨年度73%〕)(得点率:60%台1社・70%台2社・80%台4社)

- (b) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率66%〔昨年度60%〕)(得点率:50%台2社・60%台1社・70%台3社・80%台1社)
- (c) 「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していますか。また、その成果を提示していますか」(平均得点率72%〔昨年度67%〕)(得点率:60%台3社・70%台4社)
- (d) 「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか」(平均得点率73%〔昨年度68%〕)(得点率:60%台1社・70%台5社・80%台1社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 三井物産(ディスクロージャー優良企業〔7回連続8回目〕、総合評価点83.6点〔昨年度比+2.8点〕)

- ① 同社は、説明会等(得点率<以下省略>85%)、フェア・ディスクロージャー(92%)、ESG関連(80%)が第1位、経営陣のIR姿勢等が第2位(86%)、自主的情報開示が第4位(74%)となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」の2項目が共に同得点第1位となった。また、「IR部門の機能」(第3位)も80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップには積極的に株式市場の声を聴こうとする姿勢があるとの声や、経営陣がIRの重要性を理解し、率先して対応しているとの声が寄せられた。また、ESGを義務としてではなく戦略的に使用しており、企業価値を向上させるものとしていることを評価する声があった。IR部門については、セグメント毎に担当が分かれそれぞれが充実しており、情報共有もできているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等における開示」が最も高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」もトップと僅差の第2位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、資源数量・価格前提、セグメント別・サブセグメント別の情報開示が優れているとの声が寄せられた。一方で、子会社の利益計画に関する情報開示を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの2項目が共に最も高い評価(同得点第1位を含む)となり、得点率も90%以上であった。
- ⑤ ESG関連においては、「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が最も高い評価となった。また、「重視する経営指標(例えば、ROE、リスク・リターン指標等)とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていること。また、ROEの改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていること」も同得点第1位となった。これらに関連して、資本政策、株主還元策に関する考え方が整理されておりわかりやすいとの声や、累進配当制度、総還元性向目標の設定を評価する声が寄せられた。環境に関する項目および社会に関する項目については、共に第2位となった。これらに関連して、ESGに関する情報開示は特に充実しているとの声や、人的資本関連の開示が優れているとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第4位となった。これらに関連して、インバスターデイ、北海道森林事業施設見学会などを評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 伊藤忠商事(総合評価点82.0点〔昨年度比+2.6点〕、昨年度第2位)

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等(87%)、自主的情報開示(84%)が第1位、説明会等が第2位(84%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位(86%)、ESG関連が第3位(76%)となった。

- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」(2 項目) および「IR 部門の機能」が共に最も高い評価(同得点第 1 位を含む)となり、いずれの項目も 85%以上の得点率であった。これらに関連して、経営トップを含め経営陣が IR の重要性を理解し、積極的に株式市場からの声を拾おうとする姿勢があるとの声や、ESG の取組みが社内に浸透していることを事例で説明しており実感することができるとの声が寄せられた。IR 部門については、体制が充実しており、投資家とのコミュニケーションも円滑にできるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価となり、「説明資料等における開示」も同得点第 2 位となった。これらに関連して、一過性、子会社の利益実績・計画、四半期数値の開示を評価する声が寄せられた。また、中長期的な業績貢献額、時期がイメージできるような説明の工夫が進んでいるとの声があった。なお、石炭の販売数量・感応度の開示について改善を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の 2 項目は、共に昨年度に比べ得点率を改善し、いずれも 80%以上となった。これらに関連して、タイムリーな開示、説明会の開催などに注力している姿勢が見られるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、社会に関する項目が最も高い評価となった。これに関連して、人的資本関連の開示に優れており、また、従業員エンゲージメントについて具体的な取組みの紹介があるため理解しやすいとの声が寄せられた。環境に関する項目および「重視する経営指標(例えば、ROE、リスク・リターン指標等)とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていること。また、ROE の改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていること」は共に第 3 位となった。これに関連して、Scope3 を GHG 削減対象として説明している点を評価する声や、累進配当制度、総還元性向目標の設定を評価する声があった。「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」は第 5 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は最も高い評価となった。充実していたイベントとして、日本アクセス施設見学会、ファミリーマート見学会を挙げる声が多かったほか、統合レポート説明会を評価する声もあった。

第 3 位 三菱商事(総合評価点 81.8 点 [昨年度比+7.8 点]、昨年度第 4 位)

- ① 同社は、ESG 関連が第 2 位(79%)、**経営陣の IR 姿勢等**(85%)、**説明会等**(83%)、**自主的情報開示**(76%) が第 3 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 4 位(85%)となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率の改善が際立った。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」(第 2 位)が 85%以上の得点率となった。これに関連して、IR 部門への情報集積が優れているとの声や、その場で回答できなくとも後で詳しい説明が得られるとの声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目は共に第 3 位となった。これらに関連して、経営陣が IR の重要性を理解し、率先して対応していることを評価する声や、経営トップとの対話が定期的実施されるようになったとの声が寄せられた。また、ESG に関する説明が充実してきたとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」(同得点第 2 位)および「説明会、インタビューにおける開示」(第 3 位)が共に、80%以上の得点率となった。これらに関連して、一過性、子会社の一部の利益実績、前年差説明を評価する声が寄せられた。一方で、段階損益の会社計画の開示を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、2 項目共に、昨年度に比べ得点率が改善した。特に、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」(同得点第 1 位)は、95%以上の得点率となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、環境に関する項目が最も高い評価となった。これに関連して、Scope3 のカテゴリ 11 の開示など前向きな開示姿勢を評価する声があった。また、「重視する経営指標(例えば、ROE、リスク・リターン指標等)とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていること。また、ROE の改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていること」も同得点第 1 位となった。これに関連して、財務レバレッジの目標値設定や、累進配当制度、総還元性向目標の設定を評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 3 位となった。充実していたイベントとして、ESG 説明会を挙げる声が多かったほか、国内洋上風力発電事業説明会、銅事業説明会を挙げる声もあった。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (商社)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8031 三井物産	83.6	25.8	2	12.8	1	9.2	1	32.1	1	3.7	4	1
2	8001 伊藤忠商事	82.0	26.2	1	12.6	2	8.6	2	30.4	3	4.2	1	2
3	8058 三菱商事	81.8	25.4	3	12.4	3	8.5	4	31.7	2	3.8	3	4
4	2768 双日	78.2	23.9	5	11.9	4	8.6	2	29.8	4	4.0	2	6
5	8002 丸紅	76.3	24.0	4	11.9	4	8.5	4	28.7	5	3.2	5	3
6	8053 住友商事	75.0	23.5	6	11.8	6	8.1	6	28.4	6	3.2	5	5
7	8015 豊田通商	67.6	20.9	7	10.0	7	7.6	7	26.0	7	3.1	7	7
	評価対象企業評価平均点	77.78	24.24		11.92		8.44		29.58		3.60		

2023年度評価項目および配点（商社）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどうか評価しますか。例えば、IR対応組織を強化したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣はIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、リーダーシップをもって、経営戦略に反映していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（15点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビューでの質疑応答は十分に満足できるものですか。	10
(2)説明資料等における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報（通期計画の段階損益、一過性の要因、投融資の金額およびリターン、価格・数量の前提および感応度等）が十分に開示されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
①経営陣およびIR部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていますか。	7
4. ESGに関連する情報の開示（40点）	配点
①重視する経営指標（例えば、ROE、リスク・リターン指標等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていますか。また、ROEの改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
②社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
③環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していますか。また、その成果を提示していますか。	15
④社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。 【過去1年間を目安に評価】 【充実していた会合等名をコメント欄に記入して下さい】	5

商社専門部会委員

部会長	成田 康浩	野村證券
部会長代理	森本 晃	SMBC 日興証券
	永野 雅幸	大和証券
	濱口 実	アセットマネジメント One
	堀内 敏成	QUICK

評価実施アナリスト（16名）

安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	成田 康浩	野村證券
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	濱口 実	アセットマネジメント One
栗原 英明	東海東京調査センター	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
五老 晴信	UBS 証券	福元 千佳	JP モルガン証券
下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行	堀内 敏成	QUICK
竹川 克彦	三井住友トラスト・アセットマネジメント	水野 加奈子	みずほ証券
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント	宮原 秀和	丸三証券
永野 雅幸	大和証券	森本 晃	SMBC 日興証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

小売業

1. 評価対象企業（23社）

【百貨店】（4社）

J.フロントリテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、
高島屋、丸井グループ

【総合小売・コンビニエンスストア】（4社）

ローソン、セブン&アイ・ホールディングス、
パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、イオン

【ネット通販】（3社）

アスクル、MonotaRO、ZOZO

【専門店】（12社）

エービーシー・マート、マツキヨココカラ&カンパニー（新規）、
ウエルシアホールディングス、ツルハホールディングス、良品計画、
スギホールディングス、しまむら、ケーズホールディングス、
ヤマダホールディングス、ニトリホールディングス、
ファーストリテイリング、サンドラッグ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	27
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	15
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	5	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		18	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは41名（所属先30社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、全般的に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価点は70.9点（昨年度69.2点）、総合評価点の標準偏差は10.2点（昨年度9.7点）であった。

- ② 業態別の総合評価平均点は、高得点順に、百貨店（4社）：79.5点（昨年度78.6点）、総合小売・コンビニエンスストア（4社）：74.1点（昨年度74.3点）、ネット通販（3社）：72.9点（昨年度68.5点）、専門店（12社）：66.5点（昨年度64.1点）となった。百貨店は4社のうち3社が80点を超えるなど高水準であった。ネット通販は3社全てが昨年度を上回り、特に、アスクル（+6.6点）、MonotaRO（+5.0点）の上昇が目立った。専門店は昨年度に続き上昇したが、なかでも、ツルハホールディングス（+7.8点）、スギホールディングス（+6.1点）、サンドラッグ（+4.5点）などのドラッグストアが大きく改善した。一方、各企業の得点率の差が大きいため、下位評価企業においては一層の改善努力を求めたい。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%（昨年度72%）、**説明会等**が78%（昨年度77%）、**フェア・ディスクロージャー**が82%（昨年度81%）、**ESG関連**が65%（昨年度60%）、**自主的情報開示**が48%（昨年度45%）となり、5分野全てにおいて昨年度を上回った。
- ④ 評価項目について見ると、平均得点率80%以上の評価項目は5項目（昨年度同数）となり、そのうち85%以上は次の4項目（**説明会等**の中の2項目（(a) (b)）および**フェア・ディスクロージャー**の中の2項目（(c) (d)）（昨年度2項目）であった。
- (a) 「月次の売上状況は、十分に開示されていますか」（平均得点率85%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点/配点（以下省略））：10%以下2社・80%台3社・90%台16社・100%2社）
- (b) 「各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか」（平均得点率87%〔昨年度81%〕）（得点率：60%台1社・70%台4社・80%台4社・90%台14社）
- (c) 「経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」（平均得点率89%〔昨年度84%〕）（得点率：60%台2社・70%台1社・80%台3社・90%台17社）
- (d) 「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか」（平均得点率90%〔昨年度84%〕）（得点率：30%台1社・70%台2社・80%台2社・90%台12社・100%6社）
- ⑤ 一方、平均得点率が50%台以下の評価項目は、3項目（**ESG関連**の中の1項目（下記⑥の(e)）および**自主的情報開示**の2項目（下記の(a) (b)））となった。なお、**自主的情報開示**の2項目の平均得点率は、昨年度に比べやや改善したものの40%台にとどまっている。
- (a) 「会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか」（平均得点率49%〔昨年度44%〕）（得点率：10%台2社・20%台6社・30%台2社・40%台1社・50%台3社・60%台1社・70%台5社・80%台2社・90%台1社）
- (b) 「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していますか」（平均得点率47%〔昨年度46%〕）（得点率：20%台4社・30%台4社・40%台3社・50%台8社・60%台1社・70%台3社）
- ⑥ **ESG関連**の5項目は、次のとおりとなり、いずれの項目も各企業の得点率の差が大きい状況が見られる。なお、(d)は、本年度の新規項目である。
- (a) 「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率73%〔昨年度69%〕）（得点率：20%台1社・50%台1社・60%台4社・70%台10社・80%台5社・90%台2社）
- (b) 「ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか」（平均得点率68%〔昨年度64%〕）（得点率：20%台1社・50%台4社・60%台7社・70%台6社・80%台4社・90%台1社）
- (c) 「ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか」（平均得点率68%〔昨年度62%〕）（得点率：20%台1社・40%台1社・50%台4社・60%台6社・70%台5社・80%台4社・90%台2社）
- (d) 「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーンの環

境・人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか」(平均得点率 67%) (得点率: 30%台 1社・50%台 4社・60%台 7社・70%台 6社・80%台 3社・90%台 2社)

- (e) 「中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策(資本コスト・リターン)、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」(平均得点率 59% [昨年度 53%]) (得点率: 20%台 1社・30%台 1社・40%台 3社・50%台 7社・60%台 5社・70%台 5社・90%台 1社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 丸井グループ(ディスクロージャー優良企業[3回連続5回目])

総合評価点 89.8点 [昨年度比+2.8点]

- ① 同社は、説明会等(得点率(以下省略) 89%)、フェア・ディスクロージャー(97%)、ESG関連(93%)が第1位、経営陣のIR姿勢等が同得点第1位(87%)、自主的情報開示が第3位(76%)となった。昨年度に比べ4分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」および「IRの基本スタンス」が共に最も高い評価となり、「IR部門の機能」も同得点第2位となった。これらに関連して、経営トップは、投資家・アナリストとの対話の重要性を理解し、そこで得た知見をIRに積極的に活かしているとの声や、IR部門を含め全社的に経営戦略の理解が浸透していることが窺えるとの声が寄せられた。また、社外取締役説明会などの開催を評価する声があった。なお、中長期的な業績見通しや具体的な戦略などの説明を評価しつつ、短期的な業績に対する、より一層の背景説明を望む声もあった。
- ③ 説明会等においては、「決算情報開示」が最も高い評価となり、「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」の2項目も共に、85%以上の得点率となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」(第3位)も80%以上の得点率であった。これらに関連して、決算説明会や中期経営計画などの説明資料は充実していてわかりやすいとの声が寄せられ、投資家の声を受け、説明会では新しいテーマに沿った説明を積極的に行っているとの声もあった。また、リカーリングレベニューなど今後の収益性や強みがわかるKPIを継続して開示している点を評価する声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、4項目全てが最も高い評価となった。
- ⑤ ESG関連においては、5項目全てが最も高い評価(同得点第1位を含む。)となり、いずれも90%以上の得点率であった。これらに関連して、中長期の経営計画の継続的な説明や、資本政策、ESGの取組みなどの説明を評価する声が寄せられた。また、人的資本への投資等の説明が充実しているとの声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション(店舗、物流センター、海外拠点等)へのインタビュー等について積極的に対応していること」が同得点第1位となり、「会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」は同得点第4位となった。充実していたイベントとして、IR DAYを挙げる声が多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 アスクル(総合評価点 84.8点 [昨年度比+6.6点]、昨年度第5位)

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等(87%)、自主的情報開示(80%)が同得点第1位、説明会等が同得点第2位(87%)、ESG関連が第3位(79%)、フェア・ディスクロージャーが第6位(92%)となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善し、特に、ESG関連および自主的情報開示の上昇が大きかった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「IR部門の機能」が最も高い評価となり、「IRの基本スタンス」(第2位)および「経営陣のIR姿勢」(同得点第2位)も共に80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野で同得点第1位となった。これらに関連して、IR部門のフォローが迅速である、定期的にIRミーティングが開催されているとの声が寄せられた。また、経営陣はIR活動に意欲的であり、市場参加者の声に耳を傾ける姿勢が感じられるとの声や、経営トップが四半期ごとに説明会に参加していることを評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第2位となり、「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」の2項目も共に高い評価となった。また、「決算情報開示」も90%以上の

得点率であった。これらに関連して、決算説明会資料等の情報開示は質・量共に十分との声や、決算説明会後に質疑応答のセッションを開催しており、有意義な質疑応答ができるとの声が寄せられた。また、ファクトシートのエクセルでの提供や、月次情報の内容を評価する声もあった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、4項目が、いずれも85%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会資料や質疑応答集の開示が迅速であるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「ESGに関する取組み」(4項目)が、いずれも80%以上の得点率となった。これらに関連して、初の統合報告書を発行し、株式市場との対話を深めようとする姿勢を評価する声があった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」は第6位となった。なお、中期経営計画の説得力を高めるような記載の工夫を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション(店舗、物流センター、海外拠点等)へのインタビュー等について積極的に対応していること」が同得点第1位となり、「会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」は同得点第2位となった。充実していたイベントとして、新物流センター見学会を挙げる声が多かった。

第3位 J. フロント リテイリング (総合評価点 82.0 点 [昨年度比+0.2 点]、昨年度第2位)

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位(94%)、**ESG 関連**が第4位(79%)、**経営陣の IR 姿勢等**(81%)、**説明会等**(86%)が同得点第4位、**自主的情報開示**が同得点第6位(65%)となった。昨年度に比べ、**説明会等**および**自主的情報開示**において得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IRの基本スタンス」が同得点第3位となり、「経営陣の IR 姿勢」(第4位)も85%以上の得点率となった。「IR部門の機能」は同得点第8位であった。これらに関連して、経営トップをはじめ経営陣は半期ごとのミーティングに参加するなど、投資家の声を積極的に聴く姿勢が見られるとの声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「決算情報開示」が同得点第2位となったほか、「月次の売上状況が十分に開示されていること」(同得点第3位)が95%以上の得点率となった。そのほかの2項目も80%以上の得点率であった。これらに関連して、月次の開示には改善が見られるとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「外国人投資家向け情報提供」および「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていること」が最も高い評価となった。そのほかの2項目についても、共に85%以上の得点率となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「ESGに関する取組み」の4項目が、いずれも80%以上の得点率となった。これらに関連して、ESG説明会を評価する声があった。また、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」も同得点第3位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション(店舗、物流センター、海外拠点等)へのインタビュー等について積極的に対応していること」(同得点第5位)および「会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」(同得点第6位)が共に得点率を改善した。充実していたイベントとして、事業戦略説明会を挙げる声が多かった。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (小売業)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR専門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	丸井グループ	89.8	23.6	1	17.8	1	14.5	1	27.8	1	6.1	3	1
2	アスクル	84.8	23.6	1	17.3	2	13.8	6	23.7	3	6.4	1	5
3	J. フロントリテイリング	82.0	22.0	4	17.1	4	14.1	2	23.6	4	5.2	6	2
4	三越伊勢丹ホールディングス	80.5	22.2	3	16.6	7	13.2	9	22.1	7	6.4	1	4
5	フアーストリテイリング	80.3	21.5	6	15.9	13	14.1	2	23.8	2	5.0	8	6
6	セブン&アイ・ホールディングス	78.4	21.1	7	16.6	7	12.5	13	22.9	5	5.3	4	3
7	ローソン	77.2	20.6	9	16.2	10	12.9	11	22.2	6	5.3	4	7
8	しまむら	76.5	22.0	4	17.3	2	13.0	10	19.0	14	5.2	6	9
9	パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	74.3	20.6	9	15.4	14	13.6	7	19.9	11	4.8	9	8
10	良品計画	73.0	19.0	16	14.7	18	14.0	4	20.7	8	4.6	10	10
11	ツルハホールディングス	72.8	20.1	11	16.9	6	12.7	12	20.5	9	2.6	15	16
12	ケーズホールディングス	69.7	19.5	13	16.1	12	11.7	17	20.0	10	2.4	16	12
13	ZOZO	69.3	20.8	8	14.9	16	13.9	5	17.4	20	2.3	18	11
14	スギホールディングス	68.3	19.6	12	16.4	9	11.6	18	18.8	15	1.9	20	17
15	ウエルシアホールディングス	68.2	19.5	13	16.2	10	11.6	18	18.1	17	2.8	14	14
16	イオン	66.2	16.5	20	13.0	22	13.4	8	19.8	12	3.5	13	15
17	サンドラッグ	65.8	19.5	13	15.1	15	11.1	20	18.4	16	1.7	22	18
18	高島屋	65.4	18.2	19	14.8	17	11.8	16	16.2	21	4.4	11	13
19	MonotaRO	64.6	18.4	18	17.1	4	12.2	14	14.5	22	2.4	16	20
20	マツキヨココカラ&カンパニー	63.6	18.7	17	13.7	19	11.9	15	17.6	19	1.7	22	
21	ヤマダホールディングス	60.3	16.1	21	10.8	23	10.0	21	19.1	13	4.3	12	19
22	ニトリホールディングス	55.0	14.2	22	13.2	21	8.0	22	17.8	18	1.8	21	21
23	エービーシー・マート	44.0	13.7	23	13.6	20	7.2	23	7.3	23	2.2	19	22
	評価対象企業評価平均点	70.89	19.61		15.52		12.30		19.62		3.84		

2023年度評価項目および配点(小売業)

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (27点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップがIR活動に理解を示し、注力していますか。また、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	9
(2)IR部門の機能	
・IR部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、IR部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができますか。	9
(3)IRの基本スタンス	
・当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していますか。	9
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (20点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示（以下①②については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する）	
①実績および次期事業計画について、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が開示されていますか。また、セグメント分類をはじめ会計方針等の変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	8
②月次の売上状況は、十分に開示されていますか。	2
(3)決算情報開示	
・各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか。	4
3. フェア・ディスクロージャー (15点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	4
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供	
①決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	5
②リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか。	2
(3)外国人投資家向け情報提供	
・英文による情報提供は充実していますか。（0～4点の整数で評価）	4
4. ESGに関連する情報の開示 (30点)	配点
(1)ESGに関する取組み	
①企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか。	5
②ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか。	5
③ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか。	5
④ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーンの環境・人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。	3
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示	
・中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	12
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (8点)	配点
①会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していたIRイベント等名をコメント欄に記入して下さい】	4
②投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していますか。	4

小売業専門部会委員

部会長	小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
部会長代理	高橋 俊雄	みずほ証券
	風早 隆弘	クレディ・スイス証券
	金森 都	SMBC 日興証券
	仲西 恭子	アセットマネジメント One
	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
	村田 大郎	JP モルガン証券

評価実施アナリスト (41名)

饗場 大介	岩井コスモ証券	高橋 俊雄	みずほ証券
朝枝 英也	みずほ証券	田村 真一	極東証券経済研究所
荒木 正人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	津田 和徳	大和証券
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	鶴尾 充伸	シイクグループ証券
五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	寺島 正	大和アセットマネジメント
伊藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	陶 志遠	アライアンス・パートナーズ
井上 昂洋	シイクグループ証券	永田 和子	QUICK
江上 誠	三井住友トラスト・アセットマネジメント	仲西 恭子	アセットマネジメント One
大場 剛平	野村アセットマネジメント	納 博司	いちよし経済研究所
風早 隆弘	クレディ・スイス証券	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
金森 都	SMBC 日興証券	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
金森 淳一	岡三証券	花井 美穂	SOMPO アセットマネジメント
川原 潤	大和証券	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
菅 あずさ	水戸証券	堀井 章	ニッセイ アセットマネジメント
岸本 晃知	みずほ証券	松尾 賢弥	SMBC 日興証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	村田 大郎	JP モルガン証券
小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	守屋 のぞみ	UBS 証券
篠崎 真紀	モルガン・スタンレー MUFJ 証券	山岡 久紘	野村証券
角 英樹	東海東京調査センター	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
高田 訓弘	三菱 UFJ アセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

銀行

1. 評価対象企業（13社）

【主要銀行】（6社）

あおぞら銀行、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、三井住友トラスト・ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、みずほフィナンシャルグループ

【地方銀行】（5社）

しずおかフィナンシャルグループ、めぶきフィナンシャルグループ、コンコルディア・フィナンシャルグループ、千葉銀行、ふくおかフィナンシャルグループ

【専門銀行】（2社）

ゆうちょ銀行、セブン銀行

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	7
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	8	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	13
計		22	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 20 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち **ESG 関連**を中心に項目数、内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 77.8 点（昨年度 75.0 点）、総合評価点の標準偏差は、4.8 点（昨年度 6.2 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 77%（昨年度同率）、**説明会等**が 81%（昨年度 79%）、**フェア・ディスクロージャー**が 85%（昨年度同率）、**ESG 関連**が 76%（昨年度 70%）、**自主的情報開示**が 72%（昨年度 68%）となった。
- ③ 評価項目（全 22 項目）について見ると、11 項目が平均得点率で 80%以上となり、その中でも次の 3 項目（説

明会等の中の2項目((a)(b))およびフェア・ディスクロージャーの中の1項目(c)は85%以上と高水準であった。

- (a)「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示(規制変更の影響など自主的開示を含む)が十分に なされていますか」(平均得点率86%〔昨年度82%〕)(得点率(評価点/配点<以下省略>):70%台1社・80%台7社・90%台5社)
 - (b)「第1四半期、第3四半期の開示内容は充実していますか」(平均得点率86%〔昨年度84%〕)(得点率:70%台2社・80%台7社・90%台4社)
 - (c)「経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」(平均得点率87%〔昨年度89%〕)(得点率:80%台7社・90%台6社)
- ④ ESG関連の8項目は、次のとおりとなった((e)(f)(h)は、本年度の新設項目)。なお、(g)の平均得点率が全22項目の中で最も低かった。
- (a)「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率77%〔昨年度74%〕)(得点率:60%台2社・70%台7社・80%台4社)
 - (b)「中・長期経営計画(ROEなど目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率76%〔昨年度72%〕)(得点率:70%台8社・80%台5社)
 - (c)「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率82%〔昨年度79%〕)(得点率:70%台3社・80%台10社)
 - (d)「社外取締役の関与について、実効性も含め、十分な開示と説明がなされていますか」(平均得点率71%〔昨年度64%〕)(得点率:50%台1社・60%台5社・70%台3社・80%台4社)
 - (e)「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率82%)(得点率:70%台5社・80%台4社・90%台4社)
 - (f)「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率80%)(得点率:70%台6社・80%台7社)
 - (g)「ESG関連の説明会を開催していますか。また、それは充実していますか」(平均得点率63%〔昨年度59%〕)(得点率:30%台3社・40%台3社・60%台1社・70%台2社・80%台1社・90%台3社)
 - (h)「人的資本に関する情報開示は十分に なされていますか」(平均得点率76%)(得点率:60%台1社・70%台5社・80%台7社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 三菱UFJフィナンシャル・グループ (ディスクロージャー優良企業 (2回連続9回目)、

総合評価点84.9点〔昨年度比-1.7点〕

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等(得点率<以下省略>86%)、ESG関連(86%)、自主的情報開示(85%)が第1位、説明会等が第4位(83%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第6位(86%)となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」および「IR部門の機能・姿勢」が共に最も高い評価となり、「IRの基本スタンス」も同得点第1位となった。これらに関連して、決算説明会や統合報告書において経営トップのメッセージは明快で、定量的な情報も充実しており、経営方針が十分に理解できるとの声や、経営トップによる継続的なIR活動への関与を評価する声が寄せられた。なお、中長期的な成長戦略についてさらに説明を望む声や、東証ベースROE目標の設定が望ましいとの声があった。IR部門については、必要な情報が集積されていることや、投資家への適切な対応を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること(合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む)」が最も高い評価となった。「事業または財務上のリスク情報の開示が十分に なされていること」も同得点第1位となった。また、「決算補足説明資料が、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」および「自己資本規制をはじめとする金

融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」もトップと僅差であった。これらに関連して、説明会での経営陣の説明が明快でわかりやすいとの声や、米州 MUFG ホールディングスコーポレーション関連の損益変動の説明を評価する声が寄せられた。「事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つた状態で十分に開示・説明されていること」は第 11 位にとどまった。なお、セグメント別の四半期業績について開示の充実を望む声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「英文による情報提供」が同得点第 1 位となり、「リモートツールによる情報提供」もトップと僅差の同得点第 2 位となった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 10 位）は平均得点率に達しなかった。これらに関連して、ウェブサイトでの決算説明会の動画・音声配信、スクリプト付資料の開示、質疑応答集などが充実しているとの声が寄せられた。なお、コーポレートアクションについて報道の先行が見られるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、全 8 項目のうち 7 項目において、第 1 位または同得点第 1 位となった。特に、「環境・社会に関する情報開示」の 3 項目は、いずれも 85%以上の得点率となった。これらに関連して、MUFG トランジション白書の発行など ESG の取組みに関する情報開示がさらに積極的になったとの声や、ESG 説明会は定例のもの以外にも随時実施していることを評価する声が寄せられた。また、説明会資料、統合報告書ともに人的資源に関する取組みの記載が充実しているとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が最も高い評価となった。また、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」（第 2 位）もトップと僅差であった。充実していたイベントとして、Investors Day を挙げる声が多く、各事業部トップによる説明が充実していたとの声があった。そのほか、気候変動セミナー、社外取締役とのスモールミーティングなどを挙げる声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 三井住友フィナンシャルグループ（総合評価点 83.4 点〔昨年度比+0.7 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（82%）、ESG 関連（85%）が第 2 位、自主的情報開示が第 3 位（82%）、説明会等が第 5 位（83%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 6 位（86%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 2 位、「IR の基本スタンス」が同得点第 4 位となった。これらに関連して、経営トップの経営方針に関するメッセージが明快であるとの声や、社会的価値創造を経営に取り込む姿勢を積極的に説明している点を評価する声が寄せられた。なお、「IR 部門の機能・姿勢」は昨年度に比べ得点率が下がり、同得点第 5 位となった。これに関連して、IR 部門への情報集積は充分で、有意義な議論ができると評価する声がある一方、投資家への、より積極的な開示を望む声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」、「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」および「決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」が、いずれも同得点第 1 位となった。これらに関連して、決算説明会の資料はよくまとまっており、わかりやすいとの声が寄せられた。なお、「第 1 四半期、第 3 四半期の開示内容が充実していること」は平均得点率に達しなかった。これに関連して、第 1 四半期、第 3 四半期の開示対応が簡潔すぎるとの声や、電話会議などの説明会を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「英文による情報提供」が同得点第 1 位となり、「リモートツールによる情報提供」もトップと僅差の同得点第 2 位となった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 10 位）は平均得点率に達しなかった。これらに関連して、ウェブサイトでの決算説明会の動画・音声配信、スクリプト付資料の開示、質疑応答集などが充実しているとの声が寄せられた。なお、コーポレートアクションについて報道の先行が見られるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「環境・社会に関する情報開示」の 3 項目が、いずれも同得点第 1 位となった。また、他の項目の得点率についてもトップと僅差であった。これらに関連して、各種説明資料において、目標やその進捗の開示が充実しているとの声があった。また、ESG 説明会の定期的な開催や、TNFD レポートの迅速な発

行を評価する声も寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が、トップと僅差の第2位となった。また、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」も第3位となった。充実していたイベントとして、IR Dayを挙げる声が多く、各事業部トップによる説明が充実していたとの声があった。

第3位 三井住友トラスト・ホールディングス（総合評価点 82.9点〔昨年度比+2.7点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、説明会等が第1位（85%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（89%）、ESG関連が同得点第3位（84%）、自主的情報開示が第4位（80%）、経営陣のIR姿勢等が第5位（79%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」（同得点第4位）および「IRの基本スタンス」（同得点第4位）が、昨年度に比べ得点率を改善した。これに関連して、経営トップによる経営方針の説明について、中期的なメッセージが明快であるとの声や、信託銀行の強みがよく理解できる内容で有益であるとの声が寄せられた。なお、当社の特徴や独自性についてさらに情報発信することを期待する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」、「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」および「決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」が、いずれも同得点第1位となった。また、そのほかの項目も80%以上の得点率となり、その結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営トップ自らが詳細に説明し、質問に対する回答も明確であるとの声や、子会社の状況がよく理解できるとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツールによる情報提供」（第1位）および「英文による情報提供」（同得点第1位）が共に90%以上の得点率となった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」も85%以上の得点率となり、その結果、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、ウェブサイトでの決算説明会の動画・音声配信、スクリプト付資料の開示、質疑応答集などが充実しているとの声が寄せられた。なお、コーポレートアクションについて報道の先行が見られるとの声があった。
- ⑤ ESG関連においては、「環境・社会に関する情報開示」の3項目が、いずれも85%以上の得点率となった。また、他の項目の得点率も80%以上であった。これらに関連して、環境関連ビジネスなどの多岐にわたる内容について、説明や資料が充実しているとの声があった。また、ESG説明会の定期的な開催や、TBFチームなどの独自の取組みの説明を評価する声も寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」および「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が共に、昨年度に比べ得点率を改善した。充実していたイベントとして、IR Dayを挙げる声が多かった。具体的には、不動産事業、投資家ビジネス説明会を挙げる声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

- **コンコルディア・フィナンシャルグループ（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 80.4点〔昨年度比+8.4点、一昨年度比+11.1点〕、第5位〔昨年度第8位、一昨年度第12位〕）**

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等（82%）、説明会等（84%）が第3位、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（87%）、ESG関連が第5位（79%）、自主的情報開示が第8位（71%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善した結果、総合順位は第5位となった（昨年度比3ランクアップ、一昨年度比7ランクアップ）。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「IRの基本スタンス」が同得点第1位となり、そのほかの2項目も共に80%以上の得点率となった結果、この分野において第3位（昨年度同得点第9位）となった。これらに関連して、経営トップによるIR活動は格段に向上し、経営方針に関するメッセージも明確であるとの声が寄せられた。

- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2項目計）が第1位となった。また、「説明会、インタビューにおける開示（連・単の両決算）」の4項目がいずれも80%以上の得点率となり、その結果、この分野において第3位（昨年度第8位）となった。これらに関連して、経営トップ、CFO、社外取締役、各事業担当役員などの幅広い経営陣と投資家との対話の機会を設けていることを評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第1位となり、「リモートツールによる情報提供」（同得点第2位）および「英文による情報提供」（同得点第8位）も共に80%以上の得点率となった。その結果、この分野において同得点第3位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等」（同得点第1位）および「社外取締役の関与について、実効性も含め、十分な開示と説明がされていること」（同得点第2位）が昨年度に比べ得点率を大きく改善した。また、「人的資本に関する情報開示」も同得点第2位となった。これらに関連して、社外取締役とのミーティング、人材戦略、環境などのESG関連のイベントを定期的で開催していることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目共に、昨年度に比べ得点率を改善した。これらに関連して、充実していたイベントとして、IR Dayでの各種の説明を挙げる声が多く寄せられ、人材に関する取組みが競争力向上と企業価値向上につながる点がよく理解できたとの声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点20点)	順位	評価項目6 (配点30点)	順位	評価項目3 (配点7点)	順位	評価項目8 (配点30点)	順位	評価項目2 (配点13点)	順位	
1	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	84.9	17.1	1	25.0	4	6.0	6	25.8	1	11.0	1	1
2	8316 三井住友フィナンシャルグループ	83.4	16.4	2	24.9	5	6.0	6	25.4	2	10.7	3	2
3	8309 三井住友トラスト・ホールディングス	82.9	15.8	5	25.4	1	6.2	1	25.1	3	10.4	4	3
4	8411 みずほフィナンシャルグループ	82.8	16.2	4	24.5	7	6.1	3	25.1	3	10.9	2	4
5	7186 コンコルディア・フィナンシャルグループ	80.4	16.3	3	25.1	3	6.1	3	23.7	5	9.2	8	8
6	8331 千葉銀行	78.0	15.5	6	24.4	8	5.5	13	23.0	7	9.6	6	5
7	8308 りそなホールディングス	77.8	15.3	7	24.0	10	5.7	10	23.3	6	9.5	7	6
8	5831 しずおかフィナンシャルグループ	77.3	15.1	9	25.2	2	5.9	8	22.0	8	9.1	9	10
9	8304 あおぞら銀行	74.9	14.9	10	24.6	6	6.2	1	21.4	9	7.8	11	12
10	8410 セブン銀行	73.9	14.9	10	24.4	8	6.1	3	20.5	10	8.0	10	7
11	7182 ゆうちょ銀行	73.7	15.3	7	22.4	13	5.9	8	20.3	11	9.8	5	9
12	7167 めぶきフィナンシャルグループ	70.9	14.1	12	23.3	12	5.7	10	20.2	12	7.6	13	11
13	8354 ふくおかフィナンシャルグループ	70.8	14.0	13	23.5	11	5.6	12	20.0	13	7.7	12	12
	評価対象企業平均点	77.82	15.45		24.36		5.93		22.75		9.33		

2023年度評価項目および配点（銀行）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（20点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能・姿勢	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（30点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示(連・単の両決算)	
①事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つたあたりで十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
④自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていますか。	4
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	4
②第1四半期、第3四半期の開示内容は充実していますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	2
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。	3
(3)英文による情報提供	
・英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
(3)コーポレート・ガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4
②社外取締役の関与について、実効性も含め、十分な開示と説明がなされていますか。	4
(4)環境・社会に関する情報開示	
①環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	3
②社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	3
③ESG関連の説明会を開催していますか。また、それは充実していますか。	3
(5)人的資本に関する情報開示	
・人的資本に関する情報開示は十分になされていますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（13点）	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していますか。また、その際の実説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	6
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていきますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	7

銀行専門部会委員

部会長	高宮 健	野村証券
部会長代理	鮫島 豊喜	SBI証券
	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG証券
	花岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
	藤原 重良	SOMPOアセットマネジメント
	松野 真央樹	みずほ証券
	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

評価実施アナリスト（20名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
今井 雅	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ証券
佐藤 雅彦	SMBC日興証券	橋本 浩	富国生命投資顧問
佐野 滉介	第一生命保険	花岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
鮫島 豊喜	SBI証券	柘 宏二	QUICK
高宮 健	野村証券	藤原 重良	SOMPOアセットマネジメント
田村 晋一	岡三証券	松野 真央樹	みずほ証券
勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント	矢野 貴裕	JPモルガン証券
長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG証券	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

保険・証券・その他金融

1. 評価対象企業（9社）

- 【損保】（3社） SOMPOホールディングス、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス
 【生保】（3社） かんぽ生命保険、第一生命ホールディングス、T&Dホールディングス
 【証券】（2社） 大和証券グループ本社、野村ホールディングス
 【その他金融】（1社） オリックス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	5	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	7
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	6	29
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	8
計		21	100

（注） 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは18名（所属先18社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち **ESG関連**を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は72.7点（昨年度70.5点）、総合評価点の標準偏差は、6.2点（昨年度8.0点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、損保（3社）が78.2点（昨年度77.2点）、生保（3社）が68.8点（昨年度67.2点）、証券（2社）が70.7点（昨年度64.7点）、その他金融（1社）は72.0点（昨年度同点）となり、昨年度に比べ、証券が大きく上がった。なお、個社で見ると、大和証券グループ本社（+8.0点）およびT&Dホールディングス（+7.0点）の上昇幅が大きかった。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が72%（昨年度71%）、**説明会等**が76%（昨年度72%）、**フェア・ディスクロージャー**が80%（昨年度同率）、**ESG関連**が71%（昨年度69%）、**自主的な情報開示**が61%（昨年度62%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全21項目中、80%以上の平均得点率は次の3項目となった（**説明会等**の中の1項目(a)、**フェア・ディスクロージャー**の中の2項目(b)(c)）。

(a) 「決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものにな

っていますか」(平均得点率 80% [昨年度 76%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 60%台 1社・70%台 3社・80%台 4社・90%台 1社)

(b) 「経営陣および IR 部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか (報道機関等への対応含む)」(平均得点率 83% [昨年度 81%]) (得点率: 70%台 2社・80%台 5社・90%台 2社)

(c) 「ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供 (説明会等の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ) を日英両言語で行っていますか」(平均得点率 80% [昨年度 77%]) (得点率: 70%台 2社・80%台 7社)

⑤ 一方、次の項目 (経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目) は、昨年度に続き平均得点率が最も低かった。

・ 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 55% [昨年度 51%]) (得点率: 30%台 1社・40%台 4社・50%台 1社・70%台 3社)

⑥ ESG 関連の 6 項目は、次のとおりとなった。なお、(e)および(f)は、本年度の新設項目である。

(a) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目 (例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報) について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明されていますか」(平均得点率 73% [昨年度同率]) (得点率: 60%台 2社・70%台 4社・80%台 3社)

(b) 「社外取締役の選定プロセスや関与について、十分に説明されていますか」(平均得点率 64% [昨年度 63%]) (得点率: 50%台 1社・60%台 6社・70%台 2社)

(c) 「資本政策 (資本コストの考え方を含む)、株主還元方針が十分に説明されていますか」(平均得点率 75% [昨年度 70%]) (得点率: 60%台 2社・70%台 4社・80%台 3社)

(d) 「中・長期経営計画 (ROE の他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他の KPI) を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率 73% [昨年度 69%]) (得点率: 50%台 2社・70%台 5社・80%台 2社)

(e) 「E (環境) に関する適切な目標設定、PDCA サイクルの実践、アップデートがなされていますか」(平均得点率 74%) (得点率: 60%台 1社・70%台 8社)

(f) 「S (人的資本を含む社会) に関する適切な目標設定、PDCA サイクルの実践、アップデートがなされていますか」(平均得点率 65%) (得点率: 50%台 1社・60%台 6社・70%台 2社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 東京海上ホールディングス (総合評価点 82.4 点 [昨年度比-1.0 点])

① 同社は、5 分野のうち 4 分野において第 1 位となった。具体的には、**経営陣の IR 姿勢等** (得点率 (以下省略) 87%)、**説明会等** (83%)、**ESG 関連** (79%)、**自主的情報開示** (78%) の 4 分野である。なお、**フェア・ディスクロージャー** (83%) は、昨年度に比べ得点率が下がり、第 3 位となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、5 項目のうち、「社外取締役との対話」(同得点第 2 位)を除く 4 項目が、第 1 位または同得点第 1 位となった。なかでも、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」は共に 90%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップをはじめ経営陣および IR 部門には積極的な情報発信、開示の姿勢が見られるとの声や、経営陣と IR 部門との意思疎通がしっかりなされているとの声が寄せられた。なお、最近の不祥事に関する開示について、迅速な対応を評価しつつも、さらに詳細な情報を求める声があった。

③ **説明会等**においては、6 項目のうち、「決算発表日」を除く 5 項目が最も高い評価となった。特に、「決算説明会における会社側の説明 (質疑応答を含む) や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」は、90%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会やその資料内容が充実しているとの声が寄せられた。なお、利益貢献の過半を占める北米事業について十分な開示を求める声があった。「決算発表日」は同得点第 7 位となった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものであること。短期、中長期での業績見通し上有益な情報 (月次開示を含む)、ガイダンス

をプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していること」が同得点第1位（昨年度第1位）となったものの、昨年度に比べ得点率を下げた。また、「経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていること（報道機関等への対応含む）」も得点率が下がり、第3位（昨年度第1位）となった。なお、災害や不祥事について、ウェブサイトなどによる適宜のアップデートを望む声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等」（第1位）および「資本政策、株主還元策の開示」（同得点第1位）が共に85%以上の得点率となった。これらに関連して、資本政策、株主還元方針が明確であり、予見可能性が高いとの声があった。「コーポレートガバナンス」の2項目は共に昨年度と同得点率であった。「E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示」（2項目）については、Eに関する項目は同得点第1位となり、Sに関する項目は第2位となった。これらに関連して、ESG 関連の情報は充実しており、アップデートも適宜に行われているとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は最も高い評価となった。充実していたイベントとして、DFGなどの海外事業説明会を挙げる声が多かった。

第2位 MS&AD インシュアランスグループホールディングス

（総合評価点 77.1点 [昨年度比+3.7点]、昨年度第4位）

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（78%）、**ESG 関連**（76%）、**自主的情報開示**（76%）が第2位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第4位（80%）、**説明会等**が同得点第5位（77%）となった。昨年度と同率であった**フェア・ディスクロージャー**以外の4分野において得点率が改善した。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「社外取締役との対話」が最も高い評価となった。「パンデミック、気候変動、サイバー攻撃などのリスクと機会に対する取組みを積極的に開示する姿勢が見られること」も同得点第1位となった。また、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」（同得点第2位）も評価された。なお、「経営陣のIR姿勢」（同得点第5位）および「IR部門の機能」（同得点第6位）は共に平均得点率と同程度にとどまった。これらに関連して、経営陣およびIR部門には積極的な情報発信、開示をする姿勢が見られるとの声が寄せられた一方、マネジメントスモールミーティングなどの経営陣のIR活動についてさらなる強化を望む声もあった。また、IR部門における十分な情報集積を求める声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（4項目計）が第2位（昨年度第5位）となった。なお、このうち「決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」（同得点第6位）は平均得点率程度にとどまった。これらに関連して、説明会やその資料内容が充実しているとの声が寄せられた一方で、図表などをより活用して理解しやすい構成にしてほしいとの声もあった。また、海外事業に関する開示の一層の充実を求める声があった。「決算資料・統合報告書等における開示」は同得点第5位となり、「決算発表日」は同得点第7位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（2項目計）および「リモートツールによる情報提供」が同得点第4位となったが、共に平均得点率と同程度であった。なお、災害や不祥事についてウェブサイトなどによる適宜のアップデートを望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示」（2項目計）が第1位となった。これらに関連して、ESG 関連の情報が充実しており、アップデートも適宜に行われているとの声があった。また、「コーポレートガバナンス」（2項目計）も同得点第1位となった。「資本政策、株主還元策の開示」（同得点第4位）および「目標とする経営指標等」（第5位）は共に昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、資本政策、株主還元方針が明確であり、予見可能性が高いとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は、トップと僅差の第2位となった。充実していたイベントとして、IRDAY、ESG 説明会を挙げる声が多かった。

第3位 SOMPO ホールディングス（総合評価点 75.2点 [昨年度比+0.5点]、昨年度第3位）

- ① 同社は、**ESG 関連**（74%）、**自主的情報開示**（68%）が第3位、**経営陣のIR姿勢等**が同得点第3位（76%）、

説明会等が同得点第5位(77%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第7位(76%)となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーの順位、得点率が下がった。

- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「社外取締役との対話」が昨年度に比べ得点率を大きく上げ、同得点第2位(昨年度同得点4位)となった。これに関連して、社外取締役とのスモールミーティングを評価する声があった。一方、「IR部門の機能」(同得点第3位)および「経営陣の IR 姿勢」(同得点第5位)は共に得点率が下がった。「IRの基本スタンス」(2項目計)は同得点第5位となったが、そのうちの「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」は、平均得点率に達しなかった。なお、不祥事に関する十分な開示を求める声があった。また、CEO、COOの役割を明確にした積極的な IR 姿勢を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」(4項目計)が第3位となった。また、「決算資料・統合報告書等における開示」は同得点第3位となったが、平均得点率と同程度であった。これらに関連して、図表などをより活用して理解しやすい構成にしてほしいとの声や、介護・データ関連事業に関する開示の適時のアップデートを求める声があった。「決算発表日」は同得点第7位となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツールによる情報提供」が同得点第4位となった。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(2項目計)は同得点第8位(昨年度第3位)となり、平均得点率に達しなかった。これらに関連して、海外事業の利益に関する開示を評価する声が寄せられた一方、災害や不祥事についてウェブサイトなどによる適宜のアップデートを望む声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「コーポレートガバナンス」(2項目計)の得点率が昨年度に比べ共に改善した。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は第3位となった。充実していたイベントとして、介護・シニア事業説明会を挙げる声が多く寄せられた。

なお、第1位の企業より、優良企業の受賞を辞退する申し出があり、本年度の当業種における優良企業は該当なしとなった。また、第2位および第3位の企業より、今後の「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」の評価に際して、本年度の評価を勘案することについて、辞退する申し出があった。

(注) 本年度の評価は、2022年7月から2023年6月までの期間の企業のディスクロージャーを対象として、証券アナリストが評点を付している。損害保険会社における保険料の調整行為および保険金の不正請求問題については、上記の評価期間以降も様々な報道があり、行政当局からの追加の報告徴求命令が出されているなど、いまだその全容が判明していない。したがって、本選定制度の趣旨および評価期間においては、これらの問題が十分に反映できていない可能性がある。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ T&Dホールディングス (総合評価点 73.3点 [昨年度比+7.0点]、第5位 [昨年度第6位])

同社は、自主的情報開示が第4位(64%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位(80%)、ESG 関連が同得点第5位(72%)、経営陣の IR 姿勢等が第6位(72%)、説明会等が第7位(77%)となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善し、総合評価点で7ポイント上昇した。特に、経営陣の IR 姿勢等、説明会等および ESG 関連の伸びが大きかった。

○ 大和証券グループ本社 (総合評価点 72.1点 [昨年度比+8.0点]、第6位 [昨年度第8位])

同社は、フェア・ディスクロージャーが第2位(86%)、説明会等が同得点第2位(78%)、ESG 関連が同得点第5位(72%)、自主的情報開示が第6位(56%)、経営陣の IR 姿勢等が第7位(66%)となった。昨年度に比べ、4分野において得点率が改善し、総合評価点で8ポイント上昇した。特に、説明会等、フェア・ディスクロージャーおよび ESG 関連の得点率については、それぞれ10ポイント以上の改善となった。

以上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (保険・証券・その他金融)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回順位
			評価項目5 (配点 26点)	評価項目6 (配点 30点)	評価項目3 (配点 7点)	評価項目6 (配点 29点)	評価項目1 (配点 8点)						
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8766 東京海上ホールディングス	82.4	22.6	1	24.8	1	5.8	3	23.0	1	6.2	1	1
2	8725 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	77.1	20.3	2	23.2	5	5.6	4	21.9	2	6.1	2	4
3	8630 SOMPOホールディングス	75.2	19.7	3	23.2	5	5.3	7	21.6	3	5.4	3	3
4	8750 第一生命ホールディングス	73.7	19.7	3	23.3	4	5.3	7	21.2	4	4.2	7	2
5	8795 T&Dホールディングス	73.3	18.7	6	23.0	7	5.6	4	20.9	5	5.1	4	6
6	8601 大和証券グループ本社	72.1	17.2	7	23.5	2	6.0	2	20.9	5	4.5	6	8
7	8591 オリックス	72.0	18.9	5	23.5	2	5.6	4	20.3	7	3.7	9	5
8	8604 野村ホールディングス	69.3	16.7	8	22.1	8	6.1	1	19.4	8	5.0	5	7
9	7181 かんぽ生命保険	59.5	14.6	9	19.0	9	5.1	9	17.0	9	3.8	8	9
	評価対象企業評価平均点	72.73	18.70		22.85		5.60		20.69		4.89		

2023年度評価項目および配点（保険・証券・その他金融）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	10
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。	5
(4)IRの基本スタンス	
①会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	2
②パンデミック、気候変動、サイバー攻撃などのリスクと機会に対する取組みを積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（30点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	4
④決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	5
(2)決算資料・統合報告書等における開示	
・業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	5
(3)決算発表日	
・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか（報道機関等への対応含む）。	2
②投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。短期、中長期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していますか。	2
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会等の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を日英両言語で行っていますか。	3
4. ESGに関連する情報の開示（29点）	配点
(1)コーポレートガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明がなされていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	4
②社外取締役の選定プロセスや関与について、十分に説明されていますか。	2
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策（資本コストの考え方を含む）、株主還元方針が十分に説明されていますか。	6
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEの他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他のKPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
(4)E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示	
①E（環境）に関する適切な目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	5
②S（人的資本を含む社会）に関する適切な目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
・決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していますか。[過去1年間を目安に評価]【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	8

保険・証券・その他金融専門部会委員

部会長	村木 正雄	SMBC 日興証券
部会長代理	丹羽 孝一	シティグループ証券
	佐藤 耕喜	JP モルガン証券
	辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
	渡辺 和樹	大和証券

評価実施アナリスト（18名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	丹羽 孝一	シティグループ証券
今井 雅	アセットマネジメント One	橋本 浩	富国生命投資顧問
佐藤 耕喜	JP モルガン証券	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
佐野 滉介	第一生命保険	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント	村木 正雄	SMBC 日興証券
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント	簀谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券	渡辺 和樹	大和証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

I Tサービス・ソフトウェア

1. 評価対象企業（12社）

日鉄ソリューションズ、TIS、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、オービックビジネスコンサルタント、伊藤忠テクノソリューションズ、大塚商会、ネットワンシステムズ、BIPROGY、NTT データグループ(注)、SCSK

(証券コード協議会銘柄コード順)

(注) エヌ・ティ・ティ・データが商号を変更した（2023年7月）。

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	15
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	3	29
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	6
計		10	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは23名（所属先22社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちフェア・ディスクロージャーと ESG 関連を中心に項目の数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、69.8点（昨年度 69.1点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 12.8点（昨年度 14.1点）となった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が69%（昨年度66%）、**説明会等**が75%（昨年度70%）、**フェア・ディスクロージャー**が79%（昨年度83%）、**ESG関連**が62%（昨年度61%）、**自主的な情報開示**が74%（昨年度72%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全10項目のうち平均得点率が80%以上のものではなく（昨年度は1項目）、6項目が70%台となった。そのうち、最も高い平均得点率は、次の**フェア・ディスクロージャー**の項目であった。
 - ・ 「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか【終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点 できない：0点】（平均得点率79%〔昨年度77%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：0%2社・40%台1社・100%9社）

④ 一方、**経営陣の IR 姿勢等**の中の次の 1 項目は、50%台となり、昨年度に比べ改善したものの、依然として最も低い水準となった。

- ・ 「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率 55% [昨年度 47%]) (得点率：20%台 2 社・30%台 2 社・40%台 2 社・50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 3 社・80%台 1 社)

⑤ **ESG 関連**の 3 項目は、次のとおりとなり、いずれも 60%台であった。(a)については、上位評価企業と下位評価企業の差が広がった。なお、(c)については、本年度において内容を変更したが、平均得点率がやや下がった。

- (a) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）が、十分に説明されていますか」(平均得点率 62% [昨年度 59%]) (得点率：20%台 2 社・30%台 2 社・40%台 1 社・80%台 5 社・90%台 2 社)
- (b) 「資本政策（キャッシュポジション、金庫株等）、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか」(平均得点率 63% [昨年度 59%]) (得点率：30%台 2 社・40%台 1 社・50%台 3 社・70%台 3 社・80%台 3 社)
- (c) 「非財務情報（人的資本などの ESG 情報）を統合報告書、ESG 説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていきますか」(平均得点率 61% [昨年度 63%]) (得点率：40%台 3 社・50%台 3 社・60%台 3 社・70%台 2 社・80%台 1 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業 [7 回連続 15 回目]、

総合評価点 87.1 点 [昨年度比 -4.8 点]

- ① 同社は、5 分野全てにおいて第 1 位となった。具体的には、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉87%）、**説明会等**（82%（同得点第 1 位））、**フェア・ディスクロージャー**（100%（同得点第 1 位））、**ESG 関連**（86%）、**自主的情報開示**（78%（同得点第 1 位））となった。なお、昨年度に比べ、**フェア・ディスクロージャー**を除く 4 分野において得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「**経営陣の IR 姿勢**」および「**IR 部門の機能**」（2 項目）の全ての項目が最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップが決算説明会以外でも必要に応じて投資家に説明する姿勢があることや、経営戦略だけでなく詳細な定量情報まで把握していることを評価する声が寄せられ、スモールミーティングにおける経営陣とのディスカッションは有益との声もあった。また、充実していたイベントとして、海外事業や DX コンサルティング事業などの事業説明会が挙げられた。なお、苦戦事業についての分析と戦略に関する説明の充実を期待する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が最も高い評価となった。「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」は昨年度に比べ得点率がやや下がり、第 3 位（昨年度第 1 位）となった。これらに関連して、業績説明を含め説明資料の内容が充実しているとの声や、四半期ごとの数値が明確に開示されているとの声が寄せられた。なお、コンサルティング事業の競争環境についての説明を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。これらに関連して、スクリプト付き決算説明会資料と説明会録画映像が有益であったとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「**ESG に関する情報の開示**」が最も高い評価となり、「**目標とする経営指標等**」も同得点第 1 位となった。「**資本政策、株主還元策の開示**」は第 3 位となった。これらに関連して、統合報告書、ESG

データブックの内容を評価する声があった。また、課題解決と事業成長との関係を説明しようとする姿勢を評価する声も寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第1位となった。なお、海外事業に関する開示の充実を望む声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 TIS（総合評価点 83.0点〔昨年度比-0.1点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、**説明会等**（82%）、**フェア・ディスクロージャー**（100%）、**自主的情報開示**（78%）が同得点第1位、**経営陣のIR姿勢等**（79%）、**ESG関連**（80%）が第2位となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができること」（第2位）および「**経営陣のIR姿勢**」（第3位）が共に評価された。なお、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」は第4位であった。これらに関連して、経営陣による経営戦略説明が充実しているとの声が寄せられ、コンサルティング事業説明会を評価する声もあった。なお、経営陣との対話の機会を増やすことや、クレジットカード向け事業の説明会を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、2項目共に、昨年度に比べ得点率が改善し、第2位となった。この結果、この分野において同得点第1位（昨年度第3位）となった。これらに関連して、業績説明や説明会資料の内容が充実しているとの声や、キャッシュアロケーションの開示を評価する声も寄せられた。なお、決算説明会等にグループ会社の経営陣も参加してほしいとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。これに関連して、スクリプト付き決算説明会資料と説明会録画映像が有益であったとの声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」が最も高い評価となり、「目標とする経営指標等」も同得点第1位となった。また、「ESGに関する情報の開示」も第2位となった。これらに関連して、統合報告書の内容を評価する声も寄せられた一方、環境課題や社会課題の解決と事業成長の関係についての説明を望む声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第1位となった。

第3位 SCSK（総合評価点 79.8点〔昨年度比+4.6点〕、昨年度第6位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**（100%）、**自主的情報開示**（78%）が同得点第1位、**説明会等**（82%）、**ESG関連**（74%）が第3位、**経営陣のIR姿勢等**が第4位（75%）となった。昨年度に比べ、**経営陣のIR姿勢等**および**説明会等**の得点率が大きく改善した。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができること」が同得点第3位となった。「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」（第5位）は、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。「**経営陣のIR姿勢**」は同得点第8位となった。これらに関連して、経営トップによる経営戦略の説明を評価する声も寄せられた。また、モビリティ事業説明会や新中期経営計画説明会が充実していたとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が最も高い評価となった。「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」も得点率が改善し、第3位（昨年度同得点第6位）となった。これらに関連して、説明会資料のほかに補足資料の内容も充

実しているとの声が寄せられた。なお、注力領域の売上高など重要 KPI を四半期ごとに開示してほしいとの声があった。

- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。これに関連して、説明会録画映像が有益だったとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG に関する情報の開示」が第 4 位となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」は昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 4 位（昨年度第 6 位）となった。「目標とする経営指標等」は第 5 位であった。これらに関連して、統合報告書の内容を評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第 1 位となった。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (ITサービス・ソフトウェア)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目2 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目1 (配点15点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目3 (配点29点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点6点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4307 野村総合研究所	87.1	26.1	1	16.4	1	15.0	1	24.9	1	4.7	1	1
2	3626 TIS	83.0	23.7	2	16.4	1	15.0	1	23.2	2	4.7	1	2
3	9719 SCSK	79.8	22.4	4	16.3	3	15.0	1	21.4	3	4.7	1	6
4	4739 伊藤忠テクノソリューションズ	79.5	23.3	3	15.7	4	15.0	1	20.9	4	4.6	4	3
5	9613 NTTデータグループ	75.4	22.2	5	13.7	12	15.0	1	20.2	5	4.3	8	5
6	7518 ネットアシストシステムズ	74.8	20.4	6	15.4	5	15.0	1	19.8	6	4.2	10	4
7	8056 BIPROGY	71.5	18.4	9	14.7	6	15.0	1	18.9	7	4.5	5	7
8	2327 日鉄ソリューションズ	66.1	19.0	8	14.5	7	15.0	1	13.1	10	4.5	5	8
9	4704 トレンドマイクロ	65.1	17.8	11	13.8	11	15.0	1	14.2	9	4.3	8	9
10	4733 オービックビジネスコンサルティング	58.1	20.0	7	14.5	7	7.0	10	12.2	11	4.4	7	10
11	4768 大塚商会	50.7	18.1	10	14.0	9	0.0	11	14.8	8	3.8	12	11
12	4684 オービック	46.5	17.0	12	13.9	10	0.0	11	11.4	12	4.2	10	13
	評価対象企業評価平均点	69.81	20.71		14.94		11.83		17.92		4.41		

2023年度評価項目および配点（ITサービス・ソフトウェア）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	10
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
①売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	10
②顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点
・四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか。 [終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点 できない：0点]	15
4. ESGに関連する情報の開示（29点）	配点
(1)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）が、十分に説明されていますか。	7
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか。	7
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報（人的資本などのESG情報）を統合報告書、ESG説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていますか。	15
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（6点）	配点
・事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていますか。	6

IT サービス・ソフトウェア専門部会委員

部会長	上野 真	大和証券
部会長代理	菊池 悟	SMBC 日興証券
	黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント
	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	堀 雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト (23名)

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
岩渕 啓介	岡三証券	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
大浦 裕太	第一生命保険	千葉 馨	JP モルガン証券
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	鶴尾 充伸	シティグループ証券
河内 亮	丸三証券	寺島 正	大和アセットマネジメント
菅 あずさ	水戸証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
菊池 悟	SMBC 日興証券	堀 雄介	みずほ証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	山田 陽子	三菱 UFJ 信託銀行
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント
山藤 秀明	QUICK		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

広告・メディア・エンタテインメント

1. 評価対象企業（20社）

【広告・メディア】（10社）

博報堂 DY ホールディングス、電通グループ、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、TBS ホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、KADOKAWA、東宝、東映

【エンタテインメント】（10社）

コーエーテクモホールディングス、ネクソン、オリエンタルランド、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、エイチ・アイ・エス、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミグループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	28
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	12
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは 36 名（所属先 24 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち ESG 関連を中心に項目内容・配点を見直すなどの変更があり、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 62.9 点（昨年度 62.4 点）、総合評価点の標準偏差は 11.4 点（昨年度 10.1 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア（10 社）が 60.6 点（昨年度 59.6 点）、エンタテインメント（10 社）が 65.2 点（昨年度 64.8 点）となり、両業態共にやや上昇した。なお、個社では、TBS ホールディングス（+10.1 点）およびリクルートホールディングス（+7.0 点）の上昇が目立った。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 65%（昨年度 66%）、説明会等が 67%（昨年度 68%）、フェア・ディスクロージャーが 74%（昨年度

72%)、ESG 関連が 61% (昨年度 58%)、自主的情報開示が 46% (昨年度 41%) となった。自主的情報開示は、昨年度に比べ改善したものの、40%台にとどまった。

- ④ 評価項目について見ると、平均得点率が 80%以上となった項目は、次のフェア・ディスクロージャーの中の 1 項目であった (昨年度は 80%以上の項目はなし)。

- ・ 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」(平均得点率 80% [昨年度 77%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)) : 50%台 1 社・60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 9 社・90%台 3 社)

- ⑤ 一方、次の自主的情報開示の項目は、昨年度に比べ平均得点率が改善したものの、引き続き最も低い水準となった。

- ・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会 (IR デーや記者発表会等を含む) を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」(平均得点率 46% [昨年度 41%]) (得点率 : 20%台 2 社・30%台 5 社・40%台 7 社・50%台 3 社・60%台 1 社・70%台 2 社)

- ⑥ ESG 関連の 4 項目 ((c) は本年度の新設項目) は、次のとおりとなり、いずれも 60%台であった。各項目共に、上位評価企業と下位との差が大きい状況が見られる。

- (a) 「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」(平均得点率 60% [昨年度 59%]) (得点率 : 20%台 1 社・30%台 1 社・40%台 3 社・50%台 7 社・70%台 7 社・80%台 1 社)

- (b) 「価値創造プロセスおよび経営の重要課題 (マテリアリティ) の設定が行われ、開示されていますか」(平均得点率 62% [昨年度 58%]) (得点率 : 30%台 1 社・40%台 5 社・50%台 3 社・60%台 4 社・70%台 1 社・80%台 4 社・90%台 2 社)

- (c) 「環境保全に関する情報、社会に関する情報、人的資本に関する情報について、積極的に開示していますか」(平均得点率 63%) (得点率 : 20%台 1 社・40%台 2 社・50%台 7 社・60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 2 社・90%台 1 社)

- (d) 「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか」(平均得点率 60% [昨年度 55%]) (得点率 : 30%台 1 社・40%台 5 社・50%台 3 社・60%台 6 社・70%台 3 社・80%台 2 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 リクルートホールディングス (ディスクロージャー優良企業 [2 回目])、

総合評価点 77.0 点 [昨年度比+7.0 点]、昨年度第 8 位)

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位 (得点率 (以下省略) 87%)、自主的情報開示が第 3 位 (68%)、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位 (76%)、説明会等が同得点第 5 位 (73%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 14 位 (71%) となった。昨年度に比べ、4 分野において得点率が改善し、特に、ESG 関連の伸びが大きかった。

- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、2 項目共に、昨年度に比べ得点率が改善し、特に、「IR 部門の機能・基本スタンス」は 20 ポイント以上の上昇となった。これらの結果、この分野において第 4 位 (昨年度第 13 位) となった。これらに関連して、説明会などにおいて経営トップが自らの言葉で説明、回答する機会が増えたとの声が寄せられたほか、決算説明会や ESG カンファレンスの場に担当役員が出席し説明していることを評価する声があった。IR 部門については、専門性が高く、有益なディスカッションができるとの声や、個別取材への対応を評価する声が寄せられた。

- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」(第 5 位) および「説明資料等 (短信およびその付属資料を含む) における開示」(同得点第 10 位) は共に、昨年度と同程度の得点率となった。これらに関連して、HR テクノロジー領域を中心に、説明内容が質・量ともに充実してきているとの声や、説明会後のスモールミーティング開催およびその内容の適時の開示を評価する声が寄せられた。なお、Indeed に関するデー

タが不足しているとの声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、2項目共に、昨年度に比べ得点率が改善したものの、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第15位）は、平均得点率に達しなかった。これらに関連して、IRへのアクセスが改善された点を評価する声があった。一方で、国内M&S事業に関する開示が不十分であるとの声や、会社側が面談する投資家を選別しているとの声もあった。
- ⑤ **ESG関連**においては、4項目のうち3項目が最も高い評価となった。「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていること」（第2位）についても90%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、ESGデータやレポートで関連数値や取組みなどが詳細に示されているとの声や、ESGに特化したセッションを定期的開催していることを評価する声が寄せられた。また、統合報告書の内容の充実を評価する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」（第3位）は、昨年度に比べ得点率が改善した。充実していたイベントとして、ESG Fireside Chat（座談会）を挙げる声が多かった。また、定期的な経営方針説明会を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 セガサミーホールディングス（総合評価点 76.5点〔昨年度比-0.7点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（80%）、**説明会等**（83%）が第1位、**ESG関連**が第3位（79%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第4位（80%）、**自主的情報開示**が第6位（50%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**の得点率が下がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」および「IR部門の機能、基本スタンス」が共に最も高い評価（同得点第1位を含む）となった結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営トップは市場との対話に積極的に取り組んでおり、投資家やアナリストの意見を吸い上げようという意識があるとの声が寄せられた。また、IR部門の専門性が高く、ディスカッションが有益であるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が最も高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」もトップと僅差の第2位となった。これらに関連して、決算説明会資料等の内容は質・量共に充実しているとの声が寄せられ、ゲームソフトの新作・旧作の売上高の開示を評価する声もあった。なお、IR部門からのさらなる情報提供を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第2位）および「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第6位）が共に、昨年度に比べ得点率を改善した。これらに関連して、説明会の動画配信、質疑応答の開示、個人投資家向けサイトを評価する声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」が、トップと僅差の第2位となった。また、「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示していること」（第3位）および「環境保全に関する情報、社会に関する情報、人的資本に関する情報について、積極的に開示していること」（第3位）は共に、80%以上の得点率となった。これらに関連して、統合レポートの内容が充実しており、同レポートを通じてESG情報の開示に積極的に取り組んでいるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」（第6位）は、昨年度に比べ得点率が下がった。充実していたイベントとして、遊技機工場見学会を挙げる声があった一方、マネジメントのスマールミーティングを望む声があった。

第3位 オリエンタルランド（総合評価点 75.2点〔昨年度比-2.6点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第1位（78%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（82%）、**経営陣のIR姿勢等**が同得点第5位（75%）、**ESG関連**が第7位（74%）、**説明会等**が第9位（72%）となった。昨年度に比べ、**経営陣のIR姿勢等**および**説明会等**の得点率が下がった。

- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第 4 位となり、「IR 部門の機能、基本スタンス」が第 6 位となった。これらに関連して、社長や IR 担当役員と投資家との直接面談の機会が設定されている点を評価する声がある一方、ガバナンス面において投資家の意見へのリアクションが十分でないとの声があった。また、CEO ミーティングを望む声があった。IR 部門については、情報の集約に努めており、有益なディスカッションができるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」(第 6 位) および「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」(同得点第 10 位) は共に、昨年度に比べ得点率が下がった。これらに関連して、取材への対応や説明会での質疑応答を評価する声が寄せられた一方、会社計画の前提の説明が不十分であるとの声や、四半期毎の入園者数などのデータの開示を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 2 位) が、90%以上の得点率となった。また、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 2 位) も、昨年度に比べ得点率を改善した。これらに関連して、IR 担当者間で情報開示のラインが共有されており、公平さを意識した IR 対応がなされているとの声のほか、説明会の音声配信や質疑応答の開示を評価する声があった。なお、決算発表後に月次動向をヒアリングできる点を評価する声がある一方で、月次情報の開示を望む声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」が同得点第 3 位となった。これに関連して、初めての統合報告書の発行を評価する声が寄せられた。「価値創造プロセスおよび経営の重要課題(マテリアリティ)の設定が行われ、開示されていること」(同得点第 4 位) は 80%以上の得点率となった。これに関連して、ESG の取組みの軸を従業員に向けた点を評価する声とともに、具体的な目標の設定などを望む声があった。なお、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」は第 11 位となった。これに関連して、社外取締役の選任基準等についての十分な説明を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会(IR デーや記者発表会等を含む)を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は最も高い評価となった。これに関連して、施設見学会が有益との声が多数寄せられ、見学会の定期的な開催により、エリア開発の状況がアップデートできるとの声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

- **TBS ホールディングス(ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 72.4 点[昨年度比+10.1 点、一昨年度比+13.7 点]、第 7 位[昨年度第 11 位、一昨年度第 15 位])**
 - ① 同社は、自主的情報開示が第 2 位(74%)、経営陣の IR 姿勢等(72%)、フェア・ディスクロージャー(79%) が第 7 位、ESG 関連が第 8 位(71%)、説明会等が第 11 位(70%) となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し、特に、自主的情報開示の伸びが大きかった。
 - ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、2 項目共に、昨年度に比べ得点率が 10 ポイント程度改善した。これらに関連して、経営トップは市場との対話に積極的に取り組んでおり、市場参加者の声に耳を傾けようとする姿勢が見られるとの声が寄せられた。また、IR 部門の機能については、ここ数年向上しており、建設的なディスカッションや意見交換ができるとの声があった。
 - ③ **説明会等**においては、「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」(同得点第 6 位) が、昨年度に比べ得点率を 10 ポイント以上改善した。これに関連して、説明会資料は四半期ごとの KPI も掲載されており、有用であるとの声や、説明会の質疑応答では有意義な回答が得られるようになったとの声が寄せられた。なお、資本効率向上への道筋をより具体的に説明することを望む声があった。
 - ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 4 位) が、85%以上の得点率となった。また、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 8 位) も、昨年度に比べ得点率を改善した。
 - ⑤ **ESG 関連**においては、「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」が第 7 位となった。これに関連して、統合報告書に ESG 関連のデータがまとまっており、わかりやすいとの声があった。なお、政策保有株式売却や株主還元方針の説明を評価しつつ、さらなる説明強化が課題との声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は得点率が大きく改善し、第2位となった。これに関連し、赤坂本社、新スタジオの見学会や、社長スモールミーティングを評価する声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (広告・メディア・エンタテインメント)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR専門の機能、IR の基本スタンス 評価項目2 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目2 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点10点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目4 (配点28点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点12点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6098 リクルートホールディングス	77.0	22.9	4	14.5	5	7.1	14	24.4	1	8.1	3	8
2	6460 セガサミーホールディングス	76.5	24.0	1	16.5	1	8.0	4	22.0	3	6.0	6	2
3	4661 オリエンタルランド	75.2	22.6	5	14.3	9	8.2	2	20.7	7	9.4	1	1
4	2433 博報堂DYホールディングス	74.6	23.0	3	16.2	2	8.2	2	22.3	2	4.9	13	7
5	9697 カブコン	73.0	23.1	2	16.0	3	7.8	8	20.8	5	5.3	11	4
6	7832 バンダイナムコホールディングス	72.5	21.4	8	14.4	8	8.0	4	21.9	4	6.8	4	3
7	9401 TBSホールディングス	72.4	21.7	7	14.0	11	7.9	7	19.9	8	8.9	2	11
8	4324 電通グループ	70.8	22.6	5	13.8	12	8.0	4	20.8	5	5.6	9	5
9	3635 コーエーテックホールディングス	66.1	21.1	9	15.0	4	7.1	14	17.4	9	5.5	10	10
10	9468 KADOKAWA	66.0	21.0	10	14.2	10	7.4	12	17.1	10	6.3	5	9
11	7974 任天堂	64.7	20.7	11	14.5	5	7.6	9	16.0	12	5.9	7	6
12	9766 コナミグループ	61.0	18.7	13	13.2	13	7.1	14	16.2	11	5.8	8	14
13	3659 ネクソン	60.3	19.9	12	14.5	5	7.0	17	13.6	16	5.3	11	12
14	9404 日本テレビホールディングス	53.8	16.0	16	12.0	15	7.6	9	13.7	15	4.5	14	16
15	4676 フジ・メディア・ホールディングス	52.1	16.0	16	11.6	16	7.3	13	13.2	17	4.0	17	22
16	9603 エイチ・アイ・エス	52.0	14.1	20	12.1	14	8.3	1	14.3	13	3.2	19	15
17	9409 テレビ朝日ホールディングス	51.9	16.0	16	11.6	16	7.5	11	12.6	18	4.2	15	19
18	9684 スクウェア・エニックス・ホールディングス	50.8	16.1	15	9.6	19	6.7	18	14.3	13	4.1	16	13
19	9602 東宝	48.7	16.8	14	10.2	18	6.4	19	11.5	19	3.8	18	21
20	9605 東映	38.2	14.4	19	8.2	20	4.6	20	8.0	20	3.0	20	
	評価対象企業評価平均点	62.90	19.61		13.32		7.39		17.05		5.53		

2023年度評価項目および配点（広告・メディア・エンタテインメント）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業のKPI等）の実績および見通しは、ウェブ等を活用し、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（28点）	配点
①統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	10
②価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか。	6
③環境保全に関する情報、社会に関する情報、人的資本に関する情報について、積極的に開示していますか。	6
④資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか。	6
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください（新たな追加項目で企業も関心が高い項目なので、積極的にコメントしてください）】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。【過去1年間を自安に評価】【充実していたサービスないし施設・設備・事業名をコメント欄に記入して下さい】	12

広告・メディア・エンタテインメント専門部会委員

部会長	前田 栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	城戸 謙治	アセットマネジメント One
	石原 太郎	大和証券
	大場 剛平	野村アセットマネジメント
	岸本 晃知	みずほ証券
	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	山村 淳子	シティグループ証券

評価実施アナリスト（36名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	関根 哲	大和証券
石橋 剛	三井住友 DS アセットマネジメント	寺島 正	大和アセットマネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	坂東 俊輔	東京海上アセットマネジメント
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFJ 証券	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
小野 まな実	三菱 UFJ 信託銀行	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
河内 亮	丸三証券	福井 悠香	第一生命保険
岸本 晃知	みずほ証券	宝水 裕圭里	SBI 証券
城戸 謙治	アセットマネジメント One	前田 栄二	SMBC 日興証券
栗原 智也	SBI 証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	村上 宏俊	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	森田 正司	岡三証券
佐竹 一仁	ニッセイ アセット マネジメント	安田 秀樹	東洋証券
佐藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
佐原 孝輔	丸三証券	山村 淳子	シティグループ証券
山藤 秀明	QUICK	余吾 智	大和アセットマネジメント
鈴木 崇生	大和証券	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

新興市場銘柄

1. 評価対象企業（30社）

ティーケーピー、GA Technologies、GMO フィナンシャルゲート、プラスアルファ・コンサルティング（新規）（注1）、ENECHANGE、スパイダープラス（新規）、ビジョナル、エクサウィザーズ（新規）、コアコンセプト・テクノロジー（新規）、セーフィー（新規）、ワンキャリア（新規）、スマレジ、カオナビ、ミンカブ・ジ・インフォノイド、BASE、フリー、マクアケ、JTOWER、ヘリオス、I-ne（新規）（注2）、日本電解（新規）、弁護士ドットコム、オキサイド（新規）、QD レーザ、NexTone（新規）、Macbee Planet、HYUGA PRIMARY CARE（新規）、ウェルスナビ、アイドマ・ホールディングス（新規）、ブシロード（再評価）

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注1） グロースからプライムへ市場変更した（2023年7月）。

（注2） グロースからプライムへ市場変更した（2023年9月）。

2. 対象企業の選定方法および評価方法

(1) 対象企業の選定方法

本年度における新興市場銘柄の評価対象企業は、グロース、ネクスト、Q-Board およびアンビシャスの4つの市場に上場している企業（注1）の中で、時価総額が上位（注2）であって、かつ、その企業を調査対象としているアナリストの数（注3）が一定数以上の30社（昨年度同数）とした。なお、30社のうち、継続評価企業が17社、新規評価企業が12社、再評価企業（2年以上前に評価対象としたことがある企業）が1社となっている。

（注1） アナリストへのスコアシート発送時点（本年5月下旬）で、上場後1年未満の企業は除外した。

（注2） 昨年11月末時点の時価総額を基準とした。

（注3） 本年1月に当協会が証券会社等に新興市場銘柄をカバーするアナリスト数を照会して得られた数。

(2) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	15
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	3	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		13	100

（注） 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（3） 評価実施アナリストは62名（所属先28社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち **ESG 関連**の項目内容を見直し、新規評価（12社）および再評価（1社）の企業もあるため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 68.8 点（昨年度 67.7 点）、総合評価点の標準偏差は 5.9 点（昨年度 6.4 点）であった。
- ② 総合評価点については、70 点台が 14 社（昨年度 10 社）、60 点台が 14 社（昨年度 16 社）、50 点台が 2 社（昨年度 4 社）となり、昨年度に続き 80 点台以上はなかった。
- ③ 5 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 74%（昨年度 73%）、**説明会等**が 69%（昨年度 68%）、**フェア・ディスクロージャー**が 73%（昨年度 72%）、**ESG 関連**が 59%（昨年度 58%）、**自主的情報開示**が 57%（昨年度 57%）となった。
- ④ 全 13 項目の平均得点率を見ると、最高で 77%（1 項目）、最低で 57%（2 項目）となった。最低となった 2 項目（ESG 関連の中の 1 項目 (a)、**自主的情報開示**の項目 (b)）は次のとおりであった。
 - (a) 「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか」（平均得点率 57%）（得点率（評価点/配点（以下省略））：40%台 2 社・50%台 16 社・60%台 12 社）
 - (b) 「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか」（平均得点率 57%）（得点率：40%台 7 社・50%台 8 社・60%台 11 社・70%台 4 社）
- ⑤ ESG 関連の 3 項目の平均得点率を見ると、1 項目（上記④(a)）が 50%台、次の 2 項目が共に 60%と、いずれの項目も低水準となった。
 - ・ 「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか」（平均得点率 60%）（得点率：40%台 2 社・50%台 11 社・60%台 15 社・70%台 2 社）
 - ・ 「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいますか」（平均得点率 60%）（得点率：30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 11 社・60%台 13 社・70%台 4 社）

(2) 優良企業（上位 3 企業）の評価概要

第 1 位 **スパイダープラス**（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 79.5 点）

- ① 同社（事業内容：建設業者向け建築図面・現場管理アプリ「SPIDERPLUS」の開発・販売。市場：グロース（2021 年 3 月マザーズ上場）、新規評価企業）は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）83%）、**説明会等**（86%）、**自主的情報開示**（76%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が第 2 位（82%）、**ESG 関連**が第 7 位（63%）、となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」および「IR の基本スタンス」が共に、同得点第 1 位となった。これらに関連して、経営陣と IR 部門の連携が優れていること、投資家・株主からのフィードバックを踏まえ、情報開示を改善している点を評価する声が寄せられた。また、「経営者の IR 姿勢」（同得点第 3 位）も評価された。これに関連して、四半期毎に説明会を開催しており、社長は半期に一度、CFO は毎回登壇し、経営戦略を説明している点を評価する声があった。なお、KPI の定義の説明をもう少し詳しくし、他社比較しやすいようにしてほしいとの声もあった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ③ **説明会等**においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」および「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が共に、最も高い評価となった。これらに関連して、先行投資について、生産性を高めて、今後収益を上げていくという見込みを十分に説明しているとの声があった。「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」（第 3 位）も、評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」が、同得点第 1 位となった。「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行

っていること」は、80%以上の得点率となった。

- ⑤ ESG 関連においては、「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいること」が第 4 位となった。「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」および「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明していること」は共に、平均得点率を上回った。
- ⑥ 自主的情報開示の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、最も高い評価となった。これに関連して、カバレッジアナリストとの面談内容の書き起こし文をホームページで開示していることを評価する声が寄せられた。

第 2 位 GMO フィナンシャルゲート（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点 77.3 点〔昨年度比+4.1 点〕、昨年度第 6 位〕

- ① 同社（事業内容：店舗のキャッシュレス決済端末の提供や決済処理サービスを展開。市場：グロース（2020 年 7 月マザーズ上場）、継続評価企業）は、経営陣の IR 姿勢等（83%）、ESG 関連（68%）が第 2 位、説明会等が第 4 位（79%）、自主的情報開示が同得点第 8 位（62%）、フェア・ディスクロージャーが第 9 位（79%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」が、最も高い評価となった。これに関連して、大手企業との提携関係があり、開示が難しい中で最大限の開示をしている点、社長が積極的に IR ミーティングに参加し、自身の注力分野について説明していることを評価する声が寄せられた。また、「IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」は、同得点第 4 位となった。これに関連して、経営陣と IR 部門の説明に一貫性があり、コミュニケーションがスムーズとの声があった。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」も、同得点第 4 位となった。これに関連して、自社の課題をどのように認識し、どうアクションするかを明快に示していることを評価する声があった。これらの結果、この分野において第 2 位となった。
- ③ 説明会等においては、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が、第 2 位となった。これに関連して、ロジックが明快であること、説明は十分にされていると評価する声があった。なお、中長期業績見通しの中で、足元の好調要因も説明してほしいとの声もあった。また、「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」は、80%以上の得点率となった。これに関連して、フィー売上の分析等が前回よりも説明が進んだとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」は、80%以上の得点率となった。これに関連して、英語による情報開示のタイムリー性も改善されたとの声が寄せられた。なお、データシートの開示を希望する声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明していること」および「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいること」が共に、第 3 位となった。これに関連して、株主還元方針は明瞭と評価する声があった。なお、親子上場であるため、ガバナンスのさらなる説明や、ESG 説明会の開催を希望する声が寄せられた。これらの結果、この分野においてトップと僅差の第 2 位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第 8 位となった。

第 3 位 Macbee Planet（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点 75.8 点〔昨年度比+4.3 点〕、昨年度第 8 位〕

- ① 同社（事業内容：LTV（顧客生涯価値）予測を強みにマーケティング支援を展開。市場：グロース（2020 年 3 月マザーズ上場）、継続評価企業）は、ESG 関連が第 4 位（66%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 4

位（80%）、説明会等が第5位（78%）、経営陣のIR姿勢等（79%）、自主的情報開示（64%）が同得点第6位となった。

- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」は、同得点第1位となった。これに関連して、説明会、スモールミーティング等を積極的に実施していることを評価する声があった。また、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」は、トップと僅差の第3位となった。これに関連して、課題およびその対策を開示していることを評価する声が寄せられた。一方、「IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」（同得点第16位）は、平均得点率と同程度にとどまった。
- ③ 説明会等においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」が第2位となった。これに関連して、ビジネスモデル上、完全な説明は難しいと思われるが、可能な範囲でよく説明している点の評価する声があった。「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」は、第5位となった。これに関連して、必要十分で、適切に開示されていると評価する声が寄せられた。なお、一段踏み込んだKPIの開示を希望する声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」は、同得点第3位となった。この結果、この分野においてトップと僅差の第4位（昨年度第23位）となった。
- ⑤ ESG関連においては、「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいること」が、同得点第1位となった。これに関連して、Scope2の開示を評価する声があった。また、経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明していること」は、同得点第4位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第6位となった。

上記の**スパイダープラス**、**GMO フィナンシャルゲート**、**Machee Planet**の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら3社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (新興市場銘柄)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR専門の機能、IR の基本スタンス 評価項目4 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目3 (配点25点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点15点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目3 (配点20点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点5点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4192 スパイダーブラス	79.5	29.2	1	21.6	1	12.3	2	12.6	7	3.8	1	
2	4051 GMOフィナンシャルゲート	77.3	29.0	2	19.8	4	11.8	9	13.6	2	3.1	8	6
3	7095 Macbee Planet	75.8	27.8	6	19.6	5	12.0	4	13.2	4	3.2	6	8
4	4431 スマレジ	75.7	28.4	3	19.9	3	12.7	1	11.1	23	3.6	2	2
5	3479 ティーケーピー	74.4	27.5	8	19.0	6	11.9	6	12.8	5	3.2	6	4
6	4485 JTOWER	74.0	27.3	10	18.4	10	11.5	10	13.7	1	3.1	8	13
7	4071 ブラソアルファ・コンサルティング	73.9	27.8	6	20.7	2	11.9	6	11.1	23	2.4	24	
8	4375 セーフイー	73.4	27.2	11	18.7	9	12.2	3	12.8	5	2.5	21	
9	4933 I-ne	73.2	27.4	9	18.1	12	10.8	16	13.4	3	3.5	4	
10	4169 ENECHANGE	72.8	26.7	13	18.2	11	12.0	4	12.3	10	3.6	2	5
11	7133 HYUGA PRIMARY CARE	71.8	27.0	12	18.9	7	10.9	14	11.9	14	3.1	8	
12	4377 ワンキャリア	70.9	26.4	15	18.8	8	10.8	16	11.9	14	3.0	12	
13	6521 オキサイト	70.1	27.9	5	16.1	20	10.6	20	12.5	8	3.0	12	
14	4194 ビジナル	70.0	26.4	15	18.0	13	10.9	14	12.4	9	2.3	28	15
15	4435 カオナビ	69.2	26.7	13	17.4	15	10.4	22	12.1	13	2.6	20	9
16	6027 弁護士ドットコム	69.1	24.8	21	17.8	14	11.9	6	11.6	18	3.0	12	12
17	4479 マクアケ	68.5	26.3	17	16.5	17	10.7	18	12.3	10	2.7	17	26
18	7094 NexTone	68.0	28.1	4	16.7	16	9.4	28	11.8	16	2.0	29	
19	4477 BASE	67.2	25.6	18	16.1	20	11.5	10	11.6	18	2.4	24	18
20	4478 フリー	66.3	24.5	24	16.4	18	11.2	13	11.8	16	2.4	24	17
21	7342 ウェルスナビ	65.7	24.5	24	15.7	23	11.4	12	11.4	20	2.7	17	18
22	3491 GA technologies	65.2	23.8	28	15.4	24	10.4	22	12.2	12	3.4	5	23
23	4371 コアコンセプト・テクノロジー	65.0	25.1	20	16.0	22	10.5	21	10.9	26	2.5	21	
24	7373 アイドマ・ホールディングス	64.4	24.8	21	16.2	19	9.7	26	11.3	21	2.4	24	
25	5759 日本電解	64.2	24.5	24	15.0	26	10.7	18	11.1	23	2.9	16	
26	6613 QDレーザ	63.0	25.6	18	14.0	29	10.1	24	10.3	27	3.0	12	25
27	4259 エクサウィザーズ	60.8	22.4	29	14.5	27	9.5	27	11.3	21	3.1	8	
28	4593 ヘリオス	60.1	24.8	21	13.0	30	9.8	25	10.0	28	2.5	21	28
29	7803 プシロード	58.9	24.1	27	15.2	25	8.0	30	9.6	30	2.0	29	
30	4436 ミンカブ・ジ・インフオノイド	54.1	18.0	30	14.4	28	9.0	29	10.0	28	2.7	17	7
	評価対象企業平均点	68.75	25.98		17.20		10.89		11.82		2.86		

2023年度評価項目および配点（新興市場銘柄）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。[1点～15点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)決算説明会、インタビューにおける開示	
①今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
4. ESGに関連する情報の開示（20点）	配点
(1)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。[1点～8点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)経営機構、経営資源および内部統制について	
・経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。[1点～7点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	7
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・ウェブサイトでの開示や決算説明会以外での開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアナニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか。（前年7月から本年6月までの間）[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5

新興市場銘柄専門部会委員

部会長	古島 次郎	大和証券
部会長代理	渡辺 真理子	UBS証券
	新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	新井 勝己	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	岩本 誠一郎	アセットマネジメント One
	高 祥太郎	日興アセットマネジメント
	中川 雅嗣	三菱UFJアセットマネジメント
	納 博司	いちよし経済研究所
	東田 暁	野村アセットマネジメント

評価実施アナリスト（62名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	清水 康之	QUICK
新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント	関根 哲	大和証券
姉川 俊幸	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	高 祥太郎	日興アセットマネジメント
新井 勝己	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	田村 悦子	みずほ証券
荒木 正人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	田村 真一	極東証券経済研究所
石井 孝一郎	三菱UFJ信託銀行	千葉 馨	JPモルガン証券
石橋 克彦	いちよし経済研究所	都築 伸弥	みずほ証券
伊藤 彰洋	三井住友DSアセットマネジメント	鶴尾 充伸	シティグループ証券
入沢 健	立花証券	寺島 正	大和アセットマネジメント
岩本 誠一郎	アセットマネジメント One	得永 一樹	大和証券
大浦 裕太	第一生命保険	富田 展昭	極東証券経済研究所
大澤 充周	いちよし経済研究所	中川 雅嗣	三菱UFJアセットマネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	中川 義裕	みずほ証券
大牧 実慶	立花証券	長野 義隆	三菱UFJ信託銀行
岡田 大毅	UBS証券	納 博司	いちよし経済研究所
奥村 裕介	岡三証券	西川 周作	大和証券
小澤 公樹	SBI証券	丹羽 孝一	シティグループ証券
勝木 敏徳	野村証券	長谷川 義人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	原田 大輔	QUICK
河内 亮	丸三証券	東田 暁	野村アセットマネジメント
栗原 智也	SBI証券	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
栗山 乾一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	福井 悠香	第一生命保険
古島 次郎	大和証券	藤根 靖晃	ティー・アイ・ダヴリュ
小林 亮	みずほ証券	宝水 裕圭里	SBI証券
齊藤 博之	水戸証券	松浦 勇佑	丸三証券
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	三浦 勇介	大和証券
佐竹 一仁	ニッセイアセットマネジメント	柳本 和紀	三菱UFJ信託銀行
佐藤 啓吾	ニッセイアセットマネジメント	山口 秀丸	シティグループ証券
佐野 滉介	第一生命保険	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
佐原 孝輔	丸三証券	山本 真以人	ニッセイアセットマネジメント
鮫島 豊喜	SBI証券	吉田 正夫	いちよし経済研究所

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

個人投資家向け情報提供

1. 評価対象企業（28社）

積水ハウス、麒麟ホールディングス、味の素、J. フロント リテイリング、野村不動産ホールディングス、T I S、日産化学、三井化学、スパイダープラス、積水化学工業、野村総合研究所、アステラス製薬、塩野義製薬、富士フイルムホールディングス、出光興産、J F Eホールディングス、セガサミーホールディングス、デンソー、Mac bee Planet、豊田合成、三井物産、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三井住友フィナンシャルグループ、東京海上ホールディングス、九州旅客鉄道、日本航空、日本電信電話、ソフトバンク

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価対象企業の選定

優良企業選定の評価対象企業は、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種（17業種）および新興市場銘柄についての評価結果において、各業種等の上位1割（評価対象企業の数で10で割った数（小数点第1位を切上げ））のうち、2022年7月から2023年6月までの期間において、個人投資家向け会社説明会を開催した28社とした。

(2) 評価分野の構成

評価分野	本文中の略称	評価項目(注1)数	配点
①個人投資家向け会社説明会の開催等	個人投資家向け会社説明会	5	19
②ウェブサイトにおける開示等	ウェブサイト	9	60
③事業報告書等（注2）の内容	事業報告書等	3	21
		17	100

（注1）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（注2）直近事業年度について、個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、わかりやすい解説を行っているIR関連資料（事業報告書、株主通信、アニュアルレポート、統合報告書等）の中で、会社側から提示されたいずれか1種類。

(3) 評価方法

評価項目（全17項目）のうち、個人投資家向け会社説明会の開催の有無などの6項目についての評価は、各評価対象企業にアンケート調査を実施し、その回答結果を基に配点を付した。残りの11項目の評価は、ディスクロージャー研究会「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員（14名）が行い、最終評価は両者の配点を合算して行った。

3. 評価結果

(1) 総括（「個人投資家向け情報提供における評価比較総括表」は後掲）

本年度の評価対象企業は、上記2.(1)のとおり選定しており、昨年度から相当程度入れ替わっている。また、項目内容・配点の一部を見直している。このため、昨年度（評価対象企業30社）と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は78.2点（昨年度79.2点）となった。その内訳は、評価点80点台が15社（昨年度16社）、70点台が9社（昨年度12社）、70点未満4社（昨年度2社）となった。

3つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、個人投資家向け会社説明会が76%（昨年度79%）、ウェブサイトが79%（昨年度同得点率）、事業報告書等が79%（昨年度80%）となり、個人投資家向け会社説明会および事業報告書等が昨年度をやや下回った。

(2) 評価対象企業に対するアンケート結果を基にした評価

- ① 評価対象企業へのアンケート結果を基に評価した6項目について見ると、個人投資家向け会社説明会に関しては、2022年7月から2023年6月までの1年間の平均開催回数は、3.0回（昨年度2.4回）であり、経営トップが説明を行っている企業は、対象企業28社中13社（46%）で、その割合は昨年度（47%）とほぼ同水準であった。
- ② 個人投資家向け会社説明会の内容をウェブサイトに掲載している企業は25社（89%）で、その割合は昨年度（97%）を下回った。25社の内、配布資料に加え動画または音声配信により視聴できる企業は23社（92%）で、その割合は昨年度（97%）を下回った。
- ③ ウェブサイトに関しては、独立した個人投資家向けサイトを設けている企業は28社（100%）で、その割合は昨年度（82%）に比べ大幅に上昇した。
- ④ 「各種説明会（個人投資家向け説明会を除く）の内容は、ウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できること」については、視聴できる企業が24社（86%）で、その割合は昨年度（97%）を下回った。

(3) 専門部会委員による評価

専門部会委員は、ウェブサイト等における開示内容が一般投資家に理解できるように具体的にわかりやすく説明、記載されているか、また、利用しやすいように工夫がされているかといった観点から、11項目について評価を実施した。

【個人投資家向け会社説明会】

- (a) 「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していますか」（平均得点率75%〔昨年度76%〕）（参考）個人投資家向け会社説明会の内容がウェブサイトに掲載されている企業（25社）のみの平均得点率81%〔昨年度78%〕

【ウェブサイト】

- (b) 「IRに関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつわかりやすく工夫されていますか」（平均得点率83%〔昨年度81%〕）
- (c) 「個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ、わかりやすく工夫されていますか。また、IR情報のメール配信サービスなどの付加サービス機能を提供していますか」（平均得点率78%〔昨年度75%〕）（参考）上記(2)③の独立した個人投資家向けサイトを設けている企業（28社）の平均得点率78%〔昨年度77%〕
- (d) 「事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率81%〔昨年度83%〕）
- (e) 「ウェブサイトに掲載されている各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）について」
 - A 「業績の動きが、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率78%〔昨年度79%〕）
 - B 「経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的にかつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率80%〔昨年度81%〕）
 - C 「ESG（人的資本、人権を含む）について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。」（平均得点率78%〔昨年度77%〕）

- (f) 「ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答（FAQ）は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等、全体的に充実し、わかりやすいですか」（平均得点率 66%〔昨年度 67%〕）

【事業報告書等】

- (g) 「全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ、理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていますか」（平均得点率 81%〔昨年度 84%〕）
- (h) 「経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESGに関する情報も含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。」（平均得点率 78%〔昨年度 80%〕）
- (i) 「業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていますか」（平均得点率 77%〔昨年度 79%〕）

(4) 上位3企業の評価概要

第1位 野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業〔4回連続4回目〕、

総合評価点 85.9点〔昨年度比-1.0点〕

- ① 同社は、ウェブサイトが第1位（得点率〈以下省略〉86%）、個人投資家向け会社説明会が第4位（89%）、事業報告書等（「統合レポート2023」）が第8位（81%）となった。
- ② 個人投資家向け会社説明会においては、評価対象企業に対するアンケート項目（全4項目）で「個人投資家向け会社説明会は、リアル（対面）形式と、オンライン形式の両方で行っていること」を除く3項目が、満点評価となったことに加え、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していること」も最も高い評価となり、この分野において第4位となった。これらに関連して、沿革から始まる会社の説明が分かりやすい。高収益を支えている共同利用型サービスの解説も簡潔・簡易で好印象との声や、事業内容・売上構成・他社比での優位性がわかりやすく説明されていたとの声が寄せられた。また、資料として動画を使用するなどの工夫がなされ、わかりやすいとの声もあった。
- ③ ウェブサイトにおいては、「経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的にかつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」が同得点第1位となり、同項目を含む「ウェブサイトに掲載されている各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）」（3項目）は最も高い評価となった。これらに関連して、強固な顧客基盤を有し、継続的な事業の多さが業界トップの利益率を示現していることがよく理解できるとの声があった。「IRに関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていること」がトップと僅差の同得点第2位となった。これに関連して、無駄な装飾がなく、実用性を重視したサイトに仕上がっている。必要な情報を探しやすいとの声が寄せられた。「ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答（FAQ）は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等、全体的に充実し、わかりやすいこと」は最も高く評価された。これに関連して、「NRIの強みについて」や「野村HDとの関係性について」など企業情報に関する質問項目が充実しているとの声や、設問に過不足なく、リンクを活用するなど、うまくできているとの声が寄せられた。
- ④ 事業報告書等においては、「経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESGに関する情報も含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていること」が同得点第5位となった。これに関連して、プロセスや取組みをしっかりと描いたうえで、詳細説明が工夫の凝らされた図表等を交えてなされているとの声があった。一方、「業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていること」（第12位）は平均得点率と同程度にとどまった。これに関連して、業績は数値データが中心で、業績動向の定性情報がやや不足している印象との声があった。

第2位 東京海上ホールディングス、総合評価点 84.7点〔昨年度比-1.5点〕

- ① 同社は、個人投資家向け会社説明会が第1位（93%）、ウェブサイトが同得点第4位（84%）、事業報告書等

（「2022 統合レポート」）が同得点第 12 位（80%）となった。

- ② **個人投資家向け会社説明会**においては、評価対象企業に対するアンケート項目（全 4 項目）が全て満点評価となったことに加え、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していること」も評価され、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、事業成長のプロセスや他業種との業績比較など様々な角度から分析されているとの声が寄せられた。また、投資家が知りたいと思う情報が専門的な知識がなくとも理解できる内容となっているとの声もあった。
- ③ **ウェブサイト**においては、「個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ、わかりやすく工夫されていますか。また、IR 情報のメール配信サービスなどの付加サービス機能を提供していること」が第 2 位、「IR に関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていること」も同得点第 2 位となり、これらの結果、この分野において同得点第 4 位となった。これらに関連して、取得したい情報にアクセスしやすいサイト設計となっていることを評価する声が寄せられた。
- ④ **事業報告書等**においては、「全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていること」（同得点第 11 位）が、平均得点率と同程度となった。これに関連して、図表で視覚的に見せる工夫がされているとの声が寄せられた。なお、情報量は豊富であるが、業績が短期間の動向を記載するにとどまっているとの声もあった。

第 3 位 味の素（ディスクロージャー優良企業 [3 回連続 3 回目]、総合評価点 84.3 点 [昨年度比 -2.0 点])

- ① 同社は、**事業報告書等**（ASV レポート（統合報告書）2022）が第 2 位（85%）、**ウェブサイト**が第 7 位（84%）、**個人投資家向け会社説明会**が第 11 位（85%）となった。
- ② **個人投資家向け会社説明会**においては、評価対象企業に対するアンケート項目（全 4 項目）のうち、3 項目が満点評価となった。また、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していること」が、高く評価された。これに関連して、自社の強み、マーケティング、スタートアップとの協業など事例豊富に戦略をわかりやすく説明しており出色の出来栄えとの声や、無形資産に焦点を当てたプレゼンテーションは興味深い内容であるとともに、味の素の技術力の高さを改めて認識させられたとの声が寄せられた。また、事業構成やビジョンが詳しく説明されているほか、プレゼンテーションに若い社員が参加し、工夫が見られるとの声もあった。
- ③ **ウェブサイト**においては、「IR に関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていること」が同得点第 2 位、「ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答（FAQ）は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等全体的に充実し、わかりやすいこと」が同得点第 4 位となった。これらに関連して、情報は豊富な中でも探しやすくわかりやすいとの声があった。また、リンクを設け、質問に対して必要な資料へアクセスできることや問い合わせ窓口に関する記載が明確に表記されており活用しやすいことを評価する声が寄せられた。
- ④ **事業報告書等**においては、「経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESG に関する情報も含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていること」が、最も高い評価となった。これに関連して、ESG の中の人財投資を ROIC 経営方針に取り入れており好印象との声や ESG 要素を踏まえながら、事業ごとに中長期的な成長プロセスを示していることを評価する声が寄せられた。

上記の評価結果のほか、業種別専門部会の評価結果も踏まえ、当専門部会において検討した結果、**野村総合研究所**および**味の素**の 2 社について、その努力と姿勢が、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認め、本年度の個人投資家向け情報提供における優良企業として選定した。

以 上

2023年度 個人投資家向け情報提供における評価比較総括表

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 個人投資家向け会社説明会の開催等 (配点 19点)		2. ウェブサイトにおける開示等 (配点 60点)		3. 事業報告書等の内容 (配点 21点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	4307 野村総合研究所	85.9	17.0	4	51.8	1	17.1	8
2	8766 東京海上ホールディングス	84.7	17.6	1	50.4	4	16.7	12
3	2802 味の素	84.3	16.2	11	50.2	7	17.9	2
	評価対象企業(28社) 評価平均点	78.20	14.43		47.28		16.49	

2023年度評価項目および配点（個人投資家向け情報提供）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 個人投資家向け会社説明会の開催等（19点）	配点
(1)過去1年間（前年7月から本年6月までの間）に個人投資家向け会社説明会を何回開催していますか。 [A.2回以上：2点、B.1回：1点]	2
(2)個人投資家向け会社説明会は、リアル（対面）形式と、オンライン形式の両方で行っていますか。 [A.両方で行った：1点、B.リアル（対面）形式のみ：0点、オンライン形式のみ：0点]	1
(3)個人投資家向け会社説明会は、経営トップが説明を行いましたか。 [A.経営トップが行った：2点、B.経営トップ以外が行った：1点]	2
(4)個人投資家向け会社説明会の内容は、ウェブサイトに掲載されて閲覧できますか。 [A.配布資料に加え動画または音声で視聴できる：4点、B.配布資料の掲載のみ：2点、C.掲載なし：0点]	4
(5)ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していますか。【個人投資家向け会社説明会に限定して評価】 [1点～10点の整数で評価。掲載なし：0点]	10
2. ウェブサイトにおける開示等（60点）	配点
(1)IRに関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていますか。 [1点～4点の整数で評価]	4
(2)個人投資家向けサイト（個人投資家の皆様等への独立したサイト）が設けられていますか。 [A.あり：1点、B.なし：0点]	1
(3)個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ、わかりやすく工夫されていますか。また、IR情報のメール配信サービスなどの付加サービス機能を提供していますか。 [1点～8点の整数で評価。個人投資家向けサイトがない場合：0点]	8
(4)事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(5)ウェブサイトに掲載されている各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）について	
A 業績の動きが、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
B 経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的に、かつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
C ESG（人的資本、人権を含む）について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(6)各種説明会（個人投資家向け会社説明会を除く）の内容はウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できますか。 [A.できる：2点、B.できない：0点]	2
(7)ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答（FAQ）は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等全体的に充実し、わかりやすいですか。 [1点～5点の整数で評価。FAQの掲載がない場合：0点]	5
3. 事業報告書等の内容（注）（21点）	配点
(1)全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていますか。 [1点～5点の整数で評価]	5
(2)経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESGに関する情報も含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(3)業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていますか。 [1点～6点の整数で評価]	6

網掛けの項目は、評価対象企業へのアンケート結果を基に評価。その他の項目は「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員が評価。

（注）直近事業年度について、個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、わかりやすい解説を行っているIR関連資料（事業報告書、株主通信、アニュアルレポート、統合報告書等）の中で、会社側から提供のあったいずれか一種類を評価対象とする。

個人投資家向け情報提供専門部会委員

部会長	東 英憲	野村證券
部会長代理	堀内 敏一	岩井コスモ証券
	岩崎 利昭	水戸証券
	宇田川 克己	いちよし証券
	大坂 隼矢	野村證券
	金森 睦美	大和証券
	小松崎 直樹	丸三証券
	澤田 遼太郎	東海東京調査センター
	柴田 光浩	大和証券
	鈴木 英之	SBI証券
	高山 裕介	SMBC日興証券
	二宮 雅之	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	降幡 剣士	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	山本 信一	岡三証券

本著作物の著作権は、公益社団法人 日本証券アナリスト協会®に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

**証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定
(2023 年度)**

2023 年 10 月発行

編集兼発行所 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 2-1
東京証券取引所ビル 5 階
<http://www.saa.or.jp>
